

(財)女性のためのアジア平和国民基金

第35回理事会

平成10年6月

FGM廃絶運動に光

アフリカの慣習 女性の性器切除



「私がアフリカに生まれてから、性器切除は拒否できない慣習です。健康被害であり、人権侵害であり、女性に対する虐待です」

会代表のヤンソン・楠沢由実（出産は難産だ。）

子とんぼはFGMが違法の慣習ではないと強調する。

FGMは「文化的理由」などから女性の外性器の一部、または全体を切除すること。対象は生後一週間の赤ちゃんや初潮前の少女から、結婚前の女性にまでわたる。女性の性器切除はポット（一九九五）と多くは消毒しないかみそりなどアフリカ、中近東、アジアの一部をいれると世界で二億三千万人の女性に実施されているという。

楠沢さんはFGMを知り、ショックを受けたのは、九五年夏に自分が

現地女性の悲痛の訴えに呼応 今も続く人権侵害

FGMの実施率はソマリアで女性の九九％、シブチでは九八％、エチオピア九〇％、ケニア六〇％（「ボスミン」ポット一九九五）と多く、アフリカ、中近東、アジアの一部をいれると世界で二億三千万人の女性に実施されているという。

楠沢さんはFGMを知り、ショックを受けたのは、九五年夏に自分が



「FGMは違法」一部地域の慣習ではない、と話すヤンソン・楠沢由実（子とんぼ）氏

支援団体に「加藤シヅエ賞」

アフリカで古くから行われている「女性性器切除（FGM）」。この廃絶を支援する「女性の性器切除と人権侵害に反対し行動する女たちの会」（東京・中目黒）が一九九八年「加藤シヅエ賞」に決まった。FGMは日本にない慣習だが、社会と男性が、女性の性を決める「象徴的な暴力」とされている。

（国保良江）

翻訳したアメリカの作家、アリス・ウォーカーのFGMをテーマにした小説「薔薇の秘密」だった。詳しく内容を知らず、同年九月、北京で開催された世界女性会議の非政府組織（NGO）フォーラムの、FGM問題を扱うアフリカの女性のワークショップに参加した。「どんな方法でもいい。廃絶に支持してくたさい」と訴えるアフリカの女性たちに楠沢さんは胸を打たれた。「女性の性器切除を廃絶するために、一に情報、二に情報なんです。私たちができることは、アフリカで廃絶のために活動する人たちの経済的に支援することです」と楠沢さん。

98.5.21. 東京

楠沢さんは九五年暮れにニューヨークで行われたFGM廃絶のためのNGOの会議に出席。帰国すると翌九六年一月に「女性性器切除廃絶に向けた月」に知人たちに呼びかけ、アフリカの女性を支援する「女性の性器切除と人権侵害に反対し行動する女たちの会」（会員三百人）を結成させた。

楠沢さんの会は最近、WHOの性器を取り外せる人体模型のキットを使って情報活動を広げているが、WHOなどの共同声明文を訳す活動もしている。

会設立当初、エチオピアのアデイスアベバにある、アフリカ二十六カ国の「女性と子どもの健康に影響を与える伝統的慣習に取り組むアフリカ開発会議（IAC）を訪ねて、廃絶を調査。その後、国内でFGMに関するビデオ「戦士の刻印」の上映や講演会の開催、アフリカから女性活動家を日本に招いて国際シンポジウムの開催などをやっている。

受審式は七月八日、東京・九段館の日本大学会館で。

捕虜問題、日英に残るトゲ

主張・解説

天皇訪問を前に再燃



英軍捕虜問題を伝える英国の新聞。日本軍に虐待された連合軍兵士の写真を大きく扱っている

元兵士団体が抗議計画 両政府、和解目指し努力

二十三日からの天皇訪欧をひかえた日英両政府が、戦争の傷をいやす難しさを痛感している。先の大戦で日本軍の捕虜になった元英軍兵士をめぐり、ブレア英首相は十三日、議会で「彼らの苦難を決して忘れてはいけない」と語り、同時に「和解」の大切さを訴えた。元捕虜の捕虜問題は、政府間ではすでに決着済みだが、元捕虜団体や英メディアが天皇訪欧にからめて、この問題にこだわる姿勢をくすしていないからだ。半世紀たつてもうさき続ける「歴史のトゲ」である。

橋本 聡
(ヨーロッパ総局)
市川 速水
(社会部)

「求めるのは公正」 捕虜訴訟で原告が主張

「私に日本に求めているのは公正」
捕虜訴訟は異彩を放つ。大戦に勝った連合国側から起こされている点、植民地支配などに関与する事実関係にある。元英軍捕虜と抑留者三六九人から七十九歳までの元英軍捕虜と抑留者三六九人は、東京地裁の意見陳述で、期せずしてまったく同じ言葉を口にした。

「彼らの感情の根っこに、国際的なルールと日本の尺度の間に生じた怒りがある。文明の成熟度がある。日本政府に対して、取り返しのつかない責任を負うべきである」と新英連・井藤団長は、個人捕虜を求めている。

戦争犯罪と加害国の賠償責任を規定したハーグ条約や捕虜の待遇を定めたジュネーブ捕虜条約に照らされないと主張している。

四月末の英下院。知日派の与党議員が「勇ましいブレア首相に対する敬意をもって和解をめざそう」と呼びかけたが、多数派の保守党議員は、三六九人の捕虜から「日本が明白な謝罪と補償をしない限り、過去は忘れられない」と反対を表明した。

捕虜訴訟は異彩を放つ。大戦に勝った連合国側から起こされている点、植民地支配などに関与する事実関係にある。元英軍捕虜と抑留者三六九人は、東京地裁の意見陳述で、期せずしてまったく同じ言葉を口にした。

「彼らの感情の根っこに、国際的なルールと日本の尺度の間に生じた怒りがある。文明の成熟度がある。日本政府に対して、取り返しのつかない責任を負うべきである」と新英連・井藤団長は、個人捕虜を求めている。

四月末の英下院。知日派の与党議員が「勇ましいブレア首相に対する敬意をもって和解をめざそう」と呼びかけたが、多数派の保守党議員は、三六九人の捕虜から「日本が明白な謝罪と補償をしない限り、過去は忘れられない」と反対を表明した。

捕虜訴訟は異彩を放つ。大戦に勝った連合国側から起こされている点、植民地支配などに関与する事実関係にある。元英軍捕虜と抑留者三六九人は、東京地裁の意見陳述で、期せずしてまったく同じ言葉を口にした。

「彼らの感情の根っこに、国際的なルールと日本の尺度の間に生じた怒りがある。文明の成熟度がある。日本政府に対して、取り返しのつかない責任を負うべきである」と新英連・井藤団長は、個人捕虜を求めている。

四月末の英下院。知日派の与党議員が「勇ましいブレア首相に対する敬意をもって和解をめざそう」と呼びかけたが、多数派の保守党議員は、三六九人の捕虜から「日本が明白な謝罪と補償をしない限り、過去は忘れられない」と反対を表明した。

捕虜訴訟は異彩を放つ。大戦に勝った連合国側から起こされている点、植民地支配などに関与する事実関係にある。元英軍捕虜と抑留者三六九人は、東京地裁の意見陳述で、期せずしてまったく同じ言葉を口にした。

「彼らの感情の根っこに、国際的なルールと日本の尺度の間に生じた怒りがある。文明の成熟度がある。日本政府に対して、取り返しのつかない責任を負うべきである」と新英連・井藤団長は、個人捕虜を求めている。

98.5.22.東京

夫恋人の暴力被害女性3割

東京都内在住の女性のうち約二割が、夫やパートナーから殴られるなどの暴力被害に遭っていることが、二十一日、都がまとめた「女性に対する暴力調査」で分かった。「だれのおかげで食べられるんだ」と言

都が初調査

われるなど精神的暴力は約五割、無理やりセックスを要求されるなどの性的暴力では、約二割の女性が被害を訴えた。調査は昨年、都民四千五百人を対象に実施し、二千八百十九人が回答した。女

性的5割
精神的2割
性的

性に対する暴力の中でも、夫やパートナーからの暴力に無言をあてた調査は、行政機関として都が初めて。身体的暴力では、「けられたり、かまれたり、げんこつで殴られた」という経験者は一四・八%、「立ち

98.5.21.東京

主婦労働の評価 30代前半で410万円

経企庁試算

男性平均給与と大差なし

三千代前半の専業主婦の労働は一人当たり年間約四百四十万円と大差ない水準で、百五十万円の賃金に相当する。

。経済企画庁が二十一日発表した「一九九六年の無償労働の賃金評価」で、統計指標に表れない主婦の家庭労働についてこんな試算結果が出た。無償労働の評価を年代別にみると、十五歳以上の女性の平均は約百七十九万円。育児、洗濯などの負担が大い二千三百四十歳の専業主婦が四百四十万円超と最も高額になっている。

上がれなくなるまで殴られたが五・二%だった。二人には面接調査を行い、たは三・一%。精神的暴 また、夫やパートナー以外からの暴力で、しつこくをわざと強いたり、捨てら電話されたり、つきまとわれたが七・七%。性的暴れたたりしたストーカー被害力では「避妊に協力しないは二五・五%、電車内での切りをうけ、離れて自店のい」が二五%「脅しや暴力強姦被害は七九・一%。暴力被害の経験女性五千人は五三・七%に上った。意に反して性的行為を強

ストーカー
4人に1人

電車内での強姦
なるとは8%超

98.5.22. 東京

「帰り遅い」と30分殴られた／夫の帰宅時間、体震える

妻への暴力 こんなになに

妻が夫から受けている暴力について実態調査をしていた東京都が二十一日、結果を発表した。本格的な調査は全国で初めてで、面接する専門家に「被害者が通ったところ、三十分間殴られた」などの実情が明らかになった。暴力は長年にわたっているケースが多く、体、心の両面で深刻な影響を及ぼしていることが分かった。

昨年十一月、夫の暴力に悩んでいた都内在住の五十二人の女性に対し、カウンセラーが個別に聞き取りをした。

殴る、けるなどの「身体的暴力」、暴言、脅しなどの「精神的暴力」を訴える人はそれぞれ九割を超え、四人に一人は、セックスを強制されるなど「性的暴力」を挙げた。口（二七％）、私に対する甘

身体的暴力では「子どもを叩く」「手足を引っかく」「後十時過ぎに帰宅し、たまたま帰る遅いだけで三十分間殴られた」など、骨折して入院した例もあった。

都が実態調査

「食事のとき『こんなもの食えるか』と怒り出すので、朝から夕食の二食を食べている。夫が帰る時間になると体が震える」「又何かあんなに怒られたら給料を辞めたい」と、被害者が挙げた。

暴力が続いた年数は、五年以上が八割以上を占めた。半数は相手と同棲している。がまんしている理由について「暴力をふるわないと妻は、やさしい人」「経済的に自立できない」「などを挙げ、問題の複雑さが浮き上がった。

Ex-kamikaze pilot helps establish peace exchange program

48.5.22.
D.Y.

By Fuyutaka Kashiwazaki,
Michiko Tachibana and
Maya Sugiura

Yomiuri Shimbun Junior Press Writers

There is a man who survived a kamikaze attack on a U.S. ship off Okinawa during World War II. His plane was shot down and he was rescued by a U.S. destroyer's crew members.

His name is Kaoru Hasegawa. He was a lieutenant, junior grade in the Imperial Japanese Navy who graduated from the Imperial Naval Academy and is now the president of Rengo, a company in Osaka.

After 50 years, he and the surviving crew members of the U.S. destroyer that shot down his plane met again. The meeting gave birth to a program in which Japanese and U.S. high school students will visit each other's country this summer to share their hopes for world peace.

The program is planned by the Japan Youth Research Institute and Navy Memorial Foundation of the United States and sponsored by The Yomiuri Shimbun.

Five students from the United States will be sent to Japan, and five from Japan will be sent to the United States. They will be joined by 20 high school students in the host country and for 20 days will participate in study tours, amity meetings and camping.

Hasegawa, 74, recently spoke with Yomiuri Junior Press writers about his wartime experience and his expectations for Japanese and U.S. youths of today.

On May 25, 1945, Hasegawa flew out of the Imperial Japanese Navy's 2nd Air Base in Miho, Tottori Prefecture, aboard a Ginga bomber. He and several other pilots were going to conduct kamikaze attacks on a fleet of U.S. battleships east of Okinawa.

Hasegawa was the commander of a squadron of 12 bombers.

When the aircraft passed over the sea off Kyushu, heavy rain began to fall and all but Hasegawa's plane returned to the base. Hasegawa had aborted kamikaze missions twice before, so he decided to "go to the

goal this time," he said.

He spotted a U.S. fleet through a rift in the clouds. He then targeted the aircraft carrier.

However, his plane came under antiaircraft fire from the warship USS West Virginia. As he tried to avoid that attack, his plane was shot down by the destroyer USS Callaghan.

Hasegawa lost consciousness and was thrown from his plane as it crashed into the

members were killed.

For many years after the war, Hasegawa wanted to know what happened during the time he was unconscious after his plane was shot down. He did not even know with whom he was floating in the sea.

Thanks to assistance from Maritime Self-Defense Force officials who attended the naval academy with Hasegawa, he was able to get into contact with retired U.S.

Navy personnel. From the U.S. war documents he was able to access, he found out details of the battle and learned about an association for survivors of the Callaghan.

In 1995, 50 years after he made the kamikaze mission, Hasegawa visited the United States. He attended a meeting held to commemorate the 50th anniversary of the Callaghan's sinking and met surviving crew members of the destroyer.

That is when he realized it was Yoshida who was rescued with him. The warrant officer died five hours after the rescue.

To show his gratitude for the U.S. military's cooperation in revealing to him what he wanted to know, Hasegawa donated \$10,000 to a U.S. Navy memorial foundation.

Kamikaze missions were conducted in the final stage of World War II by the Imperial Japanese Army and Navy as the war situation deteriorated for Japan. Aircraft were loaded with bombs, and the pilots purposefully crashed into enemy ships.

The tactic was first used in 1944 when Vice Admiral Takijiro Onishi, who was commander in chief of the 1st Air Fleet, formed the Kamikaze Special Attack Force.

According to a recent encyclopedia of the history of the Showa era (1926-1989), 3,535 military personnel had died in the suicide attacks by the end of the war.

U.S. records show that 16 naval vessels, including the Callaghan, were sunk in the attacks and that 185 vessels were damaged, according to the encyclopedia.

(The writers are high school students.)



Above: Hasegawa, second from left, with surviving crew members of the U.S. destroyer



Left: Hasegawa, center, with crew members Yoshida, left, and Koyama during the war

sea. There were two other crew members aboard the plane. Hasegawa said he has a fleeting memory of Warrant Officer Minato Yoshida swimming to him and the two of them joining hands. The third crewman, Flight Petty Officer 1st Class Shuichi Koyama, was nowhere in sight, Hasegawa said.

Despite the danger, the USS Callaghan stopped to rescue Hasegawa and Yoshida.

Hasegawa suffered serious injuries, including a broken right leg. He was taken to Guam for medical treatment.

Hasegawa felt dishonored because he failed to sink the enemy ship as a kamikaze attacker. He thought he had no reason to live and attempted suicide aboard the ship that carried him to Guam.

Two months later the Callaghan was sunk in a kamikaze attack and 48 crew

Take more pride, Hasegawa says

Yomiuri Shimbun Junior Press

Kamikaze attacks were an abnormal war strategy, former kamikaze pilot Kaoru Hasegawa says. We Junior Press writers agree with this. However, the difference between us and Hasegawa is that during the war he didn't think it was abnormal to be given an order for this kind of attack.

"For a naval officer, orders from superiors were absolute. It was natural to do one's best as soon as the orders were given," Hasegawa recalled.

But, he adds, "The pressure was quite different between the ordinary attack and the kamikaze attack. In a normal attack, success meant one would return to the base, while in a kamikaze, success meant one would die. So, when we received an

order for a kamikaze attack, we felt a special pressure. That the final moment had arrived."

It was school education in those days, nothing but militarism.

Hasegawa graduated from a middle school in Kobe and entered the Imperial Naval Academy.

Teachers at the middle school were taking the situation calmly. The academy increased the class hours for English because it was the language of the enemy.

At the Kaunimigawa Air Base in Ibaraki Prefecture, a Hollywood film was shown every Saturday," Hasegawa said.

We were surprised to hear that a military school was teaching English while the language was being pushed out of society at that time.

American people have pride in their nation. I hope Japanese students will have more pride in their country and nationality.

We may be the last generation that will be able to hear firsthand accounts of the war from people such as our grandparents. So we want to hear about Japan of those days, including the war, as much as we can.

We want to talk about what we heard from them when we meet U.S. high school students in July.

When we do this, we believe it will be important to understand that people who cannot love their own country will not be able to prosper.



Hasegawa

98.5.22. J. T.

Tojo film warps history, exchange group says

A Japan-China exchange group said Thursday that a Japanese movie about wartime Prime Minister Gen. Hideki Tojo, who was executed as a Class-A war criminal after World War II, distorts history and is unacceptable.

Hotsuki Ozaki, representative executive of the Japan-China Cultural Exchange Association, said "Pride," produced by Toei Co., distorts history and sanitizes Japan's invasion of Asia during the war.

In a statement, Ozaki said "The movie equivocally depicts the Japanese invasion of China and gives the impression the Nanjing Massacre was a mere fabrication."

"The movie cannot be accepted since it destroys trust

with Japan among Asian nations," Ozaki said.

The film about Tojo, Japan's prime minister from 1941 to 1944, is based on the sympathetic writings of Tojo's 60-year-old granddaughter. It is scheduled for release in Japan in late May.

The film has drawn criticism from various circles, including the Chinese authorities.

On May 9, a Chinese Foreign Ministry spokesman expressed shock and indignation about the film, and on May 14 a Chinese Communist Party newspaper called it a distortion of history.

Tojo was hanged in 1948 after being convicted by an international tribunal.

Japanese Right Praises Film on WWII Leader

By SONNI EFRON
TIMES STAFF WRITER

TOKYO—In a gesture likely to trigger fresh acrimony between Japan and its Asian neighbors, 27 conservative lawmakers from Japan's ruling Liberal Democratic Party earlier this month warmly endorsed a controversial new movie about Gen. Hideki Tojo, the infamous Japanese prime minister who was tried and executed as a war criminal after World War II.

Japanese and foreign critics say the feature film, "Pride: A Fateful Moment," glorifies Tojo and portrays the brutal Japanese invasion of Asia as a just campaign by Japan to liberate its oppressed Asian neighbors from Western colonial rule.

"Hideki Tojo was the chief criminal of that war of aggression," Chinese Foreign Ministry spokesman Zhu Bangzao said recently. "We feel shocked and indignant over the fact that some people in Japan produced such a movie to whitewash aggression." North Korea also condemned the film with vitriol.

Still, the guest list for the recent screening of Toei Studio's \$11-million, 161-minute epic read like a "Who's Who" of the LDP's right wing. Seven of the lawmakers—including three former Cabinet ministers and the son of one of the "Class A" war criminals executed with Tojo—held a post-screening news conference to endorse the filmmakers' view that the Tokyo war crimes trials, conducted by the Allies after Japan's surrender, were grossly unfair, a mere vehicle for imposing the victors' predetermined judgments upon the vanquished.

Lawmaker Masahiro Koga claimed that he could not say whether atrocities were committed at Nanjing, where the Chinese say 300,000 men, women and children were massacred by Japanese soldiers. "The most important thing is to recognize that there are a lot of different interpretations of history," Koga asserted.

Another LDP member, Kenzo Yoneda, 49, said the Tokyo war crimes tribunal, which concluded in 1948, should be reconvened in an unbiased, international

court. "Japan was made out to be the only villain in the war," he said, but blame should be apportioned among both the Japanese and the Allies. He and other lawmakers suggested that the U.S. firebombing of Tokyo and atomic bombing of Hiroshima and Nagasaki should also be treated as war crimes.

As for Tojo, he attempted suicide but eventually was hanged in 1948 after his conviction by an international tribunal that found him to be the architect of the brutal Japanese wartime campaign, particularly in Southeast Asia and China.

Tojo was said to have personally approved Japan's surprise bombing of Pearl Harbor and was seen as the chief force in ensuring that the Japanese joined the Axis forces, coordinating their attempts at global control with Nazi Germany and Fascist Italy.

Repeated episodes in which Japanese officials have tried to minimize or deny Japan's wartime misdeeds have outraged the Chinese, Koreans and other Asians for decades.

But beleaguered Prime Minister Ryutaro Hashimoto has taken pains to try to mend fences. Last year, he toured a war museum in Manchuria, the region of northeastern China that was once a Japanese colony, and apologized for the pain Japan had caused there.

Early this month, senior LDP official Hiromu Nonaka was sent on an unprecedented mission to Nanjing, where he expressed remorse and laid a wreath at a memorial to the massacre victims.

This act was particularly symbolic because the Japanese right claims that the victims were mostly soldiers in civilian clothing and the Chinese estimates of the death toll are vastly overstated.

But Nonaka's gesture was quickly countered on the day of the screening by LDP member Seisuke Okuno, who called the Nanjing massacre "a political creation."

This ideological rupture within Japan's ruling party is symbolic of a growing nationwide battle between liberals, who are trying to force their government to



Gen. Hideki Tojo—played by actor Masahiko Tsugawa—appears in the dock at war crimes trial in a controversial epic film.

admit and atone fully for wartime atrocities, and conservatives, who say that Japan has apologized enough for much-exaggerated misdeeds.

The conservative backlash appears to be gaining ground of late by insisting that 50 years after the war crimes trials concluded, Japan should shed its "brain-washed" and "masochistic" Allied-imposed view of history.

The chief sponsor of "Pride" was Higashi Nihon Housing Co., whose president, Isao Nakamura, has reportedly been outspoken in calling for Japan to give its children a version of their history that will reestablish national pride.

Yuko Iwanami, Tojo's granddaughter, who believes her notorious ancestor has been unfairly lumped together with Adolf Hitler and Benito Mussolini as a symbol of pure evil, has been an energetic backer

of the film.

The popular actor Masahiko Tsugawa, who starred in films by the late director Juzo Itami and now turns in a brilliantly sympathetic performance as a tormented yet unbowed, honorable and grandfatherly Tojo, also has been stumping for the movie and its ideology.

Tsugawa said charges that the film glorifies Tojo are based on a "simplistic" interpretation of a complex character. He said he is delighted by the debate and the international furor, which he called "great publicity for the movie." Toei executives say they hope to release the picture in the U.S.

But "Pride" could spark anti-Japanese prejudice among some U.S. audiences. The film's length, its schmalz, its omission of any mention of Tojo's mistreat-

ment of Allied prisoners of war and its portrayal of the American chief war crimes prosecutor as a vengeful bungler who fails to produce any real evidence against Tojo might make it a hard sell in Yankee territory.

The loudest objections to the movie, however, have come from Toei's own labor union, which organized a denunciation of "Pride" by 305 Japanese film luminaries, intellectuals, unionists and liberals.

"This movie glorifies Japan's war of invasion and exonerates Hideki Tojo," said Masayuki Kawachi, chairman of the Toei Labor Union Committee. Moreover, it is likely to trigger foreign antagonism, Kawachi said. "In the short-term, the studio could make a lot of money, but in the long run, it will be damaging," he said.

98.5.22. D.Y.

98.5.22. J.T.

One-third of women in Tokyo are victims of domestic violence

One-third of women polled in Tokyo have been physically abused by their partners at least once, and about a quarter of such women are abused repeatedly, according to a report released Thursday by the Tokyo Metropolitan Government.

The report, based on what the government described as the nation's first large-scale survey on violence against women, includes some serious cases of domestic violence.

About 1 percent of the women polled said they have been repeatedly beaten so badly that they could not stand up, while others reported that they had been threatened with knives by their partners.

"The situation must be taken seriously, considering that many women are victims of such cruel violence," said Yuko Omura of the government's citizens and cultural affairs bureau.

The metropolitan government polled 4,500 men and women in Tokyo last July and August, with about 1,500 women and 1,200 men responding.

All were asked for their opinions on violence against women, and women were asked if they had been victims of violence.

According to the report, more than half of the women said they felt that their partners abused them mentally by ignoring them or patronizing them.

One-fifth confessed that they have been sexually offended or abused, with partners not cooperating in con-

traception or threatening to force them to have sex against their will.

The survey also showed that women of various backgrounds, regardless of their age, educational level or income, have been subject to physical abuse by their partners, whose backgrounds are also diverse.

Only 15 percent of the abused women talked to others about it, while nearly 40 percent kept it secret. Six percent reported not talking about it even though they wanted to, and nearly 40 percent chose not to respond.

"A common view of domestic violence is of drunken husbands leading fast lives and beating up their wives. But the report proved that violence can happen in any family," Omura said, stressing that women should no longer be ashamed to speak out, and society should be more supportive of them.

The survey also highlighted a gap between men and women's attitudes about violence. While more than 80 percent of women considered a slap in the face to be an act that is never justified, only about 68 percent of men agreed.

On the other hand, more men than women considered groping on trains to be a violation of human rights. Four out of five surveyed women have experienced such abuse.

In response to the report, the government plans to hold discussions to draw up measures to fight violence against women. Omura said.

98.5.22. 産経

夫や恋人から「身体的」暴力

女性3人に1人

都が初の「性的」も20%超す
実態調査

東京都が、刃物を突きつける。夫や恋人から身体的暴力を受けた女性が三人に一人いる実態が二二日、東京都の調査で明らかになった。都では、潜在化しがちな「夫・パートナー」からの女性に対する暴力に对应するため、一時保護施設の開業を準備中のサポート・システム構築などを検討するとしている。

都によると、女性への暴力についての本格的な実態調査は全国で初めて。調査は昨年七月、都内に住む二一六十四歳の男女四千五百人を対象に実施。二千八百十九人（女性一千五百五十三人）から回答があった。

パートナーのいる女性千八百八十三人に尋ねたところ、三三・〇%が被害をうけている。このうち「立上り」が最も多い。ひどい暴力に「毎日を憂うつ」な気分を過ごす。生命にかかわる深刻なケースも一五・五%に上った。

また、「たれのおかげで食べられるんだ」と言われたり、何を言っても無視されるといった精神的暴力を受けた女性は五五・九%。また「暴力に協力しない」「暴力で性的行為を強要する」などの性的暴力も二〇・九%あった。こうした被害は、本人やパートナーの年齢、学歴、年収にかかわらずみられ、都では「〇〇の家で起こった」と話している。一方、被害経験のある女性五十二人への面接調査（昨年十一月実施）では、七八・七%が夫や恋人の暴力だけが原因と述べている。子供のいる四十五人のうち二十九人については、子供も暴力の被害にあっていた。被害女性の過半数は「夫に別れを告げ、離れて自活の道を歩みたい」と決意していた。しかし、経済面や子供に与える影響に不安を抱いている人が多く、助けを求めている人が多かった。

[illegible][illegible]

天皇 皇太子陛下が23日、英
國・デニマークへの公武訪問に
出席する。閣内士の關係で、そ
れぞれの主義と國策との關係も
極めて良好な状態にある。ただ
一点、宮内庁と外務省が氣にじ
てゐるのは、旧日本軍の元
英軍人捕虜が今回の訪英に
抗議行動を計画してゐるとい
はれてゐるのみだ。

も補償を求める事が出始めた。
昭和天皇の初の海外訪問（一
九一一年）の際、英國はじめて
州各國では、車列に砲が投げ付
けられたり、擲弾した木が引き
抜かれたりするなどの抗議行動
があつた。皇太子陛下を身
めする回4回目の訪英となつた
際には、おつて、いまだ味方
にあらうた動向を恐るゝとい

是れなかつた。

[illegible]

「第一の要諦は、正しく生業の
道徳をたもつにあり、故に、

「われは、この世界をどうとでも
天をな影響はない」と思われ

るが、元祖の「想」が流れの中で磨きあがった

[illegible]

は、日英西国民が相互理解

保を病むことの大切さを説いた。眞の友好・親善関係は、

「日本書紀の「天孫降臨」の物語は、天照大神が天岩戸に隠れてしまったのを、天孫が天岩戸の前で歌舞を奏し、天照大神が天岩戸から出て来られたという物語である。この物語は、天孫降臨の物語である。」

形成される。

- 31 -

過去清算、改めて確認

朴外相と
韓相會談

韓国大統領訪日時に

るうたで一致した。「過去」の清算の具体案は、大統
銀防目手帳に記される。
首相は、経済危機の克服
に取り組んでいる韓国を交
渉するため、新たに日本輸
出入銀行の融資を行い考え
を伝へ、林外相は感謝を表
した。この融資は輸出促進
のため韓国側から要請があ
る。

日韓新漁業協定交渉につ
いては、金大統領の防目手
帳に記されるうたを申し上

一方、小瀬外相との会談では、四國間に安條保証の枠組みを協議。初会合を六月二十六日ドソウルで開くことと合意した。四國の外務省、防衛庁の局長クラスがメンバーとなる。

小瀬外相は朝鮮半島から

天皇写真掲載で
英紙に外務省抗議
「露報招いたと断言」
外務省の沼田典昭外務報
道官は二百の記者会見
で「三百枚の英紙インディ
ペンサント日曜版が、勅英
を掲げた天皇陛下の写真を
露報向失敬とて日曜朝三

大正十一年の「過失」

相会談またに種々全圖を解
くより留。外相は其時

林野行政の発展

經濟、文化、國際問題など

を約束した。

國を愛する者は、國を愛する者である。

西國の實情なる地方の有り
方を盛り込んだ「目録新ハ

從妻恩の義理で元

天皇陛下を會む四人の写真

トナーシップを策定す

た韓国側が、支給に反発し

日本國の抗議に対し、イ

だが、双方の陣は固まらな

十一日 晴 大風 午後一時

かつた。

一日、キム・プレッチャー

2

と書面を提出した。書面は

二天幕を下を和州者と開列

わがぢやない。馬鹿をいふ

「さうして申すに、」

'악화한 한일관계' 숨통 텃다

우리측 漁撈 자율규제-日 위안부 '성의' 약속 주목

도쿄 양국 외무회담

22일 열린 박정수(朴定濬)외교통상 장관과 오부치 게이조(小淵恵三)일본 외무장관의 회담은 김영삼(金泳三)정부 시절 악화했던 한일관계를 개선하는 계기를 마련했다는 데서 의미를 찾을 수 있다.

양국 외무장관은 회담에서 을기을 김대중(金大中)대통령의 방일 견까지 양일간 현안을 최대한 타결해 나가기로 했다. 특히 김대중령의 방일을 제

기로 「21세기를 향한 파트너십」공동 선언을 채택키로 합의한 것이 새 한일관계 구축에 대한 전망을 밝게 하고 있다.

우선 한일어업협상의 경우 한국측이 지난 1월 이후 중단된 조업자율규제의 재개를 공정적으로 검토키로 한 대신 일본측은 한국어민들의 기존 조업실적을 인정하는 쪽으로 의견을 모아 교착상태에 빠져 있는 어업협정 개정 실무교섭의 숨통을 텃다.

그러나 한편으로는 양국간에 전쟁

대법원까지 치달았던 어업협상 문제에서 우리측이 조업자율규제 재개 의사를 밝힌 것은 김대중령의 방일에 앞서 현안타결에 급급한 나머지 섣불리 양보한 것이라는 비판도 나오고 있다.

군대위안부 문제에 있어서는 박정수 외무장관의 진정한 사과와 반성을 촉구한 데 대해 오부치장관은 성의있던 자세로 도둑해 나간 것을 인정했다. 양국 관계 개선의 실질적인 진전이 있으려면 이 문제에 대한 일본측의

가시적 조치가 있어야 할 것 같다.

양국 국장급 외무·국방관계자가 참여하는 「한일 안보정책협의회」를 정해 화하기로 한 것도 양국관계 정상화에 긍정적인 기능을 할 것으로 보인다. 한일간에는 그간 국방관계자들의 정례적인 회동체널이 없어 안보차원에서 상호신뢰를 쌓는데 애로를 겪어 왔다.

이날 회담의 또 하나의 성과라면 한일 현안들을 양국 정부 차원의 노력만으로 풀기는 어려우며 교류 확대를 통한 상호 신뢰회복이 필수적이라는 데 양국 외무장관이 인식을 같이했다는 점일 것이다. /도쿄=윤승홍기자

韓国日報 5月23日(土) 4面

<見出し> '悪化した韓日関係'

我々側 漁撈 自律規定-日 慰安婦 '誠意'約束 注目

東京 両国外務会談

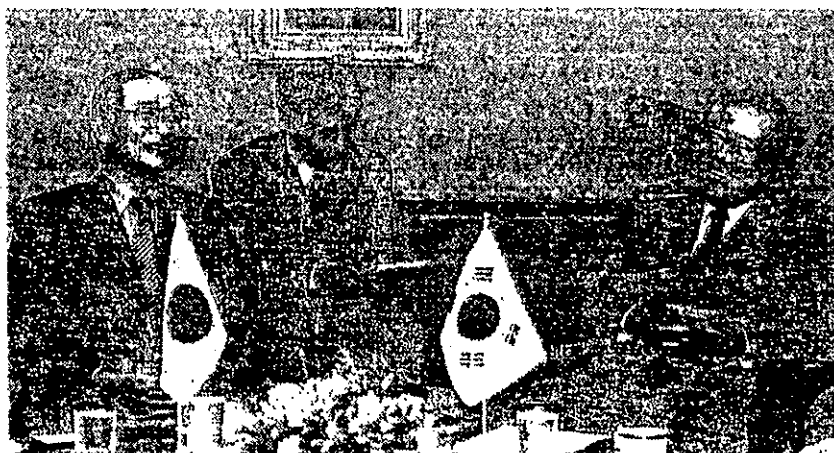
<要旨>。22日に開かれた 朴定濬 外交通商部長官 と 小淵恵三 日本外務大臣の会談は、金泳三 政府時代、悪化した韓日関係と改善する環境を整えたといふことに意味を見い出すことが出来る。

- 両国の外務大臣は会談で、秋の金大中大統領訪日前までに 韓日間の懸案とできる限り打決していくことには、時に、金大統領の訪日を契機に「21世紀へ向かうパートナーシップ」共同宣言を採択することで合意した。新しい韓日関係の構築に対する展望を明らかにしている。

① 軍隊慰安婦問題においては、朴長官が日本側の真のあやび(謝罪)と反省を促すのに対し、小淵大臣は 誠意ある姿勢で努力していくことと約束して、両国関係改善の象徴的な進展があれど、この問題に対する日本側の可視的(可視)措置がなければならぬものと思われる。

- この会談の もう一つの 成果 といえは、韓日の懸案と両国の政府次元の努力に付て解決するのは難か、交流の拡大を通じた相互の信頼回復が 必須であるといふことに 両国の外務大臣が 認識を同じにしたという点 がある。

◇朴長官と経団連会長
日本を訪問中の朴定洙長官
が22日、日本経団連 豊田
会長に会い話を交わして
いる。【AP】



朝鮮日報 5月23日(土) 2面

〈見出し〉“金大統領訪日前まで”に
漁協一過去史問題 打決”
韓日外務会談

- 〈要旨〉・韓国と日本は来る秋、10月の金大中大統領の訪日の際、
両外務大臣が両国の 24年からの関係を包括的に規定する
“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言するに
て合意した。
- ・日本を訪問中の朴定洙(ハク・ジョンス)外交通商部長官は、
22日、夜、小淵恵三外務大臣との会談でこのように
合意し、漁業協定や過去史問題(北の両国の懸念を
金大統領の訪日前までに打決すること)に合意、
李洛鐘 スポーツスマン バイスに
- ・両国の外務大臣は 両国首脳が発表する共同宣言文に、
▶両国関係の基本認識 ▶経済協力 ▶安全保障
▶各種の交流活性化 ▶軍縮環境等 国際問題
についての共同対応等を盛り込むことになった。
- ・朴長官はこれに先立ち、橋本龍太郎総理と礼訪、
さらに竹下登日韓議員連盟会長や堀内光雄
通産大臣、豊田章一郎経団連会長等と接触した。

“金大統領訪日 前まで”

漁協一過去史問題 打決”

韓日外務会談

【東京一社通信】 朴定洙長官は22日、小淵恵三外務大臣と会談した。会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

朴長官は、小淵外相と会談後、記者団と会談し、会談の概要を述べた。朴長官は、小淵外相と会談で、両国は24年からの関係を包括的に規定する“21世紀へ向かう新パートナーシップ”を共同宣言することに合意した。

金대통령 가을 방일前 韓日어업협정 개정키로

어제 의무회담 합의

【도쿄=윤승웅기자】 일본을 공식방문 중인 박정수(朴正洙)외교통상장관은 22일 오후 오부치 게이조(小淵惠三)일본 외무장관과 회담을 갖고 올 가을 김대중(金大中)대통령 방일때 양국관계에 대한 기본인식과 경제·안보면에서의 긴밀한 협력방안 등을 담은 「21세기를 향한 파트너십 공동선언」(가칭)을 채택키로 했다. ★관련기사 4면

박장관과 오부치 장관은 이를 위해 한일어업협정 개정문제를 김대중 대통령의 방일에 앞서 타결짓기로 합의했다.

양국 외무장관은 또 군사적 측면에서의 신뢰구축과 투명성 제고를 위해 양측의 국방장관·외무·국방 관계자 2명씩이 참여하는 「한일 안보정책협의회」 1차회의를 내달 26일 서울에서 개최키로 했다.

회담에서 박장관은 오부치장관이 지난 1월 일본의 어업협정 파기후 한 국정부가 취한 조업자율규제 중단 조치의 원상회복을 요청한데 대해 일본

측의 성의있는 자세를 전제로 긍정적인 반응을 보인 뒤 상호주의 차원에서 한국 어민들의 기존 조업실적 보장을 요구했다.

박장관은 또 군대위안부문제 등 양국 과거사 청산은 일본정부의 진정한 사과와 반성의 토대 위에서만 가능하다는 입장을 전달하고, 이를 위한 일본정부의 가시적 노력을 촉구했다.

〈見出し〉金大統領の秋訪日前、
韓日漁業協定 改定することに

昨日、外務会談で合意

〈要旨〉日本と公式訪問中の朴正洙

(バフ・ソンス) 外交通商省長官が 22日

午後、小淵惠三 日本外務大臣と会談し、

秋の金大中大統領訪日の際、両国

関係についての基本認識と経済・安保

面での緊密な協力の方策等を盛り込んだ

「21世紀新パートナーシップ」

(仮称)を採択することにした。

● 両外務大臣はこの日の韓日漁業協定

改定問題を金大統領訪日の前に先立

ち決定することに合意。また、両国の局長級

外務・国防関係者2名ずつが参加する

「韓日安保政策対話委員会」1次会談を

来月26日、ソウルで開催することに決めた。

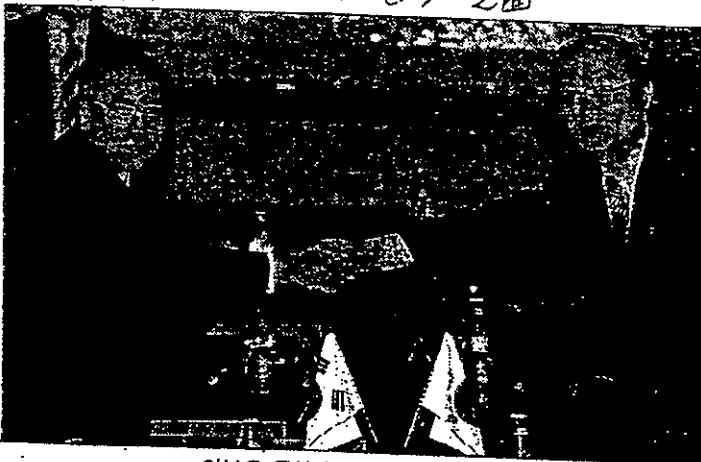
◎ 朴長官はまた、軍隊慰安婦問題等

両国の通玉の歴史の清算は、日本政府の

真のあゆみ(原文: 謝罪)と反省の土台の上で

のみ可能にという立場を伝え、このための

日本政府の可視的な努力を促した。



한일 외무회담 일본을 공식방문중인 박정수외교통상장관이 22일 오후 일본 외무성에서 오부치 게이조 외무장관과 회담을 갖기에 앞서 악수하고 있다. /도쿄=AP

韓日外務会談 日本と公式訪問中の朴正洙外交通商省長官が 22日午後、日本外務省で小淵惠三外務大臣と会談前に握手している。 /東京=AP通信

98.5.23. 日経

北朝鮮の核開発けん制

通商相「天皇訪韓は有意義」



日本経済新聞記者と会見した。金大中大統領が日本に求められている一歴史の明瞭な一歩を踏み出す。北朝鮮の核開発をけん制する。天皇訪韓は有意義。通商相は北朝鮮の動きをけん制し、思惑深い一歩を踏み出す。金大中大統領が日本に求められている一歴史の明瞭な一歩を踏み出す。北朝鮮の核開発をけん制する。天皇訪韓は有意義。通商相は北朝鮮の動きをけん制し、思惑深い一歩を踏み出す。

98.5.24. 日経

「アジアの一員」忘れずに

憲法集会 永六輔さんら訴え
「日本はアジアの一員として、アジアの平和と安定のために努力すべきである。憲法集会で永六輔さんら訴え、日本はアジアの一員として、アジアの平和と安定のために努力すべきである。」

と永さんが問い掛けた。マールセさんは以前、憲法に職務を求めた時のエピソードを紹介し、「このように、憲法は人権を保障しているのかと疑問に思う。日本にも『憲法違反』はたくさんあると訴えた。父母が朝鮮半島出身のマールセさんは約15年前に日本国籍を取得している。一方、朴さんはインドネシアの活動でもそうだが、自衛隊が海外に派遣される度にアジアの人々は驚愕に思っている」と説き、「日本に住む外国人も、障害者や高齢者もすべての人の人権が守られることが憲法の理念」と話した。フエスディバルは弁護士や市民有志が実行委員会形式で企画し、約500人が集まった。【明珍 美紀】

98.5.24. 東京

戦争被害 究明しアジアの信頼を



「日本は、アジア各国にもたらした戦争被害の真相を究明すべきだ。それが、日本と各国との信頼醸成、恒久平和に欠かせないものだ」と述べている。戦争被害の真相を究明する「恒久平和調査会」を国会図書館に置くため、超党派議員連盟の結成に尽力している。衆議で予算を伴う法案提出に必要な五十一人以上の参加が目標。早ければ、今国会への国会図書館法改正案の提出を目指す。調査会は、一九三二年九月から四五年九月までの間に、政府や旧陸海軍が関与した強制連行、従軍慰安婦などの実態を調査する。関係行政機関は資料提出に応じなければならないなど、実態究明に向けた強い権限が与えられる。

「恒久平和調査会」設置へ
尽力する民主党若手議員
田中 甲氏(41)

弁護士ネットの広がりを

被害性



犯罪に巻き込まれ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

でも弁護士ネットの役割は大きい。

東京で四月に開かれたネットの設立総会では、切迫した問題が取り上げられた。

一般化する安全な生活環境を確保する。被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

また、被害者の権利が保障される。

被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

でも、被害者は被害を受けている。

被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

性被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。この数年、民間の相談窓口が各地で設けられ、被害を受けた人々を支援する動きが広がっている。

その中で、弁護士ネットは情報交換を通じて活動を支え合っている。相談に来る弁護士をリストアップし、依頼があれば紹介する。また、制度の改善も求めている。

加害者の連帯保証人に等しい

深夜の報道番組で、

「事件を見るアツシの」

女性について特集があった。

「アツシ」は女性で、日本

で働く女性を指す。彼女

は、加害者の連帯保証人

に等しい。

その中で、弁護士ネット

は情報交換を通じて活動

を支え合っている。相談

に来る弁護士をリストア

ップし、依頼があれば紹

介する。また、制度の改

善も求めている。

性被害を受けた人々を

せたい。この「アツシ」

は、加害者の連帯保証人

に等しい。

その中で、弁護士ネット

は情報交換を通じて活動

を支え合っている。相談

に来る弁護士をリストア

ップし、依頼があれば紹

介する。また、制度の改

善も求めている。

性被害を受けた人々を

支援する動きが広が

っている。この数年、

民間の相談窓口が各

地で見られる。被害

る。しかし、日本の心な

き、加害者の連帯保証

人に等しい。

その中で、弁護士ネット

は情報交換を通じて活動

を支え合っている。相談

に来る弁護士をリストア

ップし、依頼があれば紹

介する。また、制度の改

善も求めている。

性被害を受けた人々を

支援する動きが広が

っている。この数年、

民間の相談窓口が各

地で見られる。被害

で、「児童虐待、児童ポ

ル」に添ったなどの処

罰及び児童虐待防止法

が、児童虐待防止法に

基づき、児童虐待防止

法が、児童虐待防止法

に基づき、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

止法が、児童虐待防

せたい。この「アツシ」

は、加害者の連帯保証人

に等しい。

その中で、弁護士ネット

は情報交換を通じて活動

を支え合っている。相談

に来る弁護士をリストア

ップし、依頼があれば紹

介する。また、制度の改

善も求めている。

性被害を受けた人々を

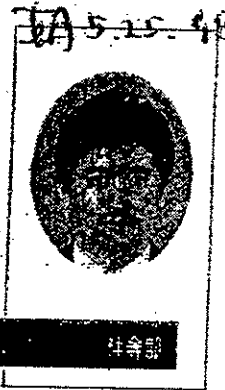
支援する動きが広が

っている。この数年、

民間の相談窓口が各

地で見られる。被害

98.5.25. 朝日.



判決を耳にして「まさか、本当。」と絶句することはあまりない。韓国人慰安婦が日本政府を相手取って起こした「慰安訴訟」がそれだった。

山口地裁下関支部で「國は國家賠償として三人に三十万円ずつ支払え」と命じる判決が先月末に出た。全面敗訴で当たり前、一部でも請求が認められるとは思っていなかった。

東京地裁で最初に韓国人元慰安婦が提訴に踏み切ったのが一九九一年末だった。フィリピンやオランダ、中国、在日韓国人の元慰安婦や強制従軍、虐待などの被害者が続き、一連の戦後補償裁判の呼び水となった。

私は当事者に共鳴して記事を書き続ける一方、暗たんたる思いも募った。法廷や国会では、國の論理が繰り返された。時刻、除斥期間、國家無責任、二國間協定の「快審」……。戦前戦中の行為に今の政府が責任を取る必要も、個人補償する必要もないという考えだ。

被害者を救うこと、法的な論理とはかみあわないのか。司法の場で救うことは無理とあきらめかけていた。

そこへの衝動だった。判決文を改めて読み返した。「おはあさんたちを何とか救いたい」という気持ちににじみ出ている印象を受けた。

「慰安婦問題はナチスの流行にも地すべき重大な人権被害」と認め、「現在においても克服すべき根絶的人権問題」と述べた。決して過去の問題ではなく、当事者が苦しむ今もなお追放状態が続いていることを強調している。

慰安婦問題など論議されている今の水準にまで、人権感覚を高めたものといえる。また、精神的に立法と司法の関係を踏み込んだのが新鮮だ。

「慰安婦判決」生かせるか

市川 連水

社会部

「基本的人権の尊重のために憲法制定民主主義が採用されたはずであり、これを保障するために裁判所に法令審査権が付与されたはずだ」と言い切った。

この判決、法律の論理構成上は疑問が多いとも聞いた。立法不作為で國の責任が問われるのは極めて限られるとする最高裁判例を踏まえ根拠が希薄ではないか、立法職務の明らかな起算点を五年前の官房長官職務の時点とすることの是非などだ。

「審でひっくり返るかもしれない」と弁護側も、同様の訴訟を抱える全國の支援者も心配する。戦争を知らない四十歳代半ばの裁判長で、しがらみの多い東京と遠く離れた地だからこそ出た判決とみる人もある。

でも、こんな判決文があってもいい。あてはめる法律がないとき國を「正義」で埋めたのだから。法相が判決翌日、裁判官が無知であるかのように批判したのは、裁判官の独立を侵すものだと思う。

判決後、私は別のショックに襲われた。原告が「三十万円なんて元金じゃない」と賠償金の少なさと謝罪請求が認められなかったことに不満を述べ、韓国の市民団体も同様の反応を示したことがあった。

「犠牲者」と「支援者」、あるいは「日本人」と「韓国人」のずれを感じる。九〇年代の大半を費やしてもミソが埋まらなかったことが、じれったい。

元慰安婦への生活支援についても、日韓は対立を深めつつある。償い金を支給している財団「女性のためのアジア平和国民基金」に對抗し、韓国政府が今月、独自に支援金を出し始めた。日本政府が法的責任を避け、基金の性格をはっきりさせないことに原因がある。

結まつた糸をほどくためには、きちんと補償できる法律をつくらなくては、政府同士が堂々と話し合える関係を築くしかない。裁判官に「立法の怠慢」を厳しく指摘された日本の国会議員には、判決全文をぜひ読んでほしい。

私の見方

「女性のためのアジア平和国民基金」の助成金事業

申請に悩む女性団体

「女性のためのアジア平和国民基金」が設立されてから三年がたった。設立当初に中心となった女性たちは、この基金（国民基金）の文書、をわすれず、事業でも九六年度から「今日の女性問題への取り組み」として、NGO支援も行っている。女性NGOへの支援のあり方も変わっていった。

「財団法人女性のためのアジア平和国民基金」（通称「国民基金」）は、民間からの募金で、政府の予算によって、事業が行われている。基金により「従軍慰労金」に代わった女性たちへの貸付金を貸すというが、拒否している元「慰安婦」の女性も多い。

そのほか、医療福祉事業、歴史の教科書とする事業、今日の女性問題への取り組み（女性問題事業）を行っている。今日の女性問題への取り組みのなかには、NGO支援も含まれ、金銭政府からの予算である。

総務府の外政課には、九八年度予算では総額四億円の予算のうち、二億八千四百万円が女性問題事業に使われる予定。運営費が残り一億六千四百万円だ。

アジア女性基金の松田瑞穂さんに「女性の権利に關する今日の女性問題への自立活動・支援事業」の概要を聞いた。

助成金は欲しいけど……

たまたま今年三月にシンポジウムを行った。◆ ◆ ◆ 神奈川県内で女性のためのシェルターを運営する前田照子さんは「シェルターを出て自立していく女性たちのための教育プログラムとして、パソコン教室などを行い、役立てた」という。

しかし、同じ神奈川県内でアジア女性のためにのシェルターを運営するサラーは、この助成金の存在は知っていたが、申請しなかった。サラーの指導者前田さんは「私はまだ元慰安婦の女性たちに国民基金でなく政府の国家賠償を求めることがしたいと思うから、同じ基金が出す助成金は申請するつもりはない。経済状況は大変で、助成金は喉から手が出るほどほしいが」という。

四月の後半に女性のためのアジア平和国民基金は新聞に全面広告を出し、女性の権利を主張し、女性の自立活動を行う女性たちの声を掲載した。他方、元慰安婦への償いのことは承知して助成金を得た二つの女性

是非とも必要だ。しかし、元「慰安婦」の女性たちに民間からの基金を支援することに反対の団体は、同じ財団からの助成金が金銭政府予算なのに申請できないという。

アジア女性基金ネットワークの船橋祥子さんは「国内外から批判の強かったアジア女性基金から、女性の権利のための事業に助成金を出すことは問題を引き起こす恐れがある。日本と韓国間の女性運動の連携にとっても重要な人権事業を支援するならば、きちんと筋の通った形で男女共同参画法から支援を行ってほしい」と話す。（赤江千枝子）

4月21日朝日新聞に載った女性のためのアジア平和国民基金の広告。「今日の女性問題」に關する女性たちの声がのっている

南京大屠殺記念館を訪問

【南京24日「清水勝彦」】「南京大屠殺記念館」を参
訪した村山前首相は、日中友好協会（平
山郁夫会長）が導いてきた。南京大屠殺
は初めて南京を訪れ、南京大屠殺犠牲
者の三周年



24日、南京大屠殺記念館で訪問
する村山前首相と清水勝彦

記念館中庭に開闢として参
加した。日本軍による犠牲者数は
三十万人と大書した記念館
には、殺戮された人骨をそ
のまま展示したコーナーも
ある。屠殺地のひとつに造
てられた敷地内からは最
近、新たに人骨が見つか
った。犠牲者に黙花した後、
一時間にわたって参観した
村山前首相は「三年前、現
職首相の時（日中戦争の引
き金になった）盧溝橋を初
めて訪れて以来、南京を訪
問したかった。是るに堪え
ない残虐行為は何ともいえ
ない記憶だ。こうした歴
史をかみと、二度と違
ちを繰り返さないよう改め
て決意を述べた」と語った。
二十五日には北京で李
金鐘人民代表大會（全人
代）常務委員長と会見す
る。

南京城壁修復
着手から30年
記念式典開催

【南京24日「清水勝彦」】

中友好協会（平山郁夫会
長）の呼びかけで始まった
南京城壁修復事業が二十四
日に三周年を迎え、訪中し
た百人と南京の青年の三百
人が記念式典を行った。
戦後五十年を機に開催さ
れたこの日中の共同事業に
より、明の時代に遡られ破
壊のひどい城壁二十一もの
うち、半分の約十ものがす
でに修復された。日本からは
七千五百の奉金が集まり、
二万人の日本人が人気が高
まりを博した。修繕旅行の
コースとする高校も出てい
る。

98. 5. 25. D. Y. Murayama visits Nanjing museum

NANJING (Kyodo)—Former Prime Minister Tomichi Murayama called on his compatriots Sunday to face up to the Chinese people's pains inflicted by the 1937 Nanjing Massacre and other acts of aggression by the Imperial Japanese Army.

"I think we must gravely face the fact that Japanese forces' aggression in the past inflicted numerous damage and pains on the peoples of China and other Asian countries," Murayama, 74, said during a visit to the Nanjing Massacre Memorial Museum.

"We must learn from history," he told reporters after viewing displays in the museum, including remains of victims who perished in the massacre and pictures of Japanese soldiers' abuse of Chinese people.

A Chinese reporter asked Murayama his opinion about a new Japanese movie "Pride, the Fateful Moment," which depicts wartime Prime Minister Gen. Hideki Tojo in a sympathetic light.

Murayama, declining to comment directly on the movie, said, "I cannot deny that some, among the numerous Japanese people, have erroneous views about the war and history. But the Japanese people's conscience would not tolerate them."

On Friday, demonstrators at a rally in Nanjing slammed the film as a distortion of history. On May 9, a Chinese Foreign Ministry spokesman expressed shock and indignation, saying the film is "aimed at whitewashing (Japanese) aggression."

Tojo was executed after being convicted as a Class-A war criminal by the Tokyo War Crimes Tribunal.

Murayama, a member of the Social Democratic Party, is the first incumbent or former Japanese prime minister to visit Nanjing after the end of the 1937-1945 Sino-Japanese War.

Japanese troops slaughtered hundreds of thousands of people in Nanjing during the Imperial Army's six-week rampage following the city's fall on Dec. 13, 1937.

According to the war tribunal, the massacre claimed more than 140,000 Chinese civilians and prisoners of war, making it the worst atrocity committed by Japanese forces before and during World War II.

Some Chinese historians, however, put the death toll at 300,000.

While Japanese accounts vary from several thousand to 200,000 dead, some conservative politicians have said the mass killings never took place.

98. 5. 25. 朝日

社 説

외교 「成果에 급급」 없도록

현 정부의 우방외교 전략은 포괄적 협상(package deal)을 특징으로 하고 있다. 전반적인 큰 그림 없이 현안이 발생할 때마다 협상을 하면 과거방식을 지양하고, 커다란 전략적 틀을 사전에 만들어 놓고 그 속에서 개별사안을 협상하겠다는 것이다. 이에 따라 정부는 오는 6월의 김대중 대통령 미국방문이 정치, 군사, 경제, 대북정책에 걸친 양국의 포괄적 동반자 관계를 더욱 공고히 하기 위한 계기가 되도록 노력하고 있다고 밝힌다. 청와대 당국자는 「민주주의와 시장경제 병행발전」이라는 김 대통령의 철학이 미국이 추구하는 가치와 일치하기 때문에 김 대통령의 방미성과는 어느 때보다 잘 맞을 것이라고 말했다. 특히 IMF난국을 극복하기 위한 경제협력에 많은 기대를 걸고 있는 것 같다.

마침가지로 오는 10월 김대중 대통령의 일본방문에 앞서 박정수 외교통부 장관은 오부치 게이조(小淵惠三) 일본 외상과 만나 양국 정상회담이 열리는 자리에서 향후 한-일관계를 포괄적으로 규정하는 「21세기를 향한 새로운 파트너십」을 공동선언하기로 합의했다. 이를 통해서 경제, 안보협력과 각종 교류를 활성화하고 국제문제에 공동 대응하겠다는 것이다.

이러한 외교전략은 과거보다 진일보한 것이며, 세계적인 추세와도 맞는

다. 그러나 미국은 별개로 하더라도 일본과의 관계에 있어서는 양국간 현안이 되고 있는 사안 하나하나가 민감성과 폭발성을 갖고 있다는 점에서 정부가 추진하는 포괄적 외교전략이 자칫 명분은 얻을 수 있으나 실익은 볼 수 없다는 점을 우려하지 않을 수 없다. 한-일관계를 새롭게 정립해야 한다는 것이 아무리 필요하더라도 사안별 특수성을 중시해서 매사를 단계적으로 신중하게 추진해야 한다.

이런 요청에서 정부가 김 대통령 방일 전에 어업협상과 과거사 문제를 시한에 쫓기듯 타결해야겠다는 강박관념에 사로잡히는 일은 없어야 한다. 예컨대 한-일 어업협정을 파기한 것은 일본인데도 이번 한-일 외무장관 회담에서 우리측이 먼저 일본 연안의 우리 어선들의 조업 자율규제를 긍정적으로 검토하겠다고 밝힌 것은 본말이 뒤바뀐 것이다. 아무리 이것이 자율규제 수역에서의 기존 어획고 보장을 위한 「빅 딜」 제안이라고 하더라도 선불리 우리측의 초조감만 노출시킨 것 같아 아쉽고 찜찜하다. 과거사 해결도 마찬가지다. 정신대 문제 등에서 대승적 자세를 보인 것은 그렇다 치더라도 우리가 서두르다 보면 손해는 우리만 보게 된다. 국가간 외교에서 「명(名)」 못지 않게 「실(實)」이 중요하다는 것을 정부는 인식해야 한다.

朝鮮日報 5月25日(月) 3面

〈社説〉 外交「成果に汲々と」しないよう

次頁に記.

朝鮮日報 5月25日(月) 3面 社説

見出し:外交「成果に汲々と」しないように

要旨:○現政府の友邦外交戦略は、包括的協商(package deal)を特徴としている。全般的な大まかな絵柄もなく、懸案が発生する度に協議するという過去のやり方を止揚し、大きな戦略的枠組みを事前につくっておいて、その中で個別案件を協議するというものだ。

○来る10月、金大中大統領の日本訪問に先立ち、朴定珠(パク・チョンス)外交通商部長官は、小淵恵三日本外務大臣と会談し、今後の韓日関係を包括的に規定する「21世紀新パートナーシップ」を共同宣言することで合意した。この枠組みの中で経済、安保協力及び各種交流を活性化し、国際問題で共同に対応しようということだ。

○このような外交戦略は過去より一歩進んだものであり、世界的趨勢にもみあうものだ。しかし、米国は別としても、日本との関係においては両国間の懸案となっている案件一つ一つが敏感なものであり、かつ包括性をもっているという点で、政府が推進しようとしている包括的外交戦略がややもすれば、名文を得ることはあり得ても、実益は逃してしまうかもしれないとの憂慮をもたざるを得ない。新しい韓日関係を築くことがいくら必要だとしても、案件別の特殊性を重視しつつ、万事段階的に慎重に推進していくべきである。

○政府は、金大統領訪日の前に漁業協定と過去の歴史問題を事前に妥結しなければならないと、あたかも追いたてられているかのような脅迫観念にとらわれることのないようにしなければならない。

○過去の歴史解決においても、挺身隊問題等で我々が大きな差をつけて(日本に)勝ったような姿勢を見せたのだとしても、我々が怠れば、損害は我々だけが被ることになる。国家間外交にあつては、「名」に劣らず「実」が重要だということを政府は認識すべきである。(了)

INT. HERALD TRIBUNE TUESDAY 26 MAY 1998

In Britain, Memories of Japanese Barbarity Still Rankle

By Roger Buckley and William Horsley

LONDON — The state visit to Britain by Emperor Akihito of Japan that begins Tuesday will test to the limit claims of any British-Japanese "special relationship." Politicians and diplomats may boast about the role of Japanese investment in Britain's industrial renaissance, but British public opinion has not forgotten the Pacific war.

Tony Blair and Ryutaro Hashimoto want to promote the politics of reconciliation. Mr. Hashimoto stresses Japan's contribution to British business and hopes that the two countries can "go forward together."

But Toyota and Sony factories on "greenfield" sites cannot cancel out the barbarisms of the Thai-Burma railway or Singapore's Changi jail, where thousands of British prisoners died during World War II.

The state visit is being overshadowed by those harrowing memories. Former prisoners of war of the Japanese plan to insult the emperor by turning their backs on him as he goes to Buckingham Palace. A leader of the former POWs described the decision to invest Emperor Akihito with Britain's highest order of chivalry as a "kick in the teeth" to the veterans.

A group of ex-POWs is still pressing its demand in a Tokyo court for substantial financial compensation from Japan for the physical and mental injuries suffered. The former prisoners reject the stance of their own government: that the compensation question was settled forever at the time of the San Francisco peace treaty in 1951

by the one-time payment by Japan of £76 each to survivors of the Japanese camps.

At the center of this row are Emperor Akihito and Empress Michiko. They were children when the war ended. The issue of imperial war guilt was quickly disposed of in 1945 by General Douglas MacArthur, the supreme Allied commander who took charge of Japan's occupation. His aim was to restore stability as quickly as possible. At his first meeting with Hirohito, Akihito's father, MacArthur dismissed the emperor's reported offer to take responsibility for the war and pronounced him "the first gentleman of Japan."

Japan suffered greatly after the collapse of its Asian empire. In the battlefields of the Pacific

islands, thousands of Japanese soldiers were burned alive by flamethrowers as they hid in caves. The firebombing of Tokyo was even more destructive than that of Dresden. It was followed in August 1945 by the first and only atomic bombings in history.

The Tokyo war crimes tribunal sentenced General Hideki Tojo and other wartime leaders to death. Hundreds of Japanese prison camp guards and other military personnel were executed for war crimes elsewhere in Asia.

The potential for embarrassment now is high because the emperor is constrained by the American-imposed postwar constitution, and by tradition, not to involve himself in politics. Whatever his own feelings, Emperor Akihito is unlikely to make a formal apology for the brutal treatment of the POWs.

In this combustible atmosphere, the vitriolic anti-Japanese campaign in some British newspapers has helped no one, certainly not the former prisoners. Yet it would be wrong to brush the war issues aside.

The British prison camp survivors are expressing feelings about Japan's responsibility that are widely shared in Europe and Asia. In the early postwar years, Japan paid reparations to many Asian countries, but in

recent years it has fought off the compensation claims of thousands of former "comfort women" from China, Korea and elsewhere, who were enslaved as sex workers for the Japanese imperial army.

There are other obstacles, too, including the practice of watering down the true picture of Japanese wartime atrocities in school history textbooks. The recent launch in Tokyo of a film about Tojo, extolling Japan's wartime leader as a nationalist hero, only compounds doubts about Japanese attitudes.

The emperor's state visit to Britain ought to be an occasion to celebrate a relationship that overall is in excellent shape. But more imaginative gestures are called for to settle the legacy of the past.

Japan and Britain might usefully look to an example from Europe, and copy the joint reconciliation fund recently set up by the German and Czech governments to support the victims of Nazism in their old age. Then both Britain and Japan could finally bury the past and really go forward together.

Mr. Buckley teaches history at Tokyo's International Christian University and Mr. Horsley is the BBC's European analyst. They contributed this comment to the Herald Tribune.

U.S. CONGRESSMAN'S UPHILL BATTLE

War redress urged for Japanese-Latin Americans

By MITSURU SHIMIZU

Special to The Japan Times

LOS ANGELES — The U.S. Congress in 1988 made 120,000 Japanese-Americans who had been interned in camps during World War II eligible for redress, but failed to provide for thousands of others forcibly brought over as laborers from South America.

One U.S. congressman — with the support of other members of the legislature — is spearheading a fight to rectify the exclusionary act.

On Friday, Suhai Khan, a spokesman for U.S. Rep. Tom Campbell, R-Calif., said the congressman will try to introduce a bill that would amend the Civil Liberties Act of 1988, which expires Aug. 10, to appropriate additional funds to pay redress to Japanese-Latin Americans.

Before the Japanese attack on Pearl Harbor in 1941 and during the war, 2,284 people of Japanese ancestry in Latin America were arrested and

all their assets seized. They were shipped to the United States by the U.S. and their "host" countries, stripped of their passports, incarcerated in concentration camps and labeled as illegal immigrants by the U.S. government so they could be exchanged for American citizens trapped in Asian territories controlled by Japan.

The 1988 act qualifies Japanese-Americans for redress, but because it requires recipients to have been U.S. citizens or permanent residents at the time of internment, applications filed by Japanese-Latin Americans were all rejected.

In response, three of those denied redress filed a class action suit, Mochizuki vs. the United States, in August 1996. Its settlement is being negotiated by concerned parties at the U.S. Court of Federal Claims.

Campbell attempted to tackle the issue with two different appropriations bills in



Carmen Higa Mochizuki

January and late March; neither passed. He is now working on another bill, but Khan said it has little chance to be successful because there is not enough time left.

Khan indicated that he and Campbell hope a revised bill can be passed. "Otherwise, we will have to introduce a new bill that would go into ef-

fect after the August expiration date," he said.

In addition, he said, "Right now, at least the Office of Redress Administration has money left to pay for some claims. But after the Civil Liberties Act expires, Congress would have to appropriate new money, which would be much harder to do because it would require new spending."

Three other members of Congress — U.S. Reps. Benjamin A. Gilman, R-N.Y., chairman of the International Relations Committee; Henry J. Hyde, R-Ill., chairman of the Judiciary Committee; and Bob Livingston, R-La., chairman of the Appropriations Committee — have supported Campbell's efforts, Khan said.

Time is running out since the plaintiffs in the Mochizuki suit asked Campbell to hold off on introducing his bills while negotiations toward a settlement continue, he said.

According to the Japanese Peruvian Oral History Project, a group supporting the plaintiffs, the ORA still had \$11.64 million available for redress payments as of April 30. The amount is sufficient for 573 recipients, but as of 1988 there were 1,052 Japanese-Latin Americans alive and eligible for redress.

The figure also shows ORA received 468 applications for redress between January and April, nearly half of which are from Japanese-Latin Americans.

In Los Angeles, another group supporting the lawsuit, the Campaign for Justice, is urging U.S. President Bill Clinton to settle it before the act expires.

The organization, founded

in summer 1996 by civil rights groups to support the plaintiffs, has collected 70 letters from organizations throughout the nation and was trying to arrange a personal meeting with Clinton.

"We just want the president to act on the settlement," said Ayako Hagihara, a group representative.

Last March, the organization collected 4,000 similar letters, mostly from individuals in Japan, Peru and the U.S., and traveled to Washington to submit them to the White House.

"This time we wanted to collect letters from organizations because each letter from them represents many people," Hagihara said.

In January, Clinton issued a letter to U.S. Rep. Howard L. Berman, D-Calif. — a supporter of redress for Japanese-Latin Americans — in which he agreed that the injustices suffered by Japanese-Latin Americans are no different than those suffered by interned Japanese-Americans.

"I believe that the group's situation should be addressed. My staff will be in contact with you and other concerned members to discuss appropriate legislation," Clinton said in the letter.

One of the plaintiffs, Carmen Higa Mochizuki, 65, of Los Angeles, filed a redress application to ORA twice — in 1992 and 1993 — but was denied on both occasions.

"My family — my parents, brothers, sisters and I — didn't come to the United States willingly. We were forcibly brought here," said Mochizuki, who was born in Peru. "My parents were reclamation immigrants to Peru

and lived there for 33 years. Then, suddenly we lost everything."

On Aug. 15, 1945, when the war ended, she was placed in the Crystal City internment camp in Texas, where most Japanese from South American nations were interned. She was told by a camp officer that Japan and the U.S. had agreed on a ceasefire but was never informed of the Japanese surrender.

Soon after the war ended, Mochizuki's family learned that Peru was not allowing people of the Japanese ancestry who had been shipped out of the country to re-enter.

Her parents, Kamado and Rennsuke Higa, with nowhere to go, decided to go to Japan — which they believed had won the war — and left Seattle in early December aboard a U.S. ship with 700 others from the camp.

"I saw Mount Fuji, covered with snow, for the first time. It was very beautiful and everyone assembled on the deck to see it," she said.

However, their joy didn't last long.

Upon arrival at the port of Yokosuka, Kanagawa Prefecture, on Christmas Eve in 1945, the Mochizuki family learned that Japan had surrendered unconditionally. The bearer of the news was a Japanese sifting through leftovers under the deck. The family later observed many of their fellow passengers lying on the streets and roaming for food in the devastated country.

Eight months later, when the family headed for Okinawa to settle, they found the prefecture devastated by the war and its inhabitants unfriendly. Mochizuki was en-

rolled in a local high school, although she could speak only Spanish.

"I used to nag my mother, asking her, 'Why did you have to bring us to this desolate wasteland?'" she said. "Now, when I think back to those days, I feel sad. My mother must have felt so helpless, since she was not able to explain why we were going through such suffering."

After staying in Japan — mostly in Okinawa — for 10 years, Mochizuki returned to the U.S. She depended on her brother, who had stayed on after the war and later became a citizen.

"We submitted the lawsuit because we wanted the U.S. government to understand our pain and the loss that we — and especially our parents — suffered as well as to apologize for the injustice," she said. "Although the U.S. has admitted that we were brought there for the hostage exchange, it hasn't apologized for this and doesn't treat us the same as Japanese-Americans."

Robin S. Toma, a chief attorney for Mochizuki who formerly worked at the American Civil Liberties Union and leads counsel of Campaign for Justice, said that two weeks ago, Judge Loren Smith indicated a settlement should be reached in the case.

"We believe that the act should not have been applied in such a manner that Japanese-Latin Americans are denied redress. After all, when you look at how they were brought into this country, it is ludicrous to use immigration status as the basis of denial," Toma said.

98.5.26. J.T.

元戦争捕虜問題
 元戦争捕虜問題の解決が、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。

元戦争捕虜問題

元戦争捕虜問題の解決が、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。

謝罪せぬ英国の風土 日本に謝罪求める怪

元戦争捕虜問題の解決が、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。

植民地支配忘れた?

元戦争捕虜問題の解決が、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。



昨年10月14日、インド・アムリツタルのジャリアンワラ公園で、慰霊碑に献花するエリサベス英女王夫妻（AFP時事）

罪認める言葉欲しい

元戦争捕虜問題の解決が、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。元戦争捕虜問題の解決は、戦後二十六年の経たぬうちに、日本国政府に要求されている。

98. 5. 26. 読売

국제

韓国日報 5月26日(火) 11面

She & He

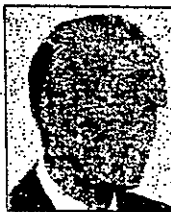
日王, 英전쟁포로에 사과거부



아키히토(明仁) 일왕은 2차세계 대전중 일제 포로 수용소에서 고통을 당한 영국군인과 시민들에 대해 사과할 수 없다고 치바 가즈오 대변인이 24일 밝혔다.

치바 대변인은 이틀간의 리스본 방문을 마치고 25일 영국 방문을 시작하는 아키히토 일왕이 이미 영국인들의 고통에 대해 「개인적인 슬픔」을 표시한 바 있다면서 일본 헌법은 일왕의 모든 정치 활동을 금지하고 있어 「개인적인 슬픔」 표시가 아키히토 일왕이 할 수 있는 최대한의 의사표현이라고 말했다. /리스본=AP

무라야마, 난징학살기념관방문



무라야마 도미이치(村山富市) 전 일본총리가 24일 중국 난징(南京)의 「난징대학살기념관」을 방문, 현화한 뒤 「지난 역사를 거울삼아 두번 다시 과오를 되풀이하지 말아야 한다는 결의를 새삼스럽게 다졌다」고 말했다. 일본 전총리로서는 처음으로 기념관을 방문한 무라야마는 약 한시간 동안 기념관을 둘러보았다. /도쿄=촬영식료파원

<見出し>

日王(注:天皇), 英戦争捕虜 お詫び(謝過)拒否

<要旨>

明仁日王(天皇)は, 第2次大戦中, 日帝(マ)の捕虜収容所で苦痛を受けた英国人と市民に対しお詫びすることは出来ないとの旨, 千葉スポーツマンが 24日, 明らかにした。

日本の憲法は日王のあらゆる政治活動を禁止しており, 「個人的な悲哀」の表明が明仁日王からできる最大限の意を表示していると述べた。

<見出し>

村山, 南京虐殺記念館訪問

<要旨>

村山富市元日本総理は, 24日, 南京の「南京大虐殺記念館」と訪問, 献花の後, 「過去の歴史を教訓とし,二度と再びあやまちを繰り返さぬ」という決意を改めて述べた。



◇2차대전중 일제 포로수용소에 갇혀 있던 영국인들이 아키히토 일왕이 도착한 25일 밤, 런던의 일본대사관 앞에서 촛불을 들고 항의시위를 벌이고 있다. 【런던=연방】

日王 영국서 '수모'

2차대전 포로출신들

“만행 속죄하라” 곳곳 시위

『일왕(日王)은 과거의 죄를 공식 사과하고 피해자들에게 보상하라.』

1971년 히로히토(裕仁) 이후 일왕으로 처음 영국 방문에 나선 아키히토(明仁·64) 일왕이 방문 첫날부터 스타일을 구졌다. 2차대전중 일본군 포로수용소에서 고통당한 영국 군인과 민간인들의 항의 시위에 부딪친 것.

나흘간 공식방문을 위해 아키히토 일왕 부부가 런던 허드로 공항에 도착한 25일 밤(현지 시각), 20여명의 포로 출신 민간인들은 런던 시내 일본대사관 밖에서 촛불을 들고 밤샘 농성을 벌였다.

이들은 「1941~1945년 일본의 전쟁포로들」이라고 쓴 띠를 두르고 자신들의 주장을 담은 전단을 시민들에게 나눠주었다. 전단에서 이들은 『아버지인 히로히토의 직접 지시하에 일본 제국주의 군대가 극동지

역에서 우리 영국인들에게 저질렀던 고문과 비인간적 죄악 등에 대해 이제는 일왕이 속죄하고 보상해야 할 시점』이라고 주장했다.

엘리자베스 2세 여왕이 영국 최고훈장 「가터」 훈장을 준비하고 공식 환영행사를 연 26일, 아키히토 일왕은 더욱 대대적인 항의시위에 곤혹스러워해야 했다.

영국 재향군인회 소속 1천여명의 전쟁포로들은 아키히토 일왕이 엘리자베스 여왕과 마차를 타고 런던 시내 버킹엄궁 앞쪽의 세인트제임스 공원 근처를 지날 때 「보기 대령 행진곡」을 휘파람으로 불러대며 시위를 벌였다. 이 행진곡은 영화 「와이강의 다리」로 일반인들에게도 익숙해진 곡. 이들중 상당수는 항의표시로 2차대전 중 받은 훈장을 버킹엄궁에 돌려주기로 했다.

일본군 수용소에 억류됐던 영국인 2만5천명중 현재 생존자는 재향군인 1만1천명과 시민 4천여명 등 모두 1만5천여명. 이들은 지난 51년 일본과

韓国日報 5月27日(水)

日王(注:天皇)英國で「受侮」
(侮辱を受ける)

2次大戦 捕虜出身者

“貴行 謝罪を”所てデモ

평화조약에서 합의한 1인당 80 파운드(약 18만원)의 보상금을 1만4천파운드(약 3천2백만원)로 증액하기 위해 현재 일본 법원에 소송을 제기한 상태다.

<李廣輝기자·ysrhee

@chosun.com>

U.K.'s dark history ignored in demand for war apology

By Mido Ikuma

Yomiuri Shimbun Correspondent

LONDON—Former British prisoners of war were expected to mark the Emperor's visit here on Tuesday with a demonstration to demand a full apology for their imprisonment in Japanese camps.

However, there has been almost no mention of an apology by Britain for the darker episodes of its colonial rule.

The Emperor and Empress began their official visit on Tuesday as part of the second leg of a three-nation European tour.

Britain was the largest colonial power before World War II and although it was responsible for many barbarous acts, such as the 1840-42 Opium War, the country has hardly offered any apologies to its former colonies. When he attended Hong Kong's handover ceremony last summer, Prince Charles gave a self-congratulatory assessment of his country's rule of the former colony. He said Britain had brought democracy, freedom and prosperity to Hong Kong, but he had little to say about how his country had gained control over the territory.

British historian Dennis Judd, who wrote "The Empire," a history of British colonial rule, said his countrymen were good at glorifying their past but failed to notice the hypocrisy of their views.

He added that they tended to rally to the defense of British victims of foreign powers,

but praised their own rule of foreign lands as a contribution to democracy and freedom.

At its peak, the British Empire reached around the globe and included colonies in North America, Oceania, India, the West Indies, and many parts of Africa and Asia. Some of these colonies were the sites of massacres and avoidable tragedies.

Nonetheless, Britain has maintained friendly relations with many of its former colonies. Most of them, including Canada and Australia, belong to the Commonwealth, which is headed by Queen Elizabeth.

More than 50 heads of state and government leaders attend Commonwealth summits every two years. When they gathered in Edinburgh last year, the participants emphasized that many of them had adopted democracy.

But there are also moves to make Britain apologize for its imperial legacy.

When the queen and her husband, Prince Philip, visited India last year, protesters demanded an apology for the massacre of 379 unarmed civilians by British troops at Amritsar in 1919.

British Prime Minister Tony Blair is helping change his country's reluctance to apologize.

Shortly after he was elected last summer, Blair surprised both the British and Irish publics by issuing a statement saying it was regrettable that his predecessors did not help Irish victims of a devastating

famine 150 years ago.

British historians and media criticized Blair, saying the government did not need to apologize for something that took place so many years ago. In Ireland, however, the statement was well received.

So why should Japan apologize to British people it held as POWs?

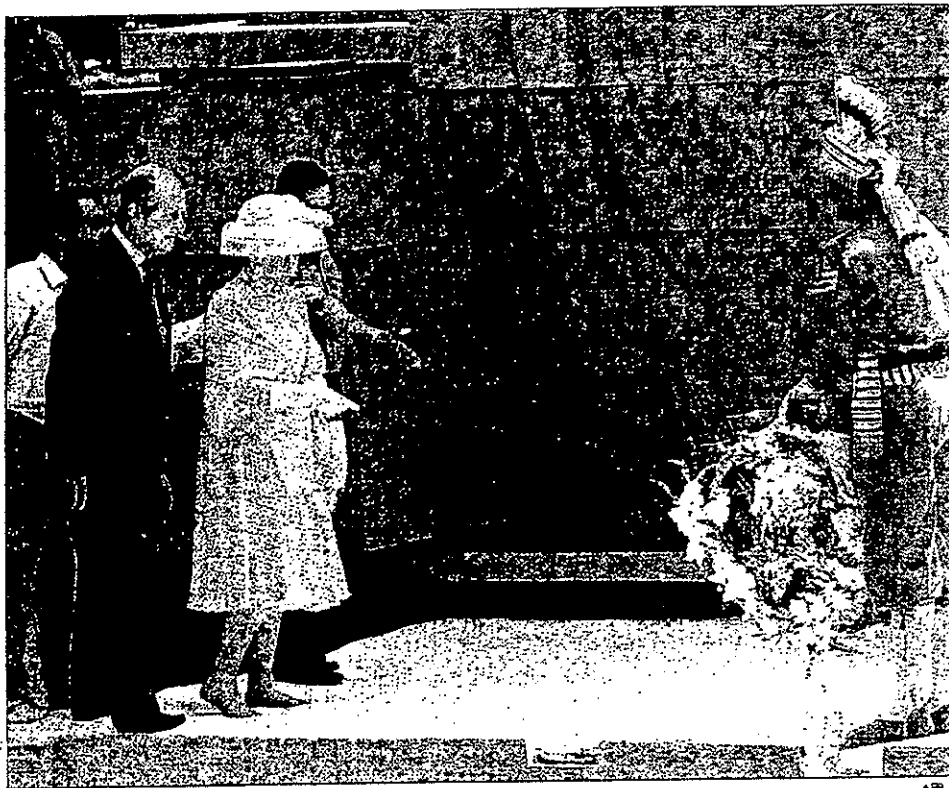
Judd said an apology was needed because the memory was still fresh in the minds of the British people. However, the historian said a country had to be secure and confident before it could apologize for its past.

Judd said the prestige of Japan, an economic power and prominent member of the international community, would not suffer if it owned up to its past misdeeds.

However, he predicted that if Japanese politicians continued to avoid candidly acknowledging the country's conduct during the war, particularly toward other Asian countries, they would face more criticism.

Anthony Best, who lectures on Japanese-British relations at The London School of Economics, said war was the result of failed diplomacy. Japan should apologize to other Asian nations for its wartime conduct but did not need to apologize to European nations, except for individual incidents of brutal conduct, he said.

He suggested that if the government apologized, it would ease the deep resentment felt by aging former POWs and lead to reconciliation with some countries.



Britain's Queen Elizabeth and her husband, Prince Philip, lay a wreath at the foot of the Jallianwala Bagh Memorial in Amritsar, where unarmed Indians were gunned down in 1919, during their trip last October.

rial in Amritsar, where unarmed Indians were gunned down in 1919, during their trip last October.

INTERNATIONAL
HERALD
TRIBUNE
198.5.27



British war veterans turning their backs in protest Tuesday of the Japanese entourage.

Emperor Gets Mixed Reception

British War Veterans Protest as Queen Welcomes Akihito

By T. R. Reid
Washington Post Service

LONDON — The emperor of Japan has arrived in Britain to what can only be called a mixed reception: a royal welcome at Buckingham Palace, and racist epithets in the popular press.

The state visit this week by Emperor Akihito has sparked a sharp split among the British. The controversy pits the bitter memories of a group of British World War II veterans against the eagerness of a younger generation here to cultivate Japanese friendship, markets and investors.

British media coverage of the visit has been strongly supportive of the veterans — and has demonstrated that racial insults and stereotypes that would be taboo in the American press, or in Japanese publications, for that matter, are still standard headline material for the British.

The country's largest-circulation newspaper, The Sun, refers to the controversy over the emperor's visit as the "Jap Row." Speakers on television and radio talk shows routinely use similar terms.

"The word 'Jap' is a deeply offensive term of racial bias," a Japanese government spokesman, Satsuki Numata, said. "It is painful that some British media still use it so freely."

Emperor Akihito has received a formal greeting with all the trimmings from his old acquaintance, Queen Elizabeth II. Among many other activities Tuesday, she named him a Knight Commander of the Most Noble Order of the Garter, the palace's highest title of chivalry.

Prime Minister Tony Blair also offered a warm welcome to the visitor. He called on all Britons to "celebrate the relationship that now exists" be-

See SNUB, Page 6

SNUB: U.K. Veterans Protest Akihito's Visit

Continued from Page 1

tween the two island countries.

But a group of British military veterans — men held as prisoners of war by the Japanese in World War II — were hardly in a celebratory mood. Several hundred of them, wearing their medals and waving the Union Jack, turned their backs and shouted insults as Emperor Akihito rode into Buckingham Palace on Tuesday in a gilded horse-drawn carriage.

The veterans were joined in their snub by many ordinary people lining the route.

The veterans say they were the victims of brutal treatment at the hands of the Japanese Army. They have demanded an imperial apology and cash compensation of £14,000 (\$23,000) apiece.

The Japanese press has responded acidly to the veterans' demands, noting that the British veterans were conquerors and jailers in East Asia before they were conquered, in turn, by Japan.

"The Japanese Army never invaded England," noted the weekly news-magazine Shukan Shincho. "The only British soldiers captured were the ones enforcing imperialism in Asia."

Some voices here have made the same point. But most of the columns and commentary focus — as the Tuesday edition of The Mirror put it — on how "our heroes" were "victimized by unspeakable brutality."

The Japanese prime minister, Ryutaro Hashimoto, has asked Mr. Blair to do

effort to defuse the argument. He sent an open letter to the British expressing "deep remorse and heartfelt apology" for the suffering of the prisoners of war.

At the state dinner Tuesday night, Emperor Akihito, whose comments are scripted by Mr. Hashimoto's government, said he and his wife felt "deep sorrow in our hearts" over the suffering of the British prisoners of war.

■ A Balancing Act for Blair

Amid booing and jeering of Emperor Akihito, some of the prisoners whistled the wartime tune "Colonel Bogey" featured in the film "Bridge on the River Kwai," which depicted life in a Japanese labor camp, Reuters reported.

Arthur Titherington, chairman of the Japanese Labor Camps Survivors' Association, said: "The fact that so many people have turned out gives us considerable pleasure. It shows we are not alone."

The scale of the protest underlined the tricky balancing act Mr. Blair has to perform during the visit — acknowledging the wartime suffering while urging ever closer ties with one of Britain's most important economic partners. His aides have pointed out that inward investment by the 265 Japanese companies operating in Britain has provided 65,000 jobs and that British exports to Japan total £4.2 billion (\$6.8 billion) a year.

"My generation knows that it owes an especial debt of gratitude to those who



Emperor Akihito standing with Queen Elizabeth II as their national anthems were played Tuesday in London at the start of his state visit.

their lives," Mr. Blair said in a television interview. "But it is important, I believe, while never forgetting the past, that we recognize that we have a relationship with today's Japan not just in terms of trade and investment but across a whole

Film Shines a Japanese Light on World War II

By Kevin Sullivan
and Mary Jordan
Washington Post Service

TOKYO—Finally, a feel-good World War II movie for the Japanese.

"Pride, the Fateful Moment" turns the tables on generations of Hollywood war films in which decent American military heroes avenge the atrocities of Japanese militarists who are almost comically sneaky and evil in their little brimmed hats.

The film, which opened Saturday with police guards stationed at many theaters, is gathering steam here like a locomotive. In it, Americans are drawn as cartoonish bad guys—big, awkward, mean and vindictive braggarts who trample all over the humble and unlikable Japanese of postwar U.S. occupation. The Americans shout, swear, rage and connive. The Japanese speak politely, love deeply and suffer their boorish conquerors with dignity.

A major picture from one of Japan's leading studios, Toei Co., "Pride" tells the story of General Hideki Tojo, the prime minister who led much of Japan's war effort. Hanged as a war criminal in 1948, Tojo emerges in this movie as a loving husband and gentle grandfather with an admirable devotion to his emperor and his nation.

Fifty years after the war, a remarkable perception gap still exists between Japan and the rest of the world. The nation's stance on World War II remains a central element of its relationship with China, South Korea and other Asian countries that suffered at the hands of Japanese soldiers. Many are still deeply angry at what they see as Japan's lack of remorse, and "Pride," which its producers hope will be released in the United States, is certain to re-ignite that anger.

The film is actually as Hollywood as can be—a splash of documentary in a sea of entertainment, the genre perfected by Oliver Stone in "JFK" and "Nixon." In this treat-

ment, the man who helped make "Banzai" a terrifying household word in American homes becomes a pretty sweet old duffer. Tojo, apparently, loved nothing more than raising tomatoes with his wife.

Certainly, many Japanese don't agree. Ezra Vogel of Harvard University, one of America's leading scholars on Japan and China, said that the philosophy expressed in the movie represents "only one Japanese view of things," and that many Japanese believe the war-era military was never held fully accountable for its conduct.

Yukio Matsuyama, a professor of American politics in Tokyo and former chief editorial writer for the influential Asahi Shimbun, shook his head after a recent screening of the movie. "Counterproductive," he said. "The movie may encourage hawkish, conservative people, but will have scarcely any influence over the majority. I hope no youngsters will be influenced by it."

Portrayed by Masahiko Tsugawa, one of Japan's foremost actors, Tojo comes across the way many Japanese continue to see Japan's conduct in the war: honorable, if ultimately mistaken and overzealous in its pursuit of it.

For many in the West, Tojo's mustache and shaved head have come to symbolize the militarism and fanaticism that produced the kamikaze pilots and the gory battles of Okinawa and Iwo Jima. But in this movie, Tojo's only fanaticism is his devotion to duty and to nation. His shaved head here suggests wisdom, his impassive face strength and decency. His mustache becomes a plaything for the cute, chubby fingers of an adoring grandson.

"I wanted to depict Tojo as a human being—not a hero, but a human being trapped by history," said Hideaki Kase, a political historian who was a driving force behind the movie. "We wanted to present to Japan and the world that Japan is not solely responsible for the Pacific war and that the so-called Tokyo Trial was unjust, illegal and unfair."



General Hideki Tojo visiting a shrine to the war dead in 1941.

The central dramatic device of "Pride" is the trial—the International Military Tribunal for the Far East. In Japan's version of the Nuremberg trials in Germany, Tojo and six other defendants were sentenced to hang. The trial is depicted as an act of revenge dressed up as a legal proceeding. The lead American prosecutor is shown hissing privately to the chief judge that the trial is not about justice, but Washington's desire to completely humiliate and neutralize Japan.

On screen several of the justices, as well as the American and Japanese lawyers assigned to defend the military leaders, raise questions about the trial's fairness. How could the victors, who had suffered enormous casualties at the hands of

the Japanese military, fairly judge the accused?

When Tojo's lawyers ask why the defendants' crimes were any worse than dropping an atomic bomb on civilians in Hiroshima and Nagasaki, the movie shows how prosecutors interrupted the Japanese translation and censored the remarks in the press and official trial record. In fact, the film's portrayal is generally accurate. But by showcasing the flaws of the trial, the filmmakers are clearly attempting to suggest that other historical interpretations of the war are also wrong.

The film presents grisly testimony from a priest who says he was present in Nanjing during the infamous slaughter of hundreds of thousands of Chinese. But under

cross-examination, he admits he actually witnessed only one killing. The message: Nanjing wasn't as bad as it has been made out. And the larger message: People have been lying about Japan for too long, and it's time for that to stop.

The movie's release coincides with widespread publicity in America for "The Rape of Nanjing," by the American author Iris Chang. The book is a spectacularly graphic account of the rapes, beatings and other murders that Japanese troops committed in 1937 in Nanjing. Chang puts the death toll at more than 300,000. The book has infuriated some historians and others here, who contend that it grossly overstates the death toll and is based on hearsay.

As international criticism of "Pride" has risen, a government spokesman said last week that the movie "in no way reflects the position of the government of Japan." He went on to say that Japan felt "deep remorse and heartfelt apology" for those who "underwent tremendous pain and suffering during the war."

Western scholars say that Japan has not fully opened its archives from the war period. The nation glosses over the struggle in its textbooks and officials are reluctant to examine the era. For decades, discussing the war was taboo.

But that is beginning to change, and "Pride" is part of the cultural shift.

Even though several prime ministers have issued what seem to be sincere apologies for the suffering caused by Japan during World War II, few of its Asian neighbors pay attention. Instead, they talk about their fears that Japan will "rise again," and they insist Japan has never apologized adequately.

Ironically, although Japan is assailed in other countries for not apologizing enough, inside Japan critics condemn the government for failing to respond to what they see as unfair demands for repentance. "Pride, the Fateful Moment" should make those people very happy.



Left: Former Japanese prisoners of war turn their backs on the ceremonial procession as it passes by on its way to Buckingham Palace. Right: The



Emperor, left, Britain's Queen Elizabeth, center, and the Empress stand together at the start of his state visit to Britain on Tuesday.

Imperial couple begin U.K. visit amid POW protests

Compiled from news services

LONDON—The Emperor and Empress began a three-day state visit to Britain on Tuesday amid demonstrations by survivors of Japanese labor camps in World War II.

Hundreds of former internees turned their backs on the Emperor rode past in a gilded carriage headed for Buckingham Palace.

Some protesters along The Mall blew whistles, leered or whistled "Colonel

Bridge on the River Kwai."

The protests were peaceful, and there were also scores of Japanese along the route waving Japanese and British flags.

British Prime Minister Tony Blair appealed for a warm reception for the head of state of one of Britain's key economic partners.

The Japanese Labor Camp Survivors Association is seeking compensation from the Japanese government for their mis-

"It has been this feeling of great injustice that has driven us to pursue a claim for compensation and a full apology from your government and it is this sense of great injustice that has driven us on to the streets today," Arthur Titherington of the survivors association said in a letter to the Emperor.

Any apology would be a political matter for the government, and the Constitution does not permit any political involvement

Kazuo Chiba told reporters on Tuesday.

"But within these constraints he will express his deep feelings as much as he can," Chiba said.

Many of the protesters wore white sashes saying "Compensation Overdue" or "Prisoner of War Japan 1941-45."

Estelle Cowley also wore a tattered piece of cloth with the number 6/148—the number assigned to her when she was 13 years old and put in a prison camp near

AP/WIDEWORLD

Akihito: My sorrow and pain

By Colin Brown, Chief Political Correspondent

EMPEROR Akihito of Japan spoke last night of his "deep sorrow and pain" over the suffering of Allied prisoners held during the Second World War. Speaking at a state banquet at Buckingham Palace, the Emperor sought a measure of reconciliation with veteran prisoners after hundreds of them turned their backs to him and whistled "Colonel Bogey" as he travelled along The Mall at the start of a state visit.

The Emperor went as far as he could towards expressing regret for the treatment of prisoners, but the inability of the Japanese head of state to offer the full apology demanded by the veterans meant protests are likely to continue throughout the week of his visit.

"It truly saddens me that the relationship so nurtured between our two countries should have been marred by the Second World War," said the Emperor.

"Our hearts are filled with deep sorrow and pain. All through our visit here, this thought will never leave our minds."

The Queen also referred to the pain of the conflict in the Second World War, but followed the Prime Minister in attempting to focus on the need for reconciliation, and the valuable trade links for the future between Britain and Japan.

"While the memories of that time still cause pain today, they have also acted as a spur to reconciliation," she said.

The unprecedented protest by the old soldiers in The Mall was staged to an accompaniment of catcalls, boos and the whistling of wartime anthem "Colonel Bogey".

One 83-year-old expressed his outrage about the Emperor's visit by burning a Japanese flag moments before the Queen and Emperor passed

in the Irish State Coach.

Tony Blair's spokesman said there was a great deal of sympathy and understanding from the Emperor at the depth of feeling of the veteran POWs.

They protested in service berets and medals as the Emperor travelled to the palace for his investiture with the Order of the Garter, an honour bestowed on his father and his grandfather. There were shouts of "go home" when the Emperor later emerged from Westminster Abbey after laying a wreath, but No 10 said they had demonstrated with dignity.

"I don't think it would be fair to expect him to say anything more. He is a constitutional monarch and like the Queen, he doesn't get involved in politics. We didn't expect him to make an apology. Prime Minister [Ryutaro] Hashimoto's apology and the Emperor's words have convinced the Prime Minister that they are sincere in their regrets," said the No Ten spokesman.

The veterans of the Japanese labour camps were protesting at the refusal of the Japanese government to offer more compensation, and a further apology for their inhumane treatment. But there were also civilian victims of the brutality. Sisters Elizabeth Paddon and Diana Hallward, from Devizes, Wiltshire, whose father died shortly after being released from three years' Japanese captivity in the notorious Changi jail in Singapore, waved a banner reading "The Garter is a sham".

Mrs Paddon said: "My father came home to die. We escaped from Singapore but we lost everything and my mother got compensation of £48.

"We feel very bitter about this. No way should he be given the Garter. I am disgusted by Tony Blair saying we should welcome him. It is all in the name of economics and trade."

Senior members of the Cabinet, including Jack Straw, the Home Secretary, bowed their heads in greeting to the Emperor on the platform for a march past in his honour on Horseguards Parade.

The Queen told the Emperor and Empress: "I

THE
INDEPENDENT

(UK)

98.5.27.

hope that you will carry away many happy memories of your stay, and that they will last through all the seasons of the years ahead, come rain or shine - for Britain is no fair-weather friend."

The protesters had ignored an appeal by Mr Blair to give the Emperor a warm welcome but the Prime Minister spent the day limiting the diplomatic damage in a series of interviews in which he emphasised the need for reconciliation. He said he wanted the rest of the visit to reflect Japan's cultural and economic links with Britain.



天皇陛下「深い心の痛み」

英 國 第 二 次 大 戰 初 の 言 及
曉 さん 会

英蘭を公武訪問中の天皇、皇太子は二十六日夜、田代館に二十七日早朝、ロンドン市内のバッキンガム宮殿で迎はれたエリザベス女王夫妻と親睦の公使館さんへ向けて出立された。天皇陛下ははじめてのことの中で、萬天大國で日本が新火を交えた歴史を語り返すエリザベス女王夫妻と親睦の機会を得ておとほは喜ぶる美蘭閣下(田代館)のバッキンガム宮殿、テレビ画面から。

ヤールは全主主義者、プリアは専ら政府外務者のほか、是時三藩會合武の亂火をシテも然るは反地軍を率ゐ、クリストフア・ムン氏を彼方合はせて約百七十人が願をその

[illegible]

第二次會議中に日本軍の捕虜となつた元寇隊團員人々の中に、またたき臨時の「二重」が現へた。えんじうなかなら。こゝに元寇隊の落ちついた心を奪ふやうな、車の揺れベルの和聲への歌ひ組は、日英協定を地通ししてゐる。

日英協定の事務局長兼十四回四開條約の五山和夫さん(70)は、英國の元寇兵たちの和解と交流を手助けする團體として二人の

旧ヒルで戦傷を癒した白鷺英岩の職を団体の協力者を仰ぎながら、計画圖・元寇博覧會、英兵たちの抱負助

草の根活動通じ
日英の和解促進

元日英商會事務局長 玉山和夫さん



問を要請した。日本に抱いた元寇復讐人々には必ずしも善くも悪くも思入らぬであらう。然るに、玉山先生は「其のに」つづいて、戦争の勢が流されぬ、恢復に励まれていた日本人の願

女流の文藝家ともあつた
 玉山さんには、
 旧日本軍の情
 懷でなつた英
 國海軍軍人
 と共舞のブル
 マの舞の歴史
 雑誌に取り編
 り玉山さん
 を用いた。玉
 山さん「彼が海軍野戦を
 を導いた日本人。あの言ひ
 みは決して消えない」
 「自分ひとりで歴史を支配
 した」と玉山さん「私は
 ビルマ戦争の資料を取集
 り、旧日本兵の体験を伝
 へる記事を書いたといふ
 三浦隆の文は約四十から
 取集め一冊に完成。英領の
 公立図書館に以て納められ
 おり、玉山さんは一冊半
 十年以上たつ、年若い元
 兵士たちの相談問を続け
 るのを聞いてゐた。本
 人はいつまでも「英領は日
 本」といふ偏見にたいがひ
 り抱かれてゐることもあ
 り、改めて日本からのメ
 セージを伝へたい」と玉山
 さん（ロンドン＝西田広樹）

元兵士の相互訪問支援、旧日本兵の体験談つづる

いた。母方までには第二、第三の三郎も仕上がる予定。このまゝ、西郷の奥の奥人之一

捕虜問題に深い配慮

天皇陛下
おことば
現在の日英関係映す

【ロンドン】26日「西遊漫記」二十六日夜のエリザベス女王生誕式催行の晩餐会で、注目を集めていた天幕陸軍の「おごご」には、日英が戦火を交えた第二次大戦を振り返る内容が盛り込まれた。相手国との交流・歴史への言及は、友好関係の促進が柱となる西遊下の旅には欠かせない。異体的に「西遊」という文脈は使わなかったが戦後の課題として書く場を元補償への思いを記したメッセージとなっている。

(一) 西參



26日、ロンドンのウェストミンスター寺院で無名戦士の墓に献花し、頭を下げる天皇陛下=A.P.

七一年に昭和天皇が訪英された際には、公式行事の場面で直接的な表現で「過去」には触れなかった。一方、エリサベス女王は「過去において四国の関係はつねに平和と友好であったことは防衛上の見ても、一相手は防衛上の見ても、十分に保障することが大切」と発言されていた。

今回の「おことば」では「様々な形で音楽を聴くことが大勢の人々」として、元

は思ふません。その経験のゆゑに二重と同じことが起こつてはならないと思つてもを決心させています」と戦争について語及していた。戦後五十年余り経過したが、旧日本軍の捕虜になつた英軍軍人らの間では日本政府に「謝罪」や「補償」を要求する声があつた。捕虜を念頭に置きつつ、戦争により人々の受けた傷を思ふ時、深い心の痛みを覚える」と要項。重内庁幹部が現在の日本をめぐめる状況に触れている点が特徴。一と説明するように、捕虜問題に相応の配慮をしたことが読みとれる。

「心」もっていた」

恵子ホームズさん

【ロンドン26日＝共同】
三大陸下のスピーチは、
とても心がこもっているまじ
に、元英國人捕虜の和解
活動への評価で、エリザベ
ス女王のスピーチは、
近々の露の英國人政府関係
者は期待していたよりも、
素晴らしいスピーチでし
たと語っていたという。

未来の友好のために力を尽くしてこられた人々に、深い敬慕と感謝の念を致したく思います。

心の痛みを覺えますが、このたびの訪問に当たつても、私でも何となくたゞをばたきとて、青年の巨匠を説いてたゞ願つてゐます。西國の間に二葉をのさす一國の刻々力むことを哀れみたる事とて、このような過去に苦しみを経ながらも、その後計り知れぬ努力をもつて、西國のいたします。

日英西國の古來のを受け継ぎ、新しきものへの執着と順応の力を失わす、それだけの文化と社會を築き上げてきています。私は、西國既に、真に相互にを理解し合う努力を続け、今後の世界の平和と繁栄のために、手を携えていくことを切に希望いたします。

取用之

破 新學は洋學
 といふ多くの分野にわたつた熱心は獨學と學問を重ねました。
 このようは關係を基礎として、今世紀の初期には、西國は同盟軍としての提携
 れたことは誠に悲しむべきことでありました。この形
 いにより、さまざまの形で吾國を侵襲した大勢の人々のあつたことは、私どもに

す。西國の間に二三處のこの
やうな國土の刻々な盛衰を
を思ひやり顧みよとともに
このやうな國土の昔しみを
経ながらも、その後計り知
れぬ努力をもつて、國運の
私には、國運開放、真に相互
に理解し合う努力を続け
け、今後世界の平和と繁
栄のために、手を携へて貢
獻していくことを切に希望
いたします。

BRITISH POWS PROTEST

Emperor tells of sorrow for war

Paying respects — Page 2
Compiled from wire services

LONDON — The Emperor expressed his "deep sorrow and pain" to the British people Tuesday for the suffering inflicted when the two nations fought during World War II.

The Emperor told Queen Elizabeth II and other guests at a state banquet that he was truly saddened that bilateral relations had been marred by the war.

"The Empress and I can never forget the many kinds of suffering so many people have undergone because of the war," the Emperor said in an address at the state dinner hosted by the queen for the Imperial Couple at Buckingham Palace.

"At the thought of the scars of war that they bear, our hearts are filled with deep sorrow and pain," he said. "All through our visit here, this thought will never leave our minds."

About 170 dignitaries, including Prince Philip, Prince Charles and former Foreign Minister Yukihiko Ikeda, who is escorting the Imperial Couple, raised their glasses after the playing of "Kimigayo," Japan's de facto national anthem.

The Emperor, who spoke after the queen, said, "At the same time, may we express our profound respect and gratitude to those people who, despite such past sufferings, looking toward the future, have dedicated immeasurable efforts to the cause of friendship between our two countries."

"I sincerely hope that our two peoples can continue to strive for true mutual understanding and can join hands in the cause of world peace



BRITAIN'S QUEEN ELIZABETH II (right), the Emperor (second from right), and the Empress (center) pose with the Duke of Edinburgh (left) and Queen Mother Elizabeth after arriving Tuesday at Buckingham Palace's State Banquet Hall. (AP/WIDEWORLD)

and prosperity," the Emperor said.

Earlier in the day, the Imperial Couple visited the Tomb of the Unknown Soldier in Westminster Abbey to lay a wreath.

On Wednesday, the Emperor and Empress flew to the Welsh city of Cardiff aboard a Royal Air Force plane. They were greeted by Prince Charles, who is also the Prince of Wales, and a welcoming ceremony was held at Cardiff Castle.

After a reception at the castle, the couple watched a performance of Welsh dancing

and singing.

It is the custom for state guests to have an "away day" where they visit cities outside London.

More than 50 firms affiliated with Japanese companies have a presence in Wales, which the Emperor and Empress visited in 1976 as the crown prince and crown princess.

In Britain, anti-Japanese sentiment lingers among former prisoners of war forced to perform labor in Japanese camps during World War II. They have been demanding a full apology and com-

pensation from the Japanese government.

"Tragically, there ensued the period of conflict between us," the queen said in her speech during the state banquet, but added that the two nations have managed to rebuild relations "on a new and deeper basis" since the war.

"Both our countries are committed to the same basic values of freedom and democracy," she said. "Both of us seek to advance peace and prosperity, not just in our own regions but around the world."

"While the memories of that time still cause pain to-

day, they have also acted as a spur to reconciliation," the queen said in proposing a toast.

The Emperor and Empress began their visit to Britain, the first by a Japanese emperor in 27 years, earlier in the day with a welcoming ceremony and a 1-km parade from The Mall to Buckingham Palace in central London.

The Imperial Couple visited Portugal before coming to Britain and will travel to Denmark on Sunday. They will return to Japan on June 5.

98.5.28. 每日

天皇スピーチ

張

あえて「悪い」表現

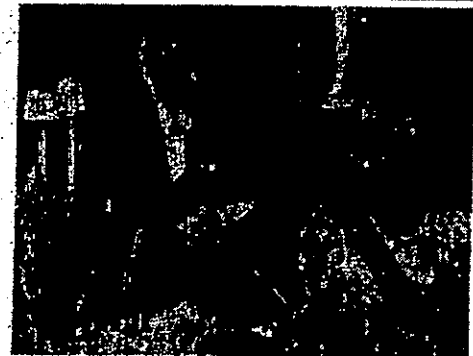
抗議の元捕虜らに配慮

【ロンドン26日大久保組
志】華やかな雲煙が織か
れた26日のエリサベス女王
主催の公式饗宴へ、注目
されていた天皇陛下のスト
ーチは第2次大戦での日本
軍の捕虜に對する思いを示
したことが大きな特賓だ。

漢軍のマスコミもその内容
を大きく取り上げた

より、空王さまは形で菩薩を降臨した大衆の人々のあつたこととは、ちがふところであられられない記憶」などと聖書の大衆についての原いを見据えた。訪京朝の記者が答へ、「相手の立場に立つ、心の痛みを十分に理解する」が大切」と強調。朝への理解を述べた。

エリザベス女王(右)主賓の綾さん共「お慶び」を述べる天皇陛下。26日午後、テレビ中継あり。



去のスピーチに比べると、「反省」の要素はやや多い。

「英兵補償問題」

50年前に解決」

ブレア首相

【ロンドン28日三時頃電】「ブレア英首相は28日、元英兵衛首相が日本に要求している戦時賠償について、「英政府は50年前に解決している。英兵衛首相は日本に要求している。英兵衛首相は日本に要求している。」と述べた。

る」と続いた。英テレビのインタビュアーに答えたものの。

皇陛下のそばにチが寝たとき、会場は大きな拍手に包まれた。出陣前の中には、元捕虜の日本訪問を仲介するなどと和解に努める英国空軍の妻子ボームスさん(50)の姿もあった。

大は海軍の艦隊と大砲の陣
を勇らなぞくだんれど、

去にあったことを告げるやう
きではないが、同時に我々
は、現在の日本と朝鮮を主
張しているところを強調する
ことが要する。その關係は
果、我々が待てなく、あら
ゆる方面にわたる動機に
と關つた。

アレクサンデルは曰く「主
張を強かく抑えよう」とい
民に呼び掛けたが、元朝

たりの終りきりきりといひてゐた。こがへん、いひつゝのうちに、

98.5.27. 每日



天皇陛下スピーチ
第2次大戦に言及

【ロンドン】後日大久保和
大英、英蘭、露中の天眞、
露蘭陛下は、前日午後8時半
（日本時間翌日午前4時半）
からバッキンガム宮中で開
かれたエリザベス女王主催
の公武親善会に臨んだ。
露、エリザベス女王が、
露の皇后を、これに対し
て天眞陛下が露帝を述べ

た。

(右幕上に讀書聲)

陛下はこれまで、西國の
條約を破り、善く中で、「三三三」
世界大略によって、進められ
なすは、神に事しむべきこと
とて、ありました」と先の大
將に言及し、「戦争により
人々の苦しみ、死者を蒙る時、
深い心の痛みを見え、

[illegible]

詞、英蘭を以て國中の天子
下が80日後の歐洲戰とさ
で第二次世界大戰時の海
陸軍に關連的に書して
いふの類を考へます」
と云ふ。たゞに「つづく
」と云ふの書が日本出版
界に於てかわらない種々
若草として、早大出版
れたと云ふ」と語へた。

98.5.28 INDEPENDENT (UK)

Welsh chorus of disapproval greets Akihito

Scores of former prisoners of war turned their backs in protest yesterday as Emperor Akihito arrived at Cardiff Castle as part of his state visit to Britain.

Many former British servicemen, some decorated with medals and former prison camp badges, jeered as the Emperor and his wife - accompanied by the Prince of Wales - were driven through the castle gates where they met local dignitaries and were entertained by a programme of traditional Welsh music from the Mass Choir of the Welsh Association of Male Voice Choirs.

The protest by Welsh war veterans followed a similar demonstration in London on Tuesday when hundreds of PoWs turned their backs on the Emperor and his wife as they rode by with the Queen in a royal carriage.

One of those who attended yesterday's protest, Wyndham Jeremiah, 78, from Newbridge, said he was pleased with the way it had been carried out. "It is the only form of protest we have got. I was a bit surprised about the booing but turning your back on the Japanese is an insult and that's what we wanted to do. We ex-servicemen usually protest in a quiet way."

Oliver Davis, 82, also from Newbridge, said he felt he had done his bit in protesting at the Emperor's visit. He said: "I wasn't in the Far East but I am here for those who were. I was in the Royal Pioneer Corps in Europe but I felt it was my duty to be present today."

"I don't think we will achieve anything but it is still good to make a stand."

One former PoW bumped into the widow of a fellow serviceman who spent three and a half years with him in camps in the Far East.

Glyn Thomas, 76, from Neath, recognised the number on a prison camp ID badge pinned to the jacket of his fellow inmate's widow.

Monica Yabsley was at the protest on behalf of her husband Ray, an ex-RAF man who died 11 years ago.

She said: "It was lovely to meet someone who went through the same thing as my husband."

Japanese teacher Sachi Ebisu, 21, from Osaka, said she was "saddened" by the protest.

Currently teaching Japanese in Cardiff, she said: "I hope this doesn't strain relations between our two countries."

"I do not think the Emperor has the responsibility for what happened during the war because he was just a little boy. Many soldiers used the name of the Emperor, but after the war they were killed for the crime of abusing his name."

"I feel very embarrassed about this insult to him."

A handful of war veterans held up a Union flag and turned their backs as the Emperor and Empress left the castle yesterday afternoon.

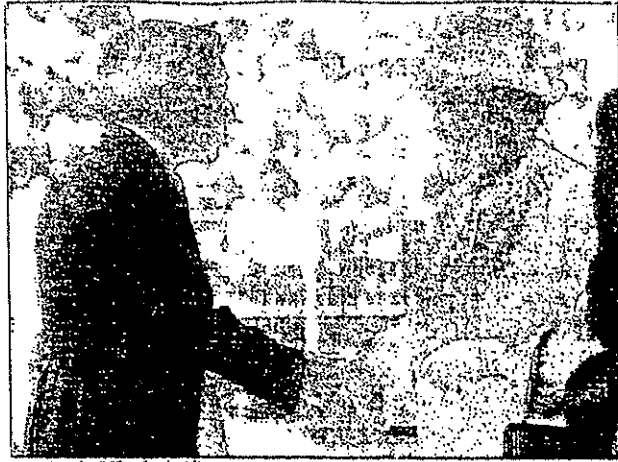
Several hundred spectators raised a muted cheer as the motorcade drove away. Banners were held up bearing the messages "apologise", written in Japanese, and "compensate our ex-PoWs".

Liberal Democrat MP Mark Oaten, co-chairman of the all-party parliamentary group on Far East prisoners of war, claimed yesterday that the Emperor had moved closer towards an apology.

Mr Oaten said: "The Emperor's sympathy with former PoWs is becoming increasingly clear as his visit progresses."

"Inch by inch, the Emperor and his entourage have moved towards an apology, and I congratulate them on this sympathetic approach."

"Now that the Emperor has seen at first hand the strength of feeling that exists in this country, he surely must make his government realise that unless there is a clear apology from them, there will always be a thorn in the side of



손잡은 日王과 英여왕
아키히로 일왕이 26일 버킹엄궁을 방문. 엘리자베스 2세 영국여왕과 악수하고 있다. 아키히로일왕은 이날 2차대전 당시 영국인들이 당한 고통에 대해 깊은 슬픔과 아픔을 느낀다고 말했다.
★관련기사 12면 / 런던 1면

韓国日報

5月28日(木) 1面

握手する日王(天皇)と英女王

“2차대전 유감” 日王 허리굽혔지만...

英참전군인·시민 ‘냉담’

버킹엄궁방문 兩國 우호회복 강조

“사과 불충분” 시위군중 불만 여전

영국을 방문중인 아키히로(明仁) 일왕(日王)은 26일(현지시간) 2차대전 때 영국인들이 당한 고통에 대해 유감을 표명했다. 그러나 일본의 사과와 보상이 부족하다고 여기고 있는 일본군 포로수용소 출신 영국군 참전용사와 민간인들의 마음을 돌려놓지는 못했다.

아키히로는 엘리자베스 2세 영국 여왕이 버킹엄궁에서 배운 만찬에서 2차전 당시의 상처를 생각하



◇영국을 방문중인 아키히로(明仁) 일왕 부처가 27일 카디프성(城)에서 찰스 영국왕세자

면 우리 마음은 깊은 슬픔과 아픔(deep sorrow and pain)으로 가득해진다.며 영국을 방문하는 동안 내내 이같은 생각은 우리의 마음에서 떠나지 않을 것.이라고 밝혔다.

일왕은 또 “(2차대전) 당시 수많은 사람이 겪은 갖가지의 고통을 결코 잊을 수 없으며, 전쟁으로 인해 양국 관계가 손상을 입은 것은 나에게 진정으로 슬픈 일.이라고 말했다.

아키히로는 도쿠가와 이에야스(徳川家康)와 제임스 1세 간의 교우와, 영-일(英日) 동맹시절 아버지 히로히토 왕이 환대 속에 영국을 방문했던 양국 교류사까지 인용하면서 우호관계의 회복을 강조했다.

엘리자베스 여왕은 이에 대해 “영국과 일본 간의 친밀한 우호관계는 이미 19세기와 20세기 초부터 이룩된 것이나 그후 한때 유감스럽게도 갈등의 시기가 있었다고 짚고 넘어갔다. 여왕은 그러나 “2차대전 이후 양국 관계는 ‘새롭고 더욱 친밀한 토대’ 위에 구축되고 있으며, 자유와 민주주의 가치를 공유하고 있다.면서 과거보다는 미래에 더 비중을 두었다.

하지만 웨스트민스터사원 무덤을사비 헌화와 카디프성 방문 등 일왕의 행사장을 이틀째 따라다니며 항의시위를 벌였던 생존 참전 군인과 시민들은 “일왕의 사과가 불충분하다.는 반응을 보였다고 BBC방송 등이 전했다. <金然攝기자: yk-kim@chosun.com>

韓国日報 5月28日(木) 9面

“2次大戦 遺憾” 日王(天皇)

陛下が戦争の被害...

英国 参戦軍人・市民 ‘冷淡’

パタンカ 宮殿訪問, 兩國友好回復強調

“お詫び不十分” 77年の群衆, 不満依然と.

- 60 -

「元従軍慰安婦への『償い』」。韓国政府が韓国人の元従軍慰安婦に対する「支援金」の支給を始めたことで、日本政府が改めてこの問題を突きつけられている。韓国政府は、元従軍慰安婦問題を「これ以上、両国間の障害としてはならない」（朴正煥元大統領）という。しかし、支援金の支給は日本側の「償い金」を受け取らないことが前提になっており、日本政府としては、そうした条件は受け入れがたい。今秋の金大中・韓国大統領訪日に向けていかにこの問題を前進させ、「未来志向の両国関係」を築くか。両政府にとって重い課題となっている。

隆 植村 (ソウル支局)
秀雄 松下 (政治部)

表し、「ハルモニ(おばあさん)たちに、基金を受け取るなど国家が強制するに等しく、人権の新たな侵害にならないか」と反発した。

韓国が「支援金」を給付

慰安婦への賠償 重い課題

韓国政府の支援金は、元慰安婦たちが日本の「女性のためのアジア平和国民基金」(アジア女性基金)からの「償い金」を受けずに済むようにしたもので、償い金を受けたい人は支給対象外。受け取る際には「償い金を受け取らない」という内容の誓約書を書いてもらっている。

外交通商省の要務者は、「アジア女性基金に参加している民間人の意図は崇高だが、自分たちの法的責任を回避した上で国際世論を緩和しようとする日本政府の意図が窺われており、元慰安婦や支援団体が嫌がっている。このため、現実的な問題や金銭的な問題は韓国政府で解決することにした」と背景を説明する。

支援金を受け取った元従軍慰安婦たちは、一様に歓迎している。ソウルに住む孫バニムさん(67)は「償い金は受け取りたくなかった。日本政府の謝罪と賠償を受けたいからだ。韓国政府からの支援金は病院代や生活費に使った。世代もかわるから」と語る。

支援金給付では、民間がまず動いた。慰安婦を支援

アジア女性基金 国民の募金による基金。日本政府・与党の主導で、一九九五年に発足した。元慰安婦に対し、基金から一人あたり、二百万円の「償い金」

韓国 世論が政府を動かす 日本 「償い金」拒否で困惑

給の動きに、日本政府当局者は実は、胸をなでおろしていた。韓国外交通商省のスポークスマンが支援金をめぐる出した声明に「我が国政府は日本政府に、被害者個人に対する賠償を要求しない」とはっきり書かれていたからだ。外務省幹部は「金大中大統領が日韓関係改善のため、支援金支給によって、日本に個人賠償を求める元慰安婦や被害者の声を冷まそうとした」と受け止めた。

「元慰安婦に個人賠償すれば、強制連行された人たちの関与者からも同じような要求が相次いで、数十兆円の財源が必要になる」(政府筋)という問題を抱える日本政府としては、歓迎すべき措置だった。個人賠償への禁止めとなるから、韓国政府は「個人に対する賠償は要求しない」という部分を削除した声明を改めて発表した。日本に対しては、その後も「個人賠償を要求しない」というのが我が方の真意だ」とのメッセージが韓国側から送られてきた。

する市民連合組織「韓国慰安婦問題対策協議会」(挺対協)は日本政府からの賠償や謝罪を求める一方、韓国政府へ元慰安婦のための生活支援要求を続けていた。九七年一月に女性基金が韓国の元慰安婦七人に償い金を支給したことに対して挺対協は反発、償い金を拒否するために民間募金を始めた。こうした世論の高まりに韓国政府が乗った格好だ。

を支給するほか、政府の資金で三百万円規模の医療・福祉支援事業を実施。韓本報大田支局の「おわびの手紙」も送っている。

から支給を始めた資金。生存している韓国人元従軍慰安婦のうち、すでに国三十人程度に一人当たり三万五千六百六十万八千円(約三百五十万円)を支給した。

<下>

[illegible]

◇**제1부** 1. **개요** 2. **연구의 필요성** 3. **연구의 목적** 4. **연구의 범위** 5. **연구의 방법** 6. **연구의 결과** 7. **연구의 결론** 8. **연구의 제언** 9. **연구의 참고문헌** 10. **연구의 요약**

4.5 4.6 4.7 4.8 4.9 4.10 4.11 4.12 4.13 4.14 4.15 4.16 4.17 4.18 4.19 4.20 4.21 4.22 4.23 4.24 4.25 4.26 4.27 4.28 4.29 4.30 4.31 4.32 4.33 4.34 4.35 4.36 4.37 4.38 4.39 4.40 4.41 4.42 4.43 4.44 4.45 4.46 4.47 4.48 4.49 4.50 4.51 4.52 4.53 4.54 4.55 4.56 4.57 4.58 4.59 4.60 4.61 4.62 4.63 4.64 4.65 4.66 4.67 4.68 4.69 4.70 4.71 4.72 4.73 4.74 4.75 4.76 4.77 4.78 4.79 4.80 4.81 4.82 4.83 4.84 4.85 4.86 4.87 4.88 4.89 4.90 4.91 4.92 4.93 4.94 4.95 4.96 4.97 4.98 4.99 5.00 5.01 5.02 5.03 5.04 5.05 5.06 5.07 5.08 5.09 5.10 5.11 5.12 5.13 5.14 5.15 5.16 5.17 5.18 5.19 5.20 5.21 5.22 5.23 5.24 5.25 5.26 5.27 5.28 5.29 5.30 5.31 5.32 5.33 5.34 5.35 5.36 5.37 5.38 5.39 5.40 5.41 5.42 5.43 5.44 5.45 5.46 5.47 5.48 5.49 5.50 5.51 5.52 5.53 5.54 5.55 5.56 5.57 5.58 5.59 5.60 5.61 5.62 5.63 5.64 5.65 5.66 5.67 5.68 5.69 5.70 5.71 5.72 5.73 5.74 5.75 5.76 5.77 5.78 5.79 5.80 5.81 5.82 5.83 5.84 5.85 5.86 5.87 5.88 5.89 5.90 5.91 5.92 5.93 5.94 5.95 5.96 5.97 5.98 5.99 6.00 6.01 6.02 6.03 6.04 6.05 6.06 6.07 6.08 6.09 6.10 6.11 6.12 6.13 6.14 6.15 6.16 6.17 6.18 6.19 6.20 6.21 6.22 6.23 6.24 6.25 6.26 6.27 6.28 6.29 6.30 6.31 6.32 6.33 6.34 6.35 6.36 6.37 6.38 6.39 6.40 6.41 6.42 6.43 6.44 6.45 6.46 6.47 6.48 6.49 6.50 6.51 6.52 6.53 6.54 6.55 6.56 6.57 6.58 6.59 6.60 6.61 6.62 6.63 6.64 6.65 6.66 6.67 6.68 6.69 6.70 6.71 6.72 6.73 6.74 6.75 6.76 6.77 6.78 6.79 6.80 6.81 6.82 6.83 6.84 6.85 6.86 6.87 6.88 6.89 6.90 6.91 6.92 6.93 6.94 6.95 6.96 6.97 6.98 6.99 7.00 7.01 7.02 7.03 7.04 7.05 7.06 7.07 7.08 7.09 7.10 7.11 7.12 7.13 7.14 7.15 7.16 7.17 7.18 7.19 7.20 7.21 7.22 7.23 7.24 7.25 7.26 7.27 7.28 7.29 7.30 7.31 7.32 7.33 7.34 7.35 7.36 7.37 7.38 7.39 7.40 7.41 7.42 7.43 7.44 7.45 7.46 7.47 7.48 7.49 7.50 7.51 7.52 7.53 7.54 7.55 7.56 7.57 7.58 7.59 7.60 7.61 7.62 7.63 7.64 7.65 7.66 7.67 7.68 7.69 7.70 7.71 7.72 7.73 7.74 7.75 7.76 7.77 7.78 7.79 7.80 7.81 7.82 7.83 7.84 7.85 7.86 7.87 7.88 7.89 7.90 7.91 7.92 7.93 7.94 7.95 7.96 7.97 7.98 7.99 8.00 8.01 8.02 8.03 8.04 8.05 8.06 8.07 8.08 8.09 8.10 8.11 8.12 8.13 8.14 8.15 8.16 8.17 8.18 8.19 8.20 8.21 8.22 8.23 8.24 8.25 8.26 8.27 8.28 8.29 8.30 8.31 8.32 8.33 8.34 8.35 8.36 8.37 8.38 8.39 8.40 8.41 8.42 8.43 8.44 8.45 8.46 8.47 8.48 8.49 8.50 8.51 8.52 8.53 8.54 8.55 8.56 8.57 8.58 8.59 8.60 8.61 8.62 8.63 8.64 8.65 8.66 8.67 8.68 8.69 8.70 8.71 8.72 8.73 8.74 8.75 8.76 8.77 8.78 8.79 8.80 8.81 8.82 8.83 8.84 8.85 8.86 8.87 8.88 8.89 8.90 8.91 8.92 8.93 8.94 8.95 8.96 8.97 8.98 8.99 9.00 9.01 9.02 9.03 9.04 9.05 9.06 9.07 9.08 9.09 9.10 9.11 9.12 9.13 9.14 9.15 9.16 9.17 9.18 9.19 9.20 9.21 9.22 9.23 9.24 9.25 9.26 9.27 9.28 9.29 9.30 9.31 9.32 9.33 9.34 9.35 9.36 9.37 9.38 9.39 9.40 9.41 9.42 9.43 9.44 9.45 9.46 9.47 9.48 9.49 9.50 9.51 9.52 9.53 9.54 9.55 9.56 9.57 9.58 9.59 9.60 9.61 9.62 9.63 9.64 9.65 9.66 9.67 9.68 9.69 9.70 9.71 9.72 9.73 9.74 9.75 9.76 9.77 9.78 9.79 9.80 9.81 9.82 9.83 9.84 9.85 9.86 9.87 9.88 9.89 9.90 9.91 9.92 9.93 9.94 9.95 9.96 9.97 9.98 9.99 10.00 10.01 10.02 10.03 10.04 10.05 10.06 10.07 10.08 10.09 10.10 10.11 10.12 10.13 10.14 10.15 10.16 10.17 10.18 10.19 10.20 10.21 10.22 10.23 10.24 10.25 10.26 10.27 10.28 10.29 10.30 10.31 10.32 10.33 10.34 10.35 10.36 10.37 10.38 10.39 10.40 10.41 10.42 10.43 10.44 10.45 10.46 10.47 10.48 10.49 10.50 10.51 10.52 10.53 10.54 10.55 10.56 10.57 10.58 10.59 10.60 10.61 10.62 10.63 10.64 10.65 10.66 10.67 10.68 10.69 10.70 10.71 10.72 10.73 10.74 10.75 10.76 10.77 10.78 10.79 10.80 10.81 10.82 10.83 10.84 10.85 10.86 10.87 10.88 10.89 10.90 10.91 10.92 10.93 10.94 10.95 10.96 10.97 10.98 10.99 11.00 11.01 11.02 11.03 11.04 11.05 11.06 11.07 11.08 11.09 11.10 11.11 11.12 11.13 11.14 11.15 11.16 11.17 11.18 11.19 11.20 11.21 11.22 11.23 11.24 11.25 11.26 11.27 11.28 11.29 11.30 11.31 11.32 11.33 11.34 11.35 11.36 11.37 11.38 11.39 11.40 11.41 11.42 11.43 11.44 11.45 11.46 11.47 11.48 11.49 11.50 11.51 11.52 11.53 11.54 11.55 11.56 11.57 11.58 11.59 11.60 11.61 11.62 11.63 11.64 11.65 11.66 11.67 11.68 11.69 11.70 11.71 11.72 11.73 11.74 11.75 11.76 11.77 11.78 11.79 11.80 11.81 11.82 11.83 11.84 11.85 11.86 11

- 62 -

朝鮮日報 5月31日(日) 2面
 〈見出し〉「韓日共同大規模養殖場
 濟州島近海に建設しよう」
 日本、韓国に提案

“韓日공동 대규모 양식장 제주도近海에 건설하자”

【서울=뉴시스】한정호 기자
 한국과 일본이 공동으로
 제주도 근해에 대규모 양식장
 건설하자고 제안했다. 제안
 내용은 31일 발표된 ‘한일
 공동 양식장 건설 방안’이다.
 이 방안은 한국과 일본이
 공동으로 제주도 근해에
 대규모 양식장을 건설하
 는 것을 골자로 하고 있다.
 이 방안은 한국과 일본이
 공동으로 제주도 근해에
 대규모 양식장을 건설하
 는 것을 골자로 하고 있다.

한정호 기자는 “한일
 공동 양식장 건설 방안”
 이란 제목의 기사를
 소개했다. <Yonhap
 News>
 chosun.com>

この人

韓日関係「2002年体制」へ
 転換主張

国民会議 孫世一 議員
 YN・세일

○ 孫世一 議員は、

“これまでの韓日関係は
 冷戦論理に立脚して”

「(1965年体制) だったから、

今こそ 韓国の政權交際と
 (2002)

2002年ワールドカップ 追求

共同開発を契機に

「2002年体制」への転換が

必要だ」と語り、また、

“これまでの交流が 政權、カネをた
 エリート同士の交流にとどまり、

これから 知識人、民間団体の

交流、地方と地方の交流 とつばかりの強化が重要だ」と主張。

이서삼 韓日관계 ‘2002년체제’를 전환 주장
 국민회의 孫世一 의원



【서울=뉴시스】한정호 기자
 한국과 일본이 공동으로
 제주도 근해에 대규모 양식장
 건설하자고 제안했다. 제안
 내용은 31일 발표된 ‘한일
 공동 양식장 건설 방안’이다.
 이 방안은 한국과 일본이
 공동으로 제주도 근해에
 대규모 양식장을 건설하
 는 것을 골자로 하고 있다.
 이 방안은 한국과 일본이
 공동으로 제주도 근해에
 대규모 양식장을 건설하
 는 것을 골자로 하고 있다.

“일드집 공동개최 계기 민간교류 강화”

【서울=뉴시스】한정호 기자
 한국과 일본이 공동으로
 제주도 근해에 대규모 양식장
 건설하자고 제안했다. 제안
 내용은 31일 발표된 ‘한일
 공동 양식장 건설 방안’이다.
 이 방안은 한국과 일본이
 공동으로 제주도 근해에
 대규모 양식장을 건설하
 는 것을 골자로 하고 있다.
 이 방안은 한국과 일본이
 공동으로 제주도 근해에
 대규모 양식장을 건설하
 는 것을 골자로 하고 있다.

朝鮮日報 5月31日(日) 3面

98.5.28. 朝鮮時報

戦争被害の調査会を

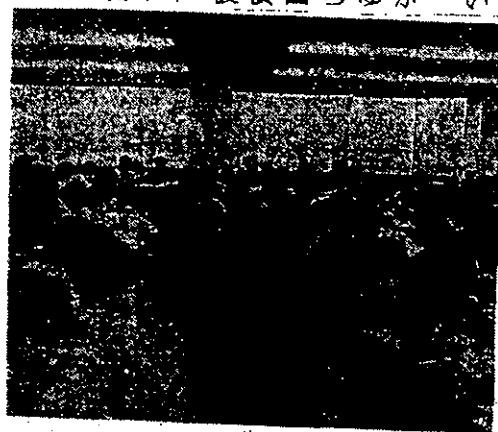
国会議員 東京でフォーラム

「戦争被害者の真相究明調査会」に関する院内フォーラム（主催＝戦後処理の立法を求める法律家・有識者の会・土屋公献会長、戦争被害者調査会を實現する市民会議・西野瑠美子、西川重則代表）が十四日、衆議院第二議員会館で行われ、国会議員、学者、各地の朝鮮人強制連行真相調査団のメンバー、市民運動団体など、日本人と在日朝鮮人の百六十余人が参加した。

中央大学の吉見義明教授が「慰安婦」問題について、神奈川大学の常石敬一教授が細菌・化学兵器の問題について、一橋大学の吉田裕教授が南京事件について、一橋大学の田中宏教授が朝鮮人・中国人の強制連行についてそれぞれ発言した。

吉見教授は「現在非公開になっている警察資料や旧拓務省の資料などが公開されれば一気に真相解明が進むだろう」と述べ、戦争被害などの真相究明のための調査会立法の必要性について強調した。

また田中教授は、「国が戦争犠牲者に対しあらゆる援護立法を行いなから外国人被害者に対しては国籍条項を理由に何一つ賠償してこなかった。まず、被害者の肉声を聞いてその声をくみ上げ、立法化していくべきだ」という動きが内閣からの出るべきだ」と述べた。



「戦争被害などの真相究明調査会」に関する院内フォーラム（14日）

また、各地での真相究明のための調査会立法を求める請願への取り組みについて、福岡の関釜裁判を支援人強制連行真相調査団の関係者などがそれぞれ報告した。

98.6.1. J.T.

When 'sorry' sticks in the throat

The momentum to force global leaders to apologize for past misdeeds appears to be picking up pace. When Tony Blair became British prime minister, he apologized for his predecessors' failure to help Irish victims of devastating famine some 150 years ago. And during his visit to Africa early this year, President Bill Clinton apologized for his country's enslavement of Africans.

This week, a million Australians apologize to Aborigines for the tens of thousands of children who were torn from their parents, ostensibly to "Christianize" them. This national remorse, however, did not include the Australian leader. Prime Minister John Howard had steadfastly refused to utter the word "sorry" to the "stolen generation." Australia, it appears, still has a long way to go in achieving national reconciliation.

Halfway across the world, former World War II prisoners of war clamored

for an apology from Japan's Emperor as he began a four-day visit of Britain.

Queen Elizabeth could empathize with the Emperor's predicament. After all, she was the target of an apology demanded by the Indians when she visited the subcontinent recently.

Seen in this light, the demand for apology from Japan by the British POWs exudes a heavy tinge of irony.

At the same time, however, the British and other imperialist powers should not forget the injustices they had perpetrated in Asia, or elsewhere. The millions of Asians who had suffered not only Japanese wartime barbarity but also centuries of Western subjugation have not quite forgotten, and there have been demands for apologies. But their demands were not taken seriously, and often snubbed, simply because they do not have economic and political clout.

But how many are aware that in addition

to these POWs, some 100,000 civilians from Thailand, Burma, Malaysia and Indonesia also perished? These slave laborers have no movies to etch their pains in living color, no theme songs to lionize their suffering and no monument to cast their memories in stone. Surely, it is not only the rich and the powerful who have the right to remember.

And while the victims have the rights to forgive, the perpetrators do not have the right to forget. Yes, it is time that we should look to the future. But for those who had suffered, and continue to suffer, "sorry" will go some way in healing the wounds.

Indeed, apologies for past injustices are long overdue, and it is those who refuse to forget who will ensure that the world learns from its dark history.

The Nation, Bangkok (May 28)

COLUMNIST

謝罪すべきなのは 天皇ではない

太平洋戦争が政治問題化している日本において
象徴天皇に「聖断」を求めるのは時代錯誤だ

イアン・ブルマ(本誌コラムニスト)

太平洋戦争の元イギリス人捕虜たちは、今回の天皇訪英に際し、父である昭和天皇の名で行われた残酷な行為について謝罪するよう求めている。だが謝罪は行わないだろうし、また行われるべきではない、私は思う。

あの戦争が悲惨でなかったとか、イギリス人捕虜(そして何千万ものアジアの人々)が日本の犠牲にならなかったというのではない。日本においてあの戦争は政治問題化しており、「象徴」天皇は政治問題についていずれの側にもくみする立場にはないからである。

昭和天皇が生簡、正式な謝罪を行わなかったことに腹を立てているのは、イギリス人捕虜だけではない。数年前、中国

に従軍したことのある七〇代の旧日本軍兵士にインタビューしたときのことだ。彼は日本軍によるあらゆる残虐行為を目の当たりにしたという。それだけでは無い。無二の戦友は随分もあらわに、彼の腕に抱かれて息絶えていった。

足りた。だが日本にはナチス的なものではなく、天皇もヒトラーと並ぶべき独裁者ではなかった。そこで軍国主義や武士道、封建主義というあいまいなものが諸悪の根源とされたのである。

本再軍備に突き進んだ。これを平和主義に對する裏切りと感じた左翼は、日本の旧軍国主義者とアメリカの帝国主義者が日本をかつて来た道に引き戻すべく、手を組んでいると訴えたのだ。

日本の戦争犯罪が天皇の名の下に行われたものである以上、一九四五年に天皇は少なくとも

左翼を含む多くの日本人は、これを歓迎した。軍国主義者は日本を戦争に突入



天皇訪英に反対するイギリス市民

た。だからこそ今、日本は世界平和の希望の光になるべきだと考えたのだ。もちろん、右翼にとつて面白いはずはない。彼らにとつて、平和憲法は主権を骨抜きにする屈辱的なものであり、東京裁判は典型的な「勝者の論理」の押しつけた。こうした見方は今日でも残っている。日本は戦争から何も学ぶことなく、下手をすると一丸となって復讐に燃えているのではないかと印象を外国人がいだくのは、そのためだ。

やがて冷戦が始まり中国とソ連が双子の脅威になると、アメリカは一転して日

日本統治が円滑になると考えたのだ。日本政府が正式謝罪を拒み続け、現天皇が謝罪できないのは、戦後アメリカの対日政策に遠因があったと、私は思う。

た。だからこそ今、日本は世界平和の希望の光になるべきだと考えたのだ。もちろん、右翼にとつて面白いはずはない。彼らにとつて、平和憲法は主権を骨抜きにする屈辱的なものであり、東京裁判は典型的な「勝者の論理」の押しつけた。こうした見方は今日でも残っている。日本は戦争から何も学ぶことなく、下手をすると一丸となって復讐に燃えているのではないかと印象を外国人がいだくのは、そのためだ。

現天皇は、個人としては謝罪したい気持ちなのかもしれない。それでも、今の天皇に戦前のような権限を与え、政治問題について「聖断」を求めようとするのは、あまりに時代錯誤だ。

謝罪すべきなのは政府なのだ。だがマッカーサーの置き土産である平和主義によつて国論が二分している間は、それを期待するのは無理だろう。

平和憲法で国論が真つ二つに

第二次大戦に勝った連合国は、ドイツと日本に再び戦争を起こさせてはならないと決意した。それには、両国の「国家的整理」を模治させる必要があった。

ドイツの場合、結果は明白だった。ナチズムとナチスを摘出し、排除すれば事

足りた。だが日本にはナチス的なものではなく、天皇もヒトラーと並ぶべき独裁者ではなかった。そこで軍国主義や武士道、封建主義というあいまいなものが諸悪の根源とされたのである。

その結果、左翼だけでなく多くの日本人が、憲法こそ平和を保障し、軍国主義を防ぐ唯一のとりでだと信じるようになった。そのなかで守勢に立たされた右翼は一段とたかくなかった。左翼が日本の歴史的病理と軍国主義的体質、日本軍の残虐性を強調すればするほど、右翼は日本の戦争行為がとくに異常なものであったことはなく、それに対して謝罪するのは「東京裁判史観」に屈服することになると主張するようになった。

日本が終戦五〇周年に際する国会決議で正式謝罪を盛り込むことができなかったのも、歴代の首相が個人的な遺憾の意の表明以上に踏み出せなかったのも、このような政治的対立のためである。

政治家がこの問題に決着をつけない以上、天皇にできるわけがない。天皇が明確な謝罪を表明しようものなら、政治論争の一方に加担することになる。それは、憲法で禁じられた行為なのだ。

現天皇は、個人としては謝罪したい気持ちなのかもしれない。それでも、今の天皇に戦前のような権限を与え、政治問題について「聖断」を求めようとするのは、あまりに時代錯誤だ。

謝罪すべきなのは政府なのだ。だがマッカーサーの置き土産である平和主義によつて国論が二分している間は、それを期待するのは無理だろう。

元「従軍慰安婦」に「償い金」届ける「女性のためのアジア平和国民基金」 原文兵衛理事長に聞く

「日本国民の善意を」

韓国の人にも理解してほしい」

九〇年代になって

注目浴びた「従軍慰安婦」問題
「従軍慰安婦」の問題は九〇年代になって
大きな関心を呼ぶことになりました。最初に
名乗り出られたのは韓国の金学順さんでした。

原 そうですね。そういうことがあったとい
うことは皆知っていました。戦争中、軍
隊にとられて捕ってきた人がいるわけですが、

しかし、九〇年代になるまでは、問題に
ならなかった。ところが元「慰安婦」の方で、
名乗り出る人もいて大きな問題になったわけ
です。戦争中には「従軍慰安婦」という名



称はなかったんですよ。「慰安婦」という名
称はありましたが。しかし、そういうことが
確かにあったんだから、日本人の一人として
なんとかして償いをしなくちゃならないの
ではないかとなった。

—そこで日本としては、どういう形で償いが
できるかということになります。

原 日本としては法律上の国家補償は済んで
いる。日本は韓国とか中国とか、その他の国
々で、サンフランシスコ条約に加盟している
ところとは、この条約で、加盟していないと
ころとは二国間協定で賠償・補償は国際法上
は済んだことになっている。個人への国家補
償は条約上、協定上済んでいるからできな
い。しかし、道義的には放ってはおけない。

それで国民の善意の償いとして「償い金」を
出す。また医療福祉事業には政府のお金を出
すことになったのです。つまり「女性のため
のアジア平和国民基金（アジア女性基金）」
で、国民と政府との二足三脚というか、協力
して問題にあたろうということになったわけ
ですね。

「強制連行の物証はないが、

旧日本軍の関与はあった」

—旧日本軍がこのことに関与していたとい
うことですね。

原 旧日本軍が関与していたということは、
慰安所をつくるのに便宜を齎したり、慰安婦
を船で輸送するのに関与していたというわけ
です。ただし、国なり軍なりが直接強制連行
したか、ということになると、これに関与し
ていたことを証明するのは今現在、出てい
ないんです。しかし、周知人というか、女衛
（ぜい）んとも言う売春婦を募集したりして
いた人たちが、朝鮮半島で女性を集めるのに
「お上の命令だ」とか「軍の命令」だとか言
って集めていたかもしれない。しかし、軍は
そういうことは命令はしていないんです。

—軍は直接、強制連行してはいないというわ
けですね。

原 そういう証拠は何もない。募集する民間
の周知人は「軍の命令」だとか、言いかねな
い。そうすると、それを聞いた年若い女性な
んかは、それを本気にするようになる。だか
ら軍に強制的に連れて行かれたと思ひこんで
いる女性もいるだろう。しかし、軍が強制連
行したのではないとしても、それは気の毒な
話です。そういうことを含めて何らかの道義
上の償いをしなければならぬということでは
「アジア女性基金」ができたわけです。

—日本人の中には、いわゆる商行為として軍
の関与を否定する人もあるようですが。

原 それはいろいろですよ。昔は日本にも女
郎屋さんというか、公娼制度もあった。そこ

では賣う人と売る人がある。それは商行為
ですよ。そういうのもあったし、あるいは
強制的にいやだといやだというのに無理に性的
行為をさせられたり、いろいろなんですよ。

—軍が政策的に関与していたということはない
のですか。

原 それは、最初は中国で、韓女子へのレイ
プ・強姦があった。強姦は日本軍の感情を傷
つけるし、反感をかう。そこで強姦を避ける
ためには慰安婦を送らねばならないのじゃな
いか、となった。そういう文書がちゃんと陸
軍省にあるんですよ。それは、むしろ重荷を
保って、強姦なんかさせないためだった。一
番最初は、そういうところから出発してると
ですよ。

—そういう軍の方針があったわけですね。

原 それは、ちゃんと副官が出した文書が残
っているんですよ。そういう意味では関与し
ているわけですね。また慰安婦を送った先で、
慰安所の場所も作ってやらなければならな
かった。

—では責任についてですが、道義的な責任は
あるということですね。

「法的責任は済んでいるが、
道義的な責任はある」
原 法的な責任に対して、道義的な責任とい
う意味ですよ。国際法上の責任、つまり賠償
・補償は済んでいるということ、それはで

きないが、道義的な責任はあるということですね。

—日本と韓国では一九六五年の日韓協定で済んでいる、ということですか。

原 六五年の日韓協定でね、中国との間では田中角栄さんが行った七二年ですね。それでみな済んでいるから、国際法上二度は出来ません。日本の国として、済んでいるものをまたやるなんてことはできないんですよ。そういう見解を、日本の政府はとっている。だから国としてやるわけには行かない。

けれども、国民の善意の拠出金でもってやっで、道義的な責任を果たす。十分ではないけれども、少しでもいいわけを元「従軍慰安婦」の人達の気持ちに安んずれば、という気持ちでこの償い金を差し上げることになっている。それだけでは足りない。みな年をとって体も弱っているし、住むところも困っているだろうから、医療福祉の事業は国の予算でやろうということなんです。

—最近の国連人権委員会のクマラスワミ報告では基金の道義的な事業については、一定の評価を与えているようですが、法的な責任については批判をしています。

原 国連人権委員会の方では、法的責任についてはまだ決まっていなくて、日本の国として既に決まっているという立場を取っている。そこで我々も、この立場に則って基金を作ったわけです。日本人の中にも国家補償すべきだという人もたくさんいる。しかし、国としてはそれはできない立場を取っている。我々がやってきたことに対しては国連人権高等弁務官のロビンソンさんも、国連人権委員会のクマラスワミさんもだんだんわかってきて評価してきている。国連の報告の内容もずいぶん変わってきたんですね。

—韓国の方では、六五年当時はどういう問題

は無く、国として補償と謝罪をすべきだという主張が強いようです。

韓国政府は個人への国家補償を要求

原 国として謝罪はしているんですよ。総理大臣の手紙が添えられているんですから。「償い金」というのは「補償」ではないという意味で我々は出している。橋本総理大臣のおわびの手紙があります。総理大臣が国を代表するんですよ。国民と政府を代表して、おわびの手紙を出している。

—それは、国として謝罪をすることになるわけですね。

原 国と書かれても、日本国が謝罪するなんてことはあり得ないでしょう。総理大臣が代表して、過去にあったことは申し訳なかったとおわびの手紙を出している。そのことも含めて国連の方では評価してくれている。

—ただ韓国の方では納得していない。

原 韓国の方でも初めは国の補償は終わっているという立場をとっていた。それが、いわゆる元「従軍慰安婦」個人に対して日本の国が補償してもいいじゃないか、としているらしいんですが、正式には聞いていません。私も新聞で読んでいただけですから。—そういう声があるのに対し、日本の方ではどうするのでしょうか。

原 そういふ声があることは承知しています。しかし、我々の方針は絶対に変わりませんし、変えるべきではない、変えちゃいけないのだと私は思っています。国家補償はできないという立場で基金の事業をしている。この方針は将来とも変わらないうです。国家補償するんなら、この基金なんか作る必要はないんですから。

—国の国際法上の法的責任は取れないという

ことでですね。

原 それは、私がうんぬんすべきではないんだけれども、国家補償は国としてできないと言っている。その前提に立って、基金の事業をすすめているわけです。

—ところで理事長は、戦争中に旧内務省で仕事をしていたと聞いております。

原 戦争中は応召で軍隊にとられて、四年間満州にいました。旧満州には、いわゆる「従軍慰安婦」というものは、私のいた頃は私の知っているかぎり無かったです。内務省でも旅券や輸送の便宜を図るとかやっていたかも知れないが、私自身はタッチしていませんし、どこで関与していたかは全く知りませんでした。しかし、日本国民として、申し訳なかったという事で、私自身もこの基金の理事長の仕事をお引き受けしたわけです。

歴史共通認識は可能か

—今日、日韓で歴史共通認識という作業が進んでいますが、理事長はどう思われますか。

原 これはいいことだと思えます。良いところは良い、悪いところは悪い、ここは正しい、ここは間違っているとお互いに認識なく話し合って、共通認識をできるだけやるべきだと思います。最近、韓国でもそういう空気が出ているんですよ。是非やってほしいと思います。

—この問題でどういう共通認識が可能でしょうか。

原 私としては、我々日本国民の善意を韓国の方に是非理解していただきたい。我々のおわびの気持ち、つぐないの事業を受け入れて欲しいと思っています。私も日韓親善協会の仕事にかかわってきました。それは、平と韓国はお隣同士で古くからつながりがあつた

し、「日韓併合」ということで、韓国の国民としては大変つらいこともあったと思います。ですから、できるだけいろんなことをして、日韓友好をすすめていかなければならないと思っています。これからはそのつもりでやっていきますよ。そんなことで共通認識は、お互いにとらわれないで話し合えば可能だと思いますよ。

—とらわれないで話し合うという意味は、

原 日本側から言えば、「韓国が反日教育をしている」とか、韓国側から言えば、「日本は謝っていない」とやりあつていたんではだめなんで、あくまでも、「これは日本が悪かった」、「これは韓国がうらみすぎで、そんなに日本が悪くなかったんじゃないか」というような歴史に対する共通の認識ですね。

—ところで、理事長は一九二三年生まれという

ことで、お元気ですね。

原 もう八十五歳ですよ。私も隠居したいですよ。しかし、大学の先生や弁護士さん、女性の活動家とかの基金の理事や運営委員の方々が、年長者の私が理事長にいてほしいと言われる。私も、こういう問題をお互いに気持ちよく解決するために、少しでも役立つのなら、日本国民の一人として全く専任でやっています。

—今日は率直なお話をしていただきありがとうございます。どうございました。

☆ ☆ ☆

「女性のためのアジア平和国民基金」元「従軍慰安婦」への償いと、女性の名誉と尊厳にかかわる今日の課題の解決を目的として、一九九五年七月に発足。同基金によると「九八年三月現在で約四億八千二百二十万円の基金を集め、フィリピンや韓国などのいわゆる元「従軍慰安婦」の方々七千人以上に「償い金」等を届けている」という。

98.6.7. 朝日



元慰安婦の鄭李洪さんの通夜に出るため、韓国慶尚北道の海辺の小さな村を三月に訪ねた。彼の音が聞こえる小さな平屋の家には、肉親や支那客ら十五人ほどが集まっていた。

「せめて死ぬ前に故郷をもう一度見たい」と話していた鄭さん。故郷の人々に囲まれ、やすらかに死ねたのだろうか。

中国に取り残された朝鮮人元慰安婦たちが帰国を求めている。しかし、これまで韓国に帰国できたのは鄭さんら三人に過ぎない。老いが進むなか、支援者たちは時間との戦いに悩んでいる。

鄭さんに初めて出会ったのは一九九三年、中国安徽省太和県であった。李太英という中国名を名乗っていた。「家族に会いたい」。中国語で絞り出すような声で語った後、日本の軍人の前で歌わされたという日本船の歌を突然、始めた。韓国語は片言しか話せなくなっていた。

鄭さんは二五年に慶尚北道甘浦で生まれた。十四、五歳のころ、釜山の港で男たちに拉致され、中国・ハルビンなどの慰安所で日本軍の兵士とを相手に働かされたという。終戦後、國民黨と共産党の内戦が始まり、韓国へ戻る道が開かれた。

九二年の韓国憲法制定を機に帰国を求め、九四年に一時帰国して家族と対面した。しかし、当時はまだ、在韓の韓国人で移住が認められるのは「抗日戦の功労者」に限られていた。韓国政府は世論に圧される形で、「元慰安婦安婦」を移住の資格者に加え、鄭さんの道が開けた。念願の帰国がかなったのは九六年三月だった。

鄭さんの一時帰国をきっかけに韓国で関心が高まり、中国武漢市などに十人の朝鮮人元慰安婦がいることがわかった。二人

韓国へ帰郷願う元慰安婦

古谷 浩一

朝日新聞

私の見方

は帰国できたが、その後、一人は死亡、一人は家族の事情で希望を取り下げ、六人が現在も帰国を望んでいる。新たに四人が異なったとの情報もある。何人の朝鮮人元慰安婦が今も中国にいるか正確には分からない。

帰国が難しい理由の一つは、彼女たちが韓国人であることの証明が困難なためだ。家族の居場所も分からず、韓国語を忘れていた人も多い。記憶を裏付ける証拠は極めて少ない。また、かつては中国と韓国の国交がなかったため、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）籍で外国人登録をしたという問題もある。

中国には約二百万人といわれる朝鮮民族が住むが、日本の植民地支配によって中国に来た人も少なくない。こうした人々の中にも韓国への帰国希望があることも手続きを複雑にする。

帰国を果たした三人は条件が比較的整っていたが、それでも準備に三、四年を要した。複雑な生活費を含む経済的負担は、ソウルのキリスト教会が担った。同教会長老で貿易会社社長の金原東さん（七三）は「日本の責任を問う前に、苦しんでいる同じ民族に対して出来るだけのことをしてほしい」と話す。

三人は帰国後、慰安婦時代の思い出と、六〇年代の文化大革命での迫害をよく話した。日本帝國主義との関係を問われ、厳しい批判にさらされたからだ。人生の大半を不幸にされた、と考える元慰安婦が、少女のころに離れたきりの故郷を思う気持ち強い。

この問題に詳しい浦項工科大学の朴重浩教授（中国現代史）は「元慰安婦たちはすでに高齢で、健康に不安のある人もいる。人道的にも早急に解決する方法を見つけてあげなければいけない」と話す。中国残留の日本人孤児の問題解決もままならなかった日本に、もう一つの難関が突き付けられているともいえる。元慰安婦たちには、帰郷という人間的な願いさえかなえられないのだから。私たちはこの現状を直視しなければならぬ。

男女共同参画「基本法」制定に向け始動

従来の価値観 脱却

「男女共同参画社会基本法」（仮称）が、制定に向けて動き出し、来年度の通常国会に政府提案で法案提出が予定されている。現任、総理府の同僚委員会（会長・当男婦参事大蔵）の基本法小委員会が法案作成に向けて行った議論を「論点整理」としてまとめており、六月中旬に公表される。（田原俊臣）

「これまで政治も経済もほめて少子・高齢化が進み、家と男性が担い、一方の女性が多様な、国際化はさら性の能力は使われてこなかった。社会や経済の要たんで、価値のない日本に適切に対応するためにあるのは人材だけ。男性もは、従来の価値観の転換をは口ポットのようになされて現すること。そのために基本法がいま必要なんです」と一語法が求められていきます」と当男さんは強調する。

●性差に関係なく個性が● ●発揮できる社会づくり●

必要性について語る。基本法の必要性は「男女共同参画社会」とは女性「同参画」の（男女共同参画）も男性も政治的経済、軍事や参事大蔵、一九九六年七閣議などあるものに共に参月や「男女共同参画二〇〇〇」責任を担い、利益も事〇年（男女共同参画）受けていくことが出来る社会推進本部、四月十二日で閣議合い（参事）女性男性にかかわる各人の個性が発揮できる社会だ。

「これから二十一世紀に参は、昨年六月から「男女共同参画社会の実現を促進する

今月中旬に「論点」まとめ公表
一般からも意見公募
10月めどに最終報告

るために財政措置を講じなければならぬ」とか、男参事大蔵の状況を毎年国会で報告することなどを盛り込み、閣議決定（ボジティブ・アクション）についても検討されるはずだ」と話している。

「基本法は女性のためだけでなく、男性にもかかわる法律です。法律ができれば、人々の法を解釈し、立法について提案したり、政策推進のために基本計画を出すなど、男女共同参画社会をつくる積極的な条件作りが法律で保障されたことになる。これが重要なことなんです」

参事大蔵が公表された一般の意見は七月末まで公募し、十月を目途に最終報告をまとめる。



「基本法は女性だけでなく男性にとっても大きな法律です」と参事大蔵・参事大蔵・参事大蔵

「基本法は女性だけでなく男性にとっても大きな法律です」と参事大蔵・参事大蔵・参事大蔵

1998.6.9. 東京

【東京=金正賢기자】
 日本の「子どもの権利条約」遵守状況を調査した国連審査委員会が、去る5日に日本政府に対して、朝総連系朝鮮人学校に対する差別を、早期に是正するよう勧告したことが明らかになった。国連審査委員会は、日本国内の朝鮮人学校が正式学校として認定を与えられておらず、卒業生が国立大学受験資格を与えられないことは差別に当たるとみなし、このような勧告案を用意したと毎日新聞が6日、ジェノヴァ発で報道した。(2面)

유엔 "조선인 학교 차별 말라"

朝鮮日報 6月 8日

見出し: 国連 「朝鮮人学校差別なくすように」
 小見出し: 日本に是正勧告

日本の「子どもの権利条約」遵守状況を調査した国連審査委員会が、去る5日に日本政府に対して、朝総連系朝鮮人学校に対する差別を、早期に是正するよう勧告したことが明らかになった。国連審査委員会は、日本国内の朝鮮人学校が正式学校として認定を与えられておらず、卒業生が国立大学受験資格を与えられないことは差別に当たるとみなし、このような勧告案を用意したと毎日新聞が6日、ジェノヴァ発で報道した。(2面)

韓国日報 6月 9日

見出し 日本文化の開放、大学生の75%が賛成

大学生の4名のうち3名が、日本文化の開放に賛成しているとの調査結果が明らかになった。

SK 生命が去る22日より一週間、ソウル市内の大学生を対象に質問調査をした結果、回答者のうち75%が日本文化の開放に賛成と答えた。

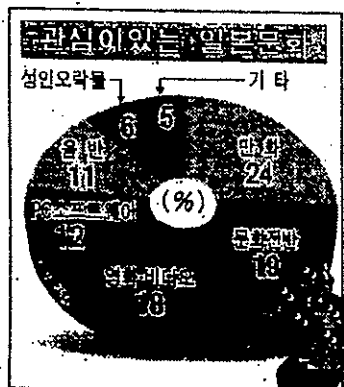
しかし、わが国に日本文化の受容に対する準備が整っているかとの質問に対しては70%が「心配である」と答え、「性文化」等、低俗な文化の氾濫(43%)、文化的従属(31%)、歴史意識の忘却(13%)の順に理由が挙げられた。(21面)

関心のある日本文化(円グラフ)

漫画	24%
文化全般	19%
映画・ビデオ	18%
PC ソフトウェア	12%
レコード・CD	11%
成人娯楽物	6%
その他	5%

일본문화 개방 대학생 75% 찬성

대학생 네명중 세명이 일본문화의 개방에 찬성하는 것으로 조사됐다. SK생명에서 지난달 22일부터 일주일간 서울시내 대학생 548명을 대상으로



로 설문조사한 결과에 따르면 응답자 중 75%가 일본문화개방에 찬성한다고 응답했다.

그러나 우리가 일본문화를 받아들일 준비가 되어있다는 질문에 대해 70%가 「걱정된다」고 응답했으며 그 이유로는 성문화등 저질문화의 범람(43%), 문화적 종속(31%), 역사·의식의 망각(13%) 순으로 꼽았다. /유병률기자

戦時下の性暴力裁く
戦時下の性暴力を戦争
犯罪として裁く「女性国際
戦犯法廷」を二〇〇〇年に
開くための準備シンポジウ
ムが七日、東京・飯田橋の
シニアワーク東京であり、
戦後補償問題の研究者ら約
二百五十人が参加した。
兵士による集団強かん事
件や慰安婦制度が戦後の戦
犯裁判でも十分に裁かれて
こなかった理由について、
内海愛子・東京女子大学大教
授や大越優子・近畿大助教
授が報告。国際法によって
個人を裁くために設立され
る国際機関「国際刑事裁判
所（ICC）」が①女性へ
の暴力を裁けるようにする
②人事構成でジェンダーバ
ランス（男女平等性）を保
証する——などを求める日
本政府への要請書をまとめ
た。また、公開中の映画
「フライング」が東京裁判を批
判しながらも「アジア侵略
の根本人を美化している」
として抗議声明を出した。

98.6.7. J.T.

Efforts mount to aid abused women

Group offers advice, escape routes for domestic violence victims

By AKEMI NAKAMURA
Staff writer

KOBE — As discussions about domestic violence in Japan become less taboo, more support groups are springing up to help women who are physically, psychologically or sexually abused by their husbands or boyfriends.

The Japan Domestic Violence Prevention and Information Center, which opened here in Kobe last month, is one of the newest organizations to offer assistance. The center, founded by 10 women, including three medical professionals, two counselors and a lawyer, said it has so far received about 30 calls from victims of domestic violence.

"The women who called here for consultation, from as far away as Fukuoka and Sendai, talked about their experi-

ences of being beaten, kicked and financially cut off for years. They ranged in age from their 20s to their 70s," said Yuka Michizeki, a founding member of the center.

The center also provides information on abuse shelters and procedures for receiving public welfare support and assists in preparing women to escape from violent households.

One of the center's concerns is bettering public awareness and education of domestic violence. To this end it hopes to form a support network with private groups.

"Domestic violence is a problem that can exist anywhere," said Hiroko Tomoda, one of the center's founders and an associate professor at Osaka City University College of Nursing. "Although many victims have yet to take

action to escape from their brutal situations, they have started revealing their problems to those other than their friends and relatives."

Domestic violence in Japan has traditionally been treated as a secret source of family shame, but attitudes have been changing since feminists and scholars began bringing the issue to the public's attention in the early 1990s.

According to a Tokyo Metropolitan Government survey on domestic violence conducted last summer, about 25 percent of some 1,553 women surveyed have been victims of physical, psychological or sexual violence in a relationship. The survey said about 15 percent of the victims told others, mainly friends and relatives, about the abuse, which included verbal threats of financial abandonment.

Other forms of abuse ranged from physical violence to sexual abuse, which included husbands refusing to use contraceptives during sex, according to the report.

"Relatives often tell the victims that they should persevere through the violence or that they are being punished for a fault," Michizeki said. "The advice can become an additional ordeal for the women."

Although the number of domestic violence shelters has increased from seven in 1995 to about 20, founders of the center say more facilities and public-sector support systems are necessary to help battered women.

Police and medical institutions usually deal with domestic violence between couples as a family matter, Tomoda said.

"As legal and medical au-

thorities work together to save abused children, a similar system should be established to help the (women) victims," she said, adding that domestic violence is also abusive to the children involved.

Although a few dozen people have already contacted the center with information on existing shelters and with offers to volunteer or give donations, the center hopes to elicit more volunteers and counselors.

"It is difficult to solve domestic violence without police cooperation, medical institutions, welfare facilities and help from other legal sectors," Michizeki said. "Education is the key to preventing the problem."

For information, call the center at (078) 822-0284 between 10 a.m. and 2 p.m. Monday, Wednesday and Friday.

警視庁

東京月報安藤に報告処分
 を受けたのは「日刊ゲンタ
 イ」(日刊現代発行、公称
 百三十万部)の五月九日付
 記事と「東京スポーツ」
 (東京スポーツ新聞社発
 行、公称二百五十万部)の
 三月十日付記事。
 「日刊ゲンタイ」で問題にな
 ったのは、ポルノ小説や性
 風俗店紹介のページに連載
 された「興奮度がアップす

A black and white photograph of a Japanese city street scene, likely Osaka. The image is taken from a low angle, looking down a street lined with multi-story buildings. A large, prominent sign for 'HARAJUKU' is visible on the right side of the street. The buildings have various signs and architectural details, including balconies and awnings. The overall atmosphere is one of a busy, urban environment.

註意する」という内容の書約書を書いた。日刊シタイは掲載写真の原板を提出したという。同紙は、同紙の記事が再び掲載された場合は立件すると通告したと説明している。

書検庁保安課では、担当の検査員が毎日、東京都内で発行された出版物を、

所が戦後、日刊新聞をわいせつ関連密接で摘発したことはないといふ。

スポーツ紙で夕刊紙にポルノ記事や性風俗情報等のページが登場し始めたのは一九七〇年前後で、一紙が数社たところの飛び上げ部数が伸び、他紙が追随したとされる。取替や運動車内

薄上橋一・月刊サンデー編輯局長の願
目刊サンデーは週刊誌を月刊にした縁
糸紙として出籍している。その意味で政
治経済、野獣、葦龍に加え、性風俗記事
にも読者のニーズがあると思ふ。大部分
を順の売店で売っており、無暗途中のサ
ラリーマンを顧客としてゐるわけではな
い。その目には触れないはずだ。性風俗記
事は、娯楽団体の首都圏新聞販売委員会
の規範の範疇をうかがひに掲載してい
る。(今回から) 雑誌を売るだけでなく
ないし願う。

横井雄三・東京スポーツ新聞社編集局長の語。読者のニーズもあり、「明るい性表現」を編集方針の二つにしている。陰謀なものは取り上げていない。成人として、セックス関連の表現を禁じるのは人間本来の姿ではないか。必ずしも悪いと決めたわけではない。「子どもが読んで困る」という抗議をきいたことはあるが、それは親が家庭に持つべきではないようにしてほしい。今回の記事はチェックミスで、書名を誤って当然だった。「表現の自由」の問題とせざるを得ない。

桂城一・立命館大教授「マスメディア論」の點 新聞やテレビのようにだれもが接することができるメディアの場合、性表現の品位をどう保つかは重要な問題だ。メディア側の落度度をきつかけ、「表現の自由」に警察権力が介入すると、肥大してひと歩きする危険性がある。これは一部の夕刊紙やスポーツ紙の問題ではない。メディア全体が自分たちの問題として、読者とともに議論する環境を作らなければならない。メディアのオンライン・オフライン制度も必要ではないか。

男性と買春を考へる会、柿木和代さんの話。ボルノ・グライフは男性の性暴力を誘発する。男女のいい関係がつくれない限り、男性にとつても有害だ。わいせつな誘惑が問題なのではない。表現の自由といふが「いやだ」という意思を表現する自由も尊重されるべきだ。女性の多くは、電車内で目に入るボルノの記事を見たくない」と強く思っている。スポーツ紙や夕刊紙の性風俗記事は、性風俗店や買春のほうに助のよめな内容はかなり、「ボ・グライフ・メディア」を批判したい。

「性奴隷」

国際戦犯法廷

戦時・武力紛争下の女性
への暴力問題に、女性たちが
力を合わせて取り組むた
めに結成された「戦争と女
性への暴力」日本ネットワ
ーク(AWWNET
Japan・松井やまゆり代
表)の結成記者会見がシウ
ム日本軍性奴隷制を禁ず
女性国際戦犯法廷に向け
て「が七日、東京・飯田橋
のシニエワーク東京で行わ
れ、二百五十人が参加した。

同ネットワークでは、日本
軍による性奴隷被害者の
名簿と証拠の回復を求め、
日本の戦争・戦後責任を究

「性奴隷」解明を
京

国際戦犯法廷に向けシンボ

戦時・武力紛争下の女性
への暴力問題に、女性たちが力を合わせて取り組むために結成された「戦争と女性への暴力」日本ネットワークは、その世界各地の戦時・武力紛争での女性被害者の痛みを分かち合うなどの三課題を設定、二〇〇〇年十二月に同法廷を開くことをめ

たうにや。

尹真王様國短身歌問題對
策協議會・共同代表は「女
性國際刑法廷」を開かね
ばならぬと断言、今も旧
日本軍「性奴隷」の被害者
が責任者の処罰を求めてこ
る圧力を強調。

西野理美子さん（ルボラ
イタ）は、旧日本軍慰安
婦の真相究明のため、被
害者は半世紀もの間沈黙し
てきたが、沈黙の構造と王
様の解明の記録を女性の視
点で描いていく、加害の記録
化の二課題を挙げた。

New options for women ^{J.T.} who take life too lightly

By LIKA MACLEOD

Special to The Japan Times

Each of the 90 families in Shizhuqiao village has its own store of the dark brown bottles, their labels yellowing or gone. The potent chemicals they contain have transformed modern Chinese agriculture, aiding farmers in their age-old battle against nature's pests. But in recent years the village has suffered a far more tragic blight: Those same pesticides are taking away its wives and daughters, too, in a quiet, desperate, nationwide protest that puts rural China in the running for suicide center of the world.

Peasant farmer Luo Xiahua killed herself on Sept. 22, 1994, shortly before her 39th birthday. Three years later, her husband Luo Fangrong recounts that night in Shizhuqiao, Shaodong County, in central China's Hunan Province.

"It was about 8 o'clock, and I was sound asleep. Suddenly, our youngest daughter burst into the room, screaming madly, 'Daddy, quickly. Mummy is going to die.' I jumped up, following my daughter to the hall, where I found my wife lying on the ground, white foam around her mouth, obviously in agony. Near her body was an empty bottle of pesticide, filling the room with a strong smell. 'Why did you do it?' I asked her, tears rolling down my face. 'I do not really blame you.' She was in tears, too. 'I blame myself. I am very sorry. It doesn't matter if I die. Please take good care of our daughters.'"

She could still talk then. But by the time her husband had carried her on his back to the local clinic 2.5 km away, she was already unconscious. She never woke. Xiahua left three daughters aged between 7 and 18, a heartbroken husband and a slightly guilty lover.

A long tradition of suicide

The hard country life, marital disputes and the stresses of the reform era have combined to make China, for some of its inhabitants, the deadliest place on Earth. Luo Xiahua was just one of the estimated 350,000 people who commit suicide in China every year, the majority of them young rural women. A World Burden of Disease study published in September 1996 credits China with 56.6 percent of all female suicides worldwide — an astonishing figure considering that China claims only 21 percent of the world's female population.

Luo Xiahua is one of a handful of Shizhuqiao victims. People here are reluctant to view suicide as a problem, but if asked about the drinking of pesticides, each woman has several stories to tell. Family conflict is often the cause; easy availability makes pesticide the method of choice. One 30-year-old woman drank a bottle of pesticide after one too many fierce arguments with her nagging mother-in-law. Her husband, the usual mediator, was away in the city.

"The issue of rural women committing suicide is not new," said Xie Lihua, editor of the self-help magazine Rural Women Knowing All. "China has a long history of such female deaths: A girl born into a farmer's house is normally neither welcomed nor valued, so she grows up without valuing herself. Today, the only difference is that the suicides have taken on modern features." Xie believes that the low status of women in the countryside is the main force driving so many over the edge. Her magazine quotes one source as saying up to 48 percent of all Chinese who kill themselves are rural women.

"For urban professionals," Xie added, "a family is only a part of our lives. But a country woman cannot see the world beyond; her family means everything to her. Once something goes wrong in the family, she thinks the whole world has gone."

Realizing that suicide was a widespread problem, Xie initiated a monthly column in her magazine titled "Why do they choose the *qingsheng*?" — the column reports on and discusses female suicide in the countryside. (*Qingsheng*, committing suicide, literally means "light life" in Chinese.) "When we go down to the countryside to do interviews," Xie said, "we often hear of one family's daughter committing suicide, and then another family's daughter-in-law too, as if these were commonplace events. The bottom line is to teach women in their minds how to cherish their lives. Of course, a lot of traditional concepts will not be changed for a long time to come."

The road to one woman's death

Luo Xiahua's story is sadly typical. It began when her husband, Luo Fangrong, left to find work in the booming southern city of Guangzhou. Their home in southern Hunan Province is not as poor as some; yet every family has at least one member earning badly needed cash as a migrant in the city, for farming is hard and unrewarding. As usual, Luo Xiahua stayed at home, looking after their three daughters as well as working the fields.

There was a bachelor in the village, another Luo, who ran a small lead mine in the nearby hills. Being fairly well-off, this man enjoyed color TV, while many neighboring families lacked even a black-and-white set. Like many of her neighbors, Xiahua used to go to his place to watch TV after a hard day's work. Though four years younger than Xiahua, Luo took a fancy to her; a fatal affair began.

After Fangrong returned home a few months later, he heard vague gossip and hints about wearing "the green hat of the cuckold." At first he refused to take the gossip seriously. "We were introduced by matchmakers; though we were from the same village," he said. "But we courted and decided to get married ourselves. I never beat her or treated her badly. It never occurred to me that our relationship had any problems."

Originally, Fangrong had come back to help with the harvest. Later, he changed his mind and got a job at Luo's mine. As the boss at the quarry, the lover Luo would arrange for the husband Luo to work the night shift whenever possible (for slightly higher pay than day work). As time went on, Fangrong became increasingly suspicious. One night, he pretended to leave for work, but returned to surprise the lovers in bed. By the next day, everyone in the village knew about the scandal; it was the best free entertainment in that quite rural area for some time.

"I was quite surprised when I heard the news," said one woman, a distant relative of Xiahua. "She was not a 'floating flower' or that type of woman at all. But maybe she was fed up with sleeping alone."

"In a way, you can see why (it happened)," another villager said. "Poor Fangrong is even shorter than his wife. That man (the other Luo) is taller, livelier, younger, richer."

Xiahua had enjoyed a reputation as a capable, hardworking and honest woman.

1/3

an. Now, she was disgraced and publicly humiliated. People would point at her back, saying in a voice loud enough for her to hear, "Look! that's the woman who steals men!" Two days after the discovery, Xiahua decided the only way out was to die, thereby fulfilling a local fortuneteller's prediction that she would never live to see her 39th birthday.

"She always cared about her reputation a lot," her husband said, sitting by the bridge at the entrance to the village. "But I would have forgiven her, provided she gave up that man. It's good you're writing her story," he added, "just to let people know it does no good to commit suicide. My children and I had such a terrible time after she left us. You know, she regretted it after she drank the poison."

And he sighed again.

Planning for prevention

The World Burden of Disease study, conducted by the World Bank, the World Health Organization and Harvard University, is not the only research under way on this sensitive subject. Others at work include Befrienders International, an international charity group, China's own Ministry of Public Health and Canadian psychiatrist Dr. Michael Phillips.

With over 12 years experience working in China, Phillips believes the World Bank figures may be inflated, yet he agrees that, regardless of the source of the data, they show the same pattern: Most of the suicides in China take place in the countryside. The rate of rural suicide is three times the urban rate, and many more women commit suicide than men. In fact, China is the only country in the world where that is the case.

Currently, Phillips is collaborating with the Chinese Academy of Preventive Medicine on a pilot project researching the suicide phenomenon. CAPM's 145

disease surveillance points also provide raw data for the World Burden of Disease. Projections from these samples to the whole population concluded that the annual Chinese female suicide rate was 33.5 per 100,000 in 1990 (the latest available year for figures), while the average world female suicide rate was just 7.1 per 100,000. Chinese men also scored a high rate of 27.2 per 100,000, against a world average of 14.4.

In the West, the rate of male vs. female suicides is 3 to 1, though women attempt suicide more frequently, which suggests that men use more lethal methods. In China, however, there is no intermediate method, for every farmer's household has several bottles of pesticide strong enough to kill with just a few mouthfuls. The majority of rural women end their lives in this agonizing way.

Phillips' pilot project comprises three stages: investigating the causes of suicide; working out a suicide-prevention program; and implementing the program in the local community to see if it actually helps reduce the suicide rate. As a trained psychiatrist, Phillips stresses the importance of conducting psychiatric interviews with all concerned parties. He has found that, unlike in the West, where suicidal people often suffer from long-term depression, in a significant proportion of rural female suicide cases in China, the victim was not clinically depressed. Self-inflicted death is often a spontaneous, impulsive action.

No better solution

Xie believes that many suicides are really threats, or cries for help. She has encountered many stories like this one: A woman from Hebei complained bitterly about a tree that stood in the middle of her contracted land, obstructing her farming. Her repeated demands to local authorities to remove it were refused, so she threatened to kill herself. When no one listened, she went ahead and drank a fatal dose of pesticide. The tree was removed eventually, although too late for her.

Luo Xiaoping used to live in the same township as Luo Xiahua in south Hunan, where many Luo reside. Xiaoping had her photo taken with her friend Luo Xiangmei when they were teenagers. It used to be a happy picture, showing two pretty girls grinning broadly. Now, Xiangmei has only her half — the other side was cut off and used by Xiaoping's father at her funeral 10 years ago. After the girl's mother died giving birth to her, Xiaoping was brought up by her father and a brother 10 years her senior. Being poor and rather short, the brother had still not found a wife by his mid-20s. A matchmaker found another family with an unmarried brother and sister from a neighboring village for a swap marriage — the girls moving to live with the other family as daughters-in-law, thereby saving costly dowries for both families.

But Xiaoping returned to her father's house after two months of unhappy married life and flatly refused to return to her in-laws. When the in-laws' patience ran out, they raided Xiaoping's house and dragged her off on a tractor. Her caring, but helpless father went to check on her, but she had taken her own life with a bottle of lethal pesticide. Since she never said anything or left a suicide note, no one was precisely sure what had driven her to kill herself, the bossy mother-in-law or the bland husband. Her friends believe she saw no way out of a loveless marriage, particularly after she was deprived of sanctuary at her father's house. Her best friend, Luo Xiangmei, now settled in Beijing, said, "I wouldn't have killed myself if I were her. People found 100 yuan on her body. With that money, she could easily have gone to live or work with her relatives in Changsha, especially as there were no legal marriage papers. She was only 19, not even the legal age."

Her brother, now married with two children, will say little about the tragedy in which he played such an intimate part a decade ago. He did, however, say, "If I had known she would do that, I would have stayed a 'single stick' (bachelor) all my life."

Luo Xiangmei's mother remembers her dead daughter as "such a sweet girl. She was called by the ghosts," she says today. In the Shaodong area, suicide is so common, and often committed over such trifling matters, that people say the victim is called or haunted by the devil if they cannot find a better justification for it.

Naming the devil

In some cases, the devil can be identified as the strict family-planning policies set by the local authorities. Four years ago, one young woman with two children became a widow. She had been forcibly sterilized because, according to the policy, all women with two children must be sterilized. The operation was not only humiliating; it destroyed her chances of remarrying. At roughly the same time, another woman with two baby girls escaped to the city after she got pregnant again, since her mother-in-law was determined to have a grandson. When she came back home, disheartened with her third baby girl, she found their house had been demolished as a punishment for violating family-planning rules. Already desperate at her inability to produce a boy to inherit the family line (men are never blamed), she took this as the last blow and drowned herself in the river. The rule stipulating house demolition has now been banned. Another unlucky woman from Xiangshi village in northern Shaanxi Province got pregnant after she had been fitted with an intrauterine device. She was nevertheless forced to have an abortion and told to pay a 2,000 yuan fine. She swallowed pesticide instead.

As with all sensitive subjects in China, there are no reliable long-term statistics available by which to determine whether the problem is improving or deteriorating. Even in the Shaodong area, some contend that the number of suicide cases has actually gone down. Luo Xianzhi, an independent-minded 40-year-old widow with two children, credits improved living standards. "When life was as poor and hard as it used to be, women took their lives lightly," she said. "Whenever there was trouble, they tended to kill themselves. Also, men are often away now; without them bossing us around, we gain more freedom and confidence."

Some argue that, on the contrary, things are only getting worse in the wake of recent reforms. There are more economic risks (and people are more willing to take them); a large number of migrant workers are employed in the cities, leaving their wives at home; and gambling and prostitution are both on the rise. On the other hand, China has been much poorer in the past.

Both Phillips and Xie agree that the poorest areas are not necessarily the worst hit by the suicide problem. Young rural women, better educated, from better-off areas, are more vulnerable to suicide. As Xie points out, "If they were willing to live like their parents, there would be no problem. But the education they have had, and the access to the outside world, make them realize the gap between what life could be and what it is." She admits that there is a lack of social support. "So, whenever they run into trouble, having nowhere to turn, they tend to kill themselves."

2/3

The first suicide story in Rural Women Knowing All featured a 29-year-old woman named Liu Houlian from Dantu, a rich county in Jiangsu Province, renowned as "a land of fish and rice." Yet Liu was one of nine local women who committed suicide between June and September 1995. Married to a stupid, uncaring, inept husband who was a gambling addict, Liu fell in love with a decent young man. She summoned up the courage to file for divorce, but her husband opposed it and so did the local marriage-registry office. Undaunted, the woman moved into her lover's house, but was not made welcome by his conservative family. After many arguments, she finished her miserable life with a bottle of pesticide. Here was a woman who tried to change her fate, but failed.

The suicide issue is finally winning more attention in China. Phillips is encouraged by an increase in press coverage of the problem, and some counties have taken steps to control pesticides, but more remains to be done. "It is important to recognize it and do something about it," Phillips said. "Right now, if you talked to a psychiatrist, the psychiatrist would tell you it is a social issue; if you talked to the police, the police would say it is not a traffic accident, so there is nothing they can do. So it ends up in no one's ball park."

Xie Lihua is compiling a book from her "Light Life" columns, complete with tips on how to save pesticide victims, and sounds more optimistic. "We want to give rural women some hope," she said. "Before, a woman might think her fate was the worst in the world. After reading our magazine, she may realize there are other women who are suffering even more than she is. She might say to herself, 'If they could fight, and find a way out of their bad situations, why not me?'"

Lila MacLeod is a freelance writer living in Beijing. She last wrote for the Focus page on domestic violence in China.

END.

3/3

98.6.11. 東京

セクハラ訴訟 和解

米三菱自動車 数十億円、史上最高か

【ニューヨーク10日米井】米三菱自動車製造(MMA)本社・イリノイ州ノーマルと米連邦機関の雇用機会均等委員会(EEOC)は十日、両者間で争われていた同社女性従業員に対するセクハラ(性 harassment)訴訟(性別いせ)を和解した。和解金は約四千四百五十万(約四千四百五十万)と推定されている。この和解金は、同社の女性従業員に対するセクハラ訴訟史上最高額になった。EEOCはMMAの女性従業員百八十九人について、一人あたり最高三十万(約四千四百五十万)の損害賠償を求めた。一方、この訴訟を別に女性従業員二十九人が一九九〇年以降、男性の米人従業員らに女性従業員をわいせつな言葉や行動でからかっていた、あるいは性関係を強要していたと主張し、会社側はこれを否認していた。女性従業員らはEEOCに訴え、一九九六年四月、EEOCが一人あたり三十万(約四千四百五十万)の賠償を求めて提訴した。

【ニューヨーク10日米井】米雇用機会均等委員会(EEOC)と米三菱自動車製造(MMA)が正式に和解すれば、和解金は米国のセクハラ訴訟史上最高額になりそうだ。EEOCはMMAの女性従業員百八十九人について、一人あたり最高三十万(約四千四百五十万)の損害賠償を求めた。一方、この訴訟を別に女性従業員二十九人が一九九〇年以降、男性の米人従業員らに女性従業員をわいせつな言葉や行動でからかっていた、あるいは性関係を強要していたと主張し、会社側はこれを否認していた。女性従業員らはEEOCに訴え、一九九六年四月、EEOCが一人あたり三十万(約四千四百五十万)の賠償を求めて提訴した。

블레이, 英포로 日보상청구검토

토니 블레이 영국 총리는 10일 영국 정부가 일본을 상대로 2차대전중 일본군에 억류됐던 자국 포로에 대한 추가 보상을 요구할 것인지를 검토할 것이라고 밝혔다. 블레이 총리는 이날 일본에 대한 보상금 요구가 때늦은 것이 아니라는 주장을 펴고있는 일본군 포로 출신 재향군인 대표들을 접견한 자리에서 이같이 약속했다.

포로출신 재향군인 단체와 고문인 마틴 데이 변호사는 '영국정부는 이 문제를 일본 정부에 제기할 정치적 의지를 갖고 있음이 분명하다'고 전했다. /런던=연

ブレア英首相、英捕虜に対する日本への補償請求検討

ブレア英首相は、10日に英国政府が日本を相手に第二次大戦中日本軍に抑留された捕虜に対する追加補償要求を検討中であることを明らかにした。ブレア首相はこの日、日本に対する補償要求の遅滞を主張している旧捕虜の在郷軍人代表に接見した席で、このように約束した。

旧捕虜在郷軍人団体の顧問であるマーチン・ディ弁護士は、「英国政府は、この問題について日本に提議する政治的意志を持っていることは明らかである」と伝えた。(10面)



토니오猪木氏와 함께 支持를 호소하는 韓康一氏(左)

「在日外国人 地位向上위해 挑戦」

韓康一氏 参議選舉 出馬 辨

【大阪支社】スポーツ平和黨 候補로 7월 日本 参議選舉에 韓國名으로 出馬하는 韓康一氏(日本国籍取得者, 日本名 西原滋)가 1일 同黨 안토니오猪木氏, 西銘一幹事長, 金世澤駐大阪総領事, 李相均大阪韓商會長 등 3

00여명이 모인 가운데 출마 経緯와 動機 등을 설명하고 지지를 호소했다.

스포츠平和黨 比例區 候補 2위로 출마하는 韓氏는 「在日外国人 地位向上과 日本의 참된 國際化를 위해 日本 國會議員에 挑戰하게 됐다」고 밝혔다.

「在日外国人の地位向上のために挑戦」

韓康一氏 参議院選出場の辞

スポーツ平和黨の候補として、7月に行われる日本の参議院選挙に、韓国名で出馬する韓康一氏(日本国籍取得者、日本名・西原滋)が1日、同黨のアントニオ猪木氏、西銘一幹事長、金世澤駐大阪総領事、李相均大阪韓商會長等、300名が集まった中で、出馬の経緯と動機等を語り支持を訴えた。

スポーツ平和黨の比例区候補2位として出馬する韓氏は、「在日外国人の地位向上と日本の本当の意味での国際化のために、国会議員に挑戦することになった」と明らかにした。(日本版)

文学に負けない近現代史をめざす

秦 郁彦



東

東
東洋の文明は、
西の文明の輸入に
依るものではないか
と問ふことは、
東洋の文明の歴史
を研究するに當りて
必要である。東洋の
文明は、西の文明の
輸入に依るものではないか
と問ふことは、東洋の
文明の歴史を研究するに
當りて必要である。東洋の
文明は、西の文明の輸入に
依るものではないか
と問ふことは、東洋の
文明の歴史を研究するに
當りて必要である。

訪問

●土曜訪問

[illegible]

土曜

秋の中谷人にての東條元首相
若しくは結構に好きなんだが「東
條は東京裁判で有罪になったからそ
れ以前のこの契約は結んだ」と
と書て。

「紀伊フイルを売った「東京東
西」と製作された東條の映画を主
題に特約の契約。あれはドキュメ
ンタリーといふからフィクション
が混じっていた。中国の東條裁判が導
入されてこの映画化した。」と書て

虚構なし、面白い歴史書ける

「相対主義の立場で」

素さんは驚愕して、「政治のオモリ」「他慮」「曲解」ではないかと、
 チヤにされる歴史認識」という項を
 立てた。右も左も事実を認める勢力
 する。

[illegible]

要するに、今の歴史家の態度　自由は認められないが、私は歴史家
を「全権委任の憲法草案」より植民主義の立場をとらず、憲法
を認めて、「国策一貫」といふものがあるのはよい（中井 重忠）

史

[illegible]

無頼派揃い賭み

[illegible][illegible]

文 化

魔界

レイプ被害者が語り始めた

「心を救はれた私——レイブ・トラウマを克服して」を書いたのは、緑河実紗さん(以下、緑河さん)だ。三年前、フリーライターの仕事で初めて会った男性と飲食して帰る際に「レイブを貸して」と言われ、部屋で上着と下着に絡め込まれ、レイブされた。

悪寒、吐き気、不眠。レイプの瞬間が鮮烈にふみがえる「フラッシュバック」、過呼吸、過剰反応……時間がたつにつれ症状はひどくなった。

「私は汚れたった価値のないものなんだ。洗剤が着替るるがレイプされた女。中身は圧倒的な暴力でゴミみたいになされている」(本文から)

仕事以外は、ほとんど部屋で寝ている状態。告訴など、

とても考えられなかった。精神科医にも、どう対処していいかわからないと言われた。被害から一年半後、精神科医のJ・ハーマンさんの「心的外傷を回復」に出あった。PTSDの代表的な本だ。「あんな目にあえば、だれでもこうなる」。ようやく納得できた。不安や我慢は加害者への怒りに変わった。この体験を記録しておかねば、と一月間で原稿を三百枚書いた。本願寺維持財団主催の第四回還如堂に応募、佳作に。河出書房新社から出版された。

活字で映像で訴え

「麗子にはあえて「レイプ」と入れた。「苦しんでいる時、必死で回復の手がかりを探したが、見つかりませんでした。一人でも多くの被害者の目にとまって欲しいから」

滝戸マリコさん(三)は「**「X(ノンエス)の死因」**(8月、カラテ、二十分)を制作、出演。実験映像作品を集めたイメーシフフォーラム・フェスティバル88に入選した。

二本の脚の間に「手」が侵入し、内臓や肉をえぐり出すシーンから始まる。裂かれる、ストッキング。体が硬直し、逃げ切れない。おち吐、自殺未遂。よみがえる遠い記憶。「手」が幼女の人形の胸や下半身をなで回す……。

「君さんには由りかゝる美事から仕度を得た。十九歳の時にはレイプの被害にあつた。一人が信じられずいづとも不安で苦しかった。ずうと自分を卑下して来た」という。

「又」はセックス、生殖、身体、精神、性別、性など、自分が受け入れられなかつたいろんな「心」を扱う。作品づくりは、これをも具へめ直し、向き合い、生を導くせうとされた。勢ぞろいサッシュバックにさらされおどろしい作業だった。

「撮ることで、男の身体しみを抱えたままの自分でもいい、と思えるようになった。作品にでただけでも、よかつた」

表現は回復への一つの道

東京・麻布の「さいとうクリック」でレイプなどによる中絶の相談を受けている三鷹調子医師は、被害者が自らの体験を表現するまでは、P・R・Dから回復する一つの過程だという。そうしなければ生き延びられなかった。心の中で生まれ、必然的に出てきた作品なのです。」

昨年書業に届けられたレイフは約千六百件。「被書者の多くは届け出ていません。統計に表れる数字の少なさが実態をゆがませ、対策を遅らせている」と、小西響子・東京医科歯科大難治疾患研究所助教授は指摘する。「苦しんでいる被書者に、それはPTSDの症状だ、あな

たは悪くない」と説明してゐられる。其の要は血が増えてほしい」と

東京の「SSA」は、健康待のサバイバー（生き残つた人たち）による自助グループを活動を始め、日本トウモロコシ・サバイバーズ・ユニオン（JUSU）では、昨秋から電力ホットライン（〇三・三五八・一八二〇四、火・金午後二時から五時）を開設している。



「東京のシンボル」の死因のミステリー

98.6.13. 日経

戦時中 中南米から連行

日系人と米政府和解

賠償・謝罪へ

【ワシントン支局12日】第二次大戦中、ペルーなど中南米諸国から「国防上の理由」で米国に強制連行された日系移民が、米政府に賠償金と謝罪を求めていた問題が十二日、和解に達した。約六百人の日系人に、米政府が一人当たり五千ドルの賠償金を支払うとともに、謝罪するという内容の米国はブッシュ政権時代に、第二次大戦で強制収容された日系人への賠償と謝罪問題が十二日、和解に達した。約六百人の日系人に、米政府が一人当たり五千ドルの賠償金を支払うとともに、謝罪するという内容の米国はブッシュ政権時代に、第二次大戦で強制収容された日系人への賠償と謝罪問題が十二日、和解に達した。

を實施したが、中南米からの日系人は大戦中に市民権を持たなかったため適用から除外されていた。

クリントン大統領は同日、声明を出し、「日系人の歴史と、悲劇的な一幕だったことを認めて、今こそ誤りを正し、この悲劇のページを閉じなければならぬ」と強調した。

米国は第二次大戦中、ペルーなど中南米諸国に移住していた三千人以上の日系人を強制連行。テキサス州などの強制収容所などに収容した。

日本側が拘束した米国人捕虜との「交換要員」を確保するのが狙いだった、との見方もあり、戦争中に約八百人が捕虜交換で日本へ帰還した。

98.6.13. J.T.

LATIN AMERICAN REPARATIONS

War internees to get redress

SAN FRANCISCO (AP) The U.S. government will pay \$5,000 settlements and issue an apology to Japanese who were taken from their homes in Latin America and held in U.S. internment camps during World War II, a Justice Department official said.

"We've reached a settlement that we believe will redress a great injustice," said the official, who asked not to be identified. "It will provide for \$5,000 in compensation and an apology similar to the one received by other internees."

Japanese-Americans interned by the United States during the war were paid \$20,000 each in reparations under a 1988 federal law.

Details of the settlement were to be disclosed Friday.

"This is not a totally joyous

occasion," said Julie Small, cochair of the Campaign for Justice, a coalition backing the lawsuit. She was referring to the disparity between the amount paid to the Japanese-Latin Americans and the Japanese-Americans.

More than 2,200 Latin Americans, most of them of Japanese ancestry and a majority from Peru, were forcibly brought to the United States during the war.

Neither the administration of then President Franklin D. Roosevelt nor later administrations ever gave an official explanation for the removals and interments. After internment, some Japanese-Latin Americans were exchanged for U.S. prisoners of war held by Japan.

The suit, filed in a Los Angeles federal court in 1996,

sought equal treatment with Japanese-American internees. The 1988 federal reparations law covered only Japanese who were either U.S. citizens or legal U.S. residents at the time of their detention.

Small said the settlement covers surviving Japanese-Latin American internees and heirs of those who were alive on Aug. 10, 1988, when the reparations law was signed. She said the Campaign for Justice has contacted about 600 of them around the world and may find more.

Small said the only current source of payment for the settlement is the fund that was established for Japanese-American reparations.

She said government lawyers predicted as recently as four months ago that the suit would not be settled.

「上官信じた少年兵の恐怖」

検事　こんな人間抹殺を

油断石垣市(石垣島) 警務所に送られて「過酷な訓練」を受けていた	開国後にはよくて、米兵の火火に遭った。回覧の際に遺棄された三人は、取り調べを受けた後、月明かりの海、もう一人は木に縛り付けられたまま、数十人の目につけられ、
に住む小沢正盛さん(70)はこの事件当時十七歳の少男だった。海軍石垣島	は中尉と二人の兵隊で、いずれも干渉。空母艦載機機で石垣島を攻撃中、対空指揮官らの命令により
かながった「	

審判「最後の使徒兵」B
C發狂用因・田口藥正の悲劇（讀賣社）で、この事件を取り上げたジャーナリストの森口繁三氏は、「裁判が、被追害者出陣による合同運動で行われたため、下級の者が上層を打ち倒さうと真意を自由に述べず、大膽の有罪者を出す結果になった」と指摘する。「軍事委員長（裁判長）自ら被告に『米博覧会のほか斬首したか』など不事件とは無関係なことを聞くなど、法廷あての被告としてのありようであった」という。

とする日本軍隊の「伝説」と、精練の兵士に捕獲取極刑宣告を告げんと教えなかったことが引き起こした」とし、「上官が多くの部下を道連れにした山一野郎の姿に、石垣事件は現代社会の上中階級に通じるものがある」とも述べている。

小浜さんは、戦艦が三
年たった四七年八月、突然
運搬された。銃を持った兵
兵に押搦されての取り調べ
が行われた後、東京の巣穴
プリズン(後の巣鴨拘置所)
に移され、かつての上舎ら
四十五人とともに船組とし
て横濱監獄で拘留された。
公表される資料によると
と、被害の多くは女性で

河垣事件の下級兵の起訴状「フライング・ドッグ」の
 題のなぐ、名前が誤記つたことで公衆される

本兵から代わる代わる銃剣で突かれた。小浜さんたちで突かれた。若い兵は「次、突け」の命令で駆け寄るのみだった。この部隊の指揮官（大佐）は発狂した。

交通手段が少なく、食糧不足などでも長期収容でも過かかったと、独断で処刑を決めた理由を語っているが、捕虜の扱いを規定した国賊法に違反するとは明らかだった。

暴力や脅迫を用いた取り
 違ひ、置つてもいらないと
 言われた顧客に不満を訴
 えている。また、米国人主

法廷に於ても驚くことには違
きない」と云へられたが、さ
難題とする井筒を行った。

だが、四年三月の判決は、
は、小森さんを含め四十一
人を絞首刑とするものとなっ
た。一年が月後、小森さん
は高裁で重労働五年に減
刑されたが、執行の恐怖に
おびえた日々を過ごすこと
はできなかった。

★

「横事は誰にでも、チヤウ
いう人間たちは捕虜から採
殺してしまふ」という意味

✻

絞首刑になった指揮官の遺族が12年前に建てた戦争犠牲者慰霊碑（石垣島の桃林寺で）

「『愛が沸く』、愛が燃える状況の中で、正統な権威の者がいるでしょうか。正統な人間を作り出すのが戦争です。」「勝った国が戦争を導くんです。正統に勝った国を導くんです。正統に勝利が行われたと認識している者が」と

沖田と奥村、竹重が後援に入った小宮さんは、助勢まで務めて昨年、選挙に上り、その際、偏閣の諸前会を回すべく、代わりに則天の時間をももらった。大勢の議員の顔で、初めて磨る自らの体験。事件の存在すら知らないという善い職員に、小宮さんはいちいち頼り出た。

「善い職員は、戦争のなかで平和の大切さを磨いた」

河野

本立洋戦軍中の一九四三年から四四年にかけて、米国人捕虜との交渉と食糧確保のため、中南米十三ヶ国から日系人が米國に運送され、収容所に入れられたことは、米政府関連文書に明確に記されている。

と續けた結果、日清中國米人は「やむを得ず対象からはずされた」(日系米国人市民防衛)といふ。美國訴訟は、九六年八月、元日系ベル人らがロサンゼルスの上級地裁に提訴、その後、首都ワシ

日本に於て、今回の
訴訟なるは、田中氏の

一方で、中商米から輸
収された肝王二百六

人ときれる。朝鮮中の二
たり、米国人捕虜と交換さ
百六十五人のほか、戦後、
「良」として日本に強制送

選された人たちは九
百人以上のほると
いう。

日本では、今回の
訴訟なども国内での

動機については知らぬものであるもの
 謝罪・補償を要せらるる可能性の
 ある人とならば、まだかなりいると
 みられる。

米田清吉と原告は、土田、相
 澤内務の細部を公衆するが、今回
 の決定と申す方法を今後、どうし
 て外国人にならざるものか、注
 目される。

原告、謝罪を乞ふ、謝罪を謝らば、

なく、原告は、日米米国人を対象として「市民自由法」をよりどころにして難断を感ぜしたものが、同法は今年八月十五日までの時限立法であつたため、原告は、補償額が日米米国人の「二二二万」に比べて四分の一といふ少ない額にしかわらず、和解に踏み切つた。

日本の補償焦点に

しかし、「他國を侵略し、壓制せしむる犯罪」(原告は「五十年の歴史」)

式謝罪が行われるこの意味は大さういふ。そして、それが日米米国人による運動の成果を「ゴトとして實現した」という点を見過ごしてはならない。

米軍が歴史の汚点ともいふべきこの問題に決着をつけたことで、朝鮮人の強制連行や従軍慰安婦問題など戦後補償問題をいまだ引きずる日本への国際的視線が鋭くなるであらうともまた、預けてはならない。

日本の補償焦点に

7656 JMS

外務省「BC級」全容解明に道

戦犯裁判文書を公開

外務省は十五日、第三次二冊を公開する。東京裁判大戦後、連合国が東条英機、元首相ら旧日本政府・軍指し導者をA級戦犯として裁いた東京裁判（東条英機軍事裁判）とテシヤ・西太平洋各地で行われたC級戦犯裁判の概要を明らかにする外交文書百二十件、四百二十件だ。

深文書は、通商協定など四十
判例の動き、七か国・四
九法廷で行われた裁判記録
の二部、戦犯の釈放・赦免
を求める政府の動き、外地
法廷での弁護人報告など。
このうち、五年の外務
省連絡文書は「日本の
特に、日本軍に対する敵
対感情の激しかった戦後数

獄(約五百名)とあり、
 戦争中の連合国間捕虜の總
 数が、定説の三万五千四
 万人という数字を上回っ
 た。これを日本軍に与ふる捕
 虜虐待の結果として言へた連
 合軍は、各地の日本捕虜を
 収容所をはじめ、大將が
 ら民間人になつたまでも、
 懲罰犯として大量に逮捕、
 刑を下していった。

年間は、各地で戦犯被害者
 らへの虐待が繰り返され、
 虐待死、自殺が相次いだ記
 録も残されている。

外交文書公開は、七十六年
 以来、通算千四百回目。今回
 は、戦犯裁判記録以外、
 一九五〇年代から八〇年代
 を中心に、軍主として夫妻(今
 の天皇、皇后陛下)への防
 米などに関する文書も含ま

「文庫は東京・麻布の外交史料館で、マイクロフィルムにより複製される。」

98.6.13. 毎日

和解が成立

大戦中の収容所強制連行 米の謝罪と補償 国外日系人にも

【ロサンゼルス12日吉田弘之】第二次世界大戦中にペルーなど中南米諸国から米国の強制収容所に連行された日系人らが米政府に謝罪と補償を求めている裁判で、米政府は、国外に居住する日系人も対象とする和解案を提示、原告側は12日これを受け入れ和解が成立した。補償額は1人当たり約5000ドルとなる見込み

だ。米国の日系人強制収容問題は、戦後54年目にして全面決着へ向かう。原告団が12日にロサンゼルス市内で記者会見し、和解を発表する。第二次世界大戦中の日系人の強制収容問題では、1988年に日系人約8万1000人に1人当たり2万ドルの補償と大統領の公式謝罪を行っていたが、中南米在住の日系人のほとんどはこの範囲外とされていた。提携しているのは元日系ペルー人でロサンゼルス在住のカイメン・モチヅキさん(85)ら。86年8月、ロサンゼルス連邦地裁に提訴し、その後、ワシントンの連邦請求裁判所に移管されていた。関係者によると今回の政府提案は、日系米国人への謝罪・補償を定めた「市民自由法」(88年)を拡大適用する形を取る。和解成立について、モチヅキさんは毎日新聞の取材に「感無量です。さっさとなくなった両親の墓前に報告したい」と話した。

12日、ロサンゼルス市内で会見する原告の西本幸子さん(右)ら＝AP



和解補償金 1人72万円

98.6.13 毎日
南米日系人
米強制連行
【ロサンゼルス12日吉田弘之】第二次世界大戦中、南米ペルーなどから米国に強制連行された日系人らが米政府を相手に起こしていた訴訟で、原告側と司法省側が12日、ロサンゼルス市内で記者会見し、1人当たり5000ドル(約72万円)の補償金を支払うなどの和解内容を公表した。会見によると、補償額は

1人当たり5000ドルで、謝罪・補償の対象は、先に日系米国人に対する補償を決めた「市民自由法」制定時の1988年8月10日現在、生存していた被害者。その後、死亡した場合は配偶者や子供が資格を持つ。カリフォルニア州在住の原告の一人、西本幸子さんは84年「本来、日系米国人が受けたと同額の2万ドルの補償を受けるのが当然だと思う。しかし、政府の責任を認めさせ謝罪を導いただけでも勝利と評価したい」と話した。

98.6.13. 毎日(夕)

中南米の日系人戦後補償

1人500ドル支払いで和解

米政府、公式謝罪へ

【ニューヨーク12日永井昌三】第二次世界大戦中に米国の強制収容所に入れられた中南米の日系人らが米政府に補償を求めた訴訟で、原告と米政府の双方は十二日、政府が一人五千ドル(約七十一万円)の補償金を支払って公式謝罪することで和解した、と発表した。米国内の日系人への補償は既に行われており、戦後五十四年目ですべての日系人への補償が実施されることになった。

強制収容された日系人に対し、米政府は一九八八年の立法措置で一人当たり二万ドル(約二百九十万円)の補償を約束。しかし、対象は収容時に米の市民権・二州在住の日系人らが一

昨年八月、ロサンゼルス連邦地裁に提訴していた。

忍んできた人たちが和解に達することができて、喜ばしい一との談話を発表し

合意では立法措置の適用を拡大する形を取り、門松が発効した八八年八月時点の生存者または遺族全員を対象とする。原告の支援団体は六百人の所在を確認しているが、最終的には千人を超える見通しという。クリントン米大統領は同日、「深刻な不正義に耐え

だ」と語った。

しかし、補償金の財源と

なる基金は残り少なく、底

をついた時点で打ち切りと

されるため、全国に行き渡

るかどうかは危ぶまれている。



12日、米ロサンゼルス市内で、戦後補償問題の和解について記者会見する原告のアリス・ニシモトさん(中央)とカーメン・モチヅキさん(左端)＝共同

戦犯釈放 対米カードに

外交文書公開

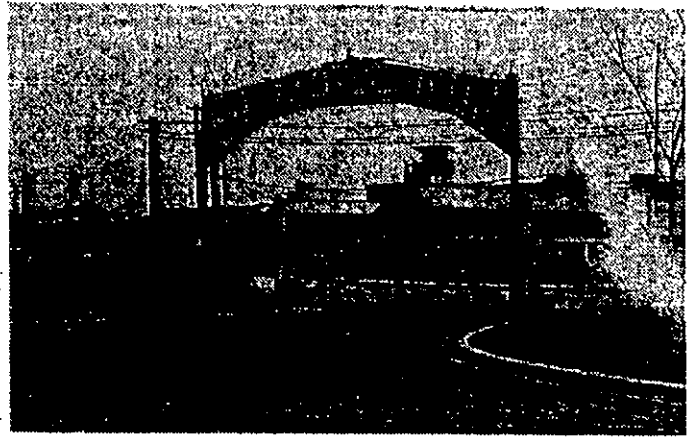
「軍備増強」要求受け

池田・ロバートソン会談 解決を申し入れ

日米両国が日本の軍備増強や経済援助について協議した1966年10月の「池田・ロバートソン会談」の原案が「軍備増強」の条件として、戦犯問題の解決を米側側に押しつけていたことが13日、外務省の戦犯釈放問題に関する文書で明らかになった。この会談で日米両国は戦犯問題に批判

的なきがかりの中、米側が35万人の軍備増強を求めたと知られているが、戦犯の確保に必要とされた日本側が「軍備増強」の条件として、戦犯問題の解決を米側側に押しつけていたことが13日、外務省の戦犯釈放問題に関する文書で明らかになった。この会談で日米両国は戦犯問題に批判

「軍備増強」要求を受け、池田・ロバートソン会談で解決を申し入れた。同会談をめぐって文書が、戦犯の確保に必要とされた日本側が「軍備増強」の条件として、戦犯問題の解決を米側側に押しつけていたことが13日、外務省の戦犯釈放問題に関する文書で明らかになった。この会談で日米両国は戦犯問題に批判



連合国裁判に協力

日本政府主権回復後も

外務省が13日公開した一連のB級裁判関係文書は、日本政府が連合国側の裁判に協力的な役割を果たしていたことが記録されている。日本政府の協力には、占領期の容疑者選捕や弁護士の選任・海外派遣などをめぐる裁判事務などのほか、サンフランシスコ平和条約締結で主権を回復した後に連合国に代わる刑の執行まで続いた。一連の動きは、連合国による「勝者の裁き」と一体であったものといえる。

1948年1月26日、内務省第二局警備部長交通課長が各都道府県警察に11日間の日程で「未選捕戦犯人の一斉捜査実施」を指示した。指示文書では、48年以來4回にわたる一斉捜査などで「指名総数2524名(昨年未選捕)に対し未選捕に達しない者は、180名に過ぎない」と成果を誇る一方で、残る未選捕者の「留守者の捜査」にあたり「フライバシー」

「墨塗り」がやたらと目につく文書が公開された。外務省が保存していたB級裁判の資料で、一般公開にあたり「フライバシー」を理由に消した部分だ。3月段階では公開リストに入っていた「昭和条約発効後における本邦人戦犯取扱い関係件(台湾人・韓国人関係(二分冊))」など公開を忌められた文書もある。14回目を迎えた外交文書の公開は、怒濤的な戦後行政の実態をさらけ出し、少なからず課題を残した。

外交文書の公開は「作成後30年を経過した文書」を対象に、1976年から始まった。同省の内規では、国の重大な利益が害される場合の個人の利益(フライバシー)が損なわれる場合は対象から除外する。

「墨塗り」目立つ資料

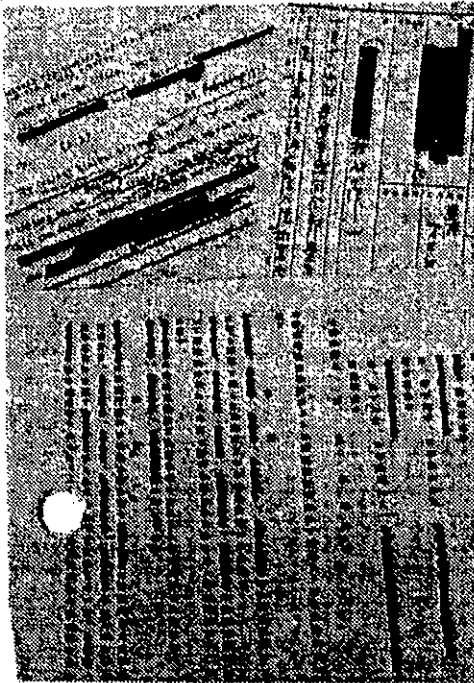
「台湾・韓国」関係は非公開

情報開示に課題

お墨を引く中で、国民の関心が高いからだ。未公開にする中で日本に対する不信任を増幅しかねない。そもそも外務省の「墨塗り」基準自体も、きわめてあいまいだ。今回公開された「本邦戦犯裁判関係案件」起訴状況については、被告の名前だけが消されたケース、容疑事件の発生場所まで消したケースとばらつきがあった。「外地における本邦戦犯人の軍事裁判関係」中国の部判決文(以下)では日本軍人の被告名が伏せられる一方で、日本兵に横行された中国人女性の名前がそのまま出ている。また、これまでの公開文書では日米安保条約、日ソ国交回復交渉などの関連文書を「現在の外交に影響を与えない」として封印してきたが、今回公開された61年の日印首脳会談の記録で、田島秀三首相が北方領土問題を説明した部分まで消している。なぜ今の日露交渉に影響するのかわかりにくい。

継続審議となった情報公開法案は、特定の個人を識別できる情報や外交・防衛に関する文書を原則不開示とした。今回の不透明な処理を受け、今後、微妙な文書は一括して非公開扱いされる懸念も出ている。官報力の源泉である情報を国民にどこまで開示すべきなのか、今後、国会での真剣な論議が求められる。

【山田 研】



公開された外務省の文書にはあちこちに墨塗り部分がある

「墨塗り」がやたらと目につく文書が公開された。外務省が保存していたB級裁判の資料で、一般公開にあたり「フライバシー」を理由に消した部分だ。3月段階では公開リストに入っていた「昭和条約発効後における本邦人戦犯取扱い関係件(台湾人・韓国人関係(二分冊))」など公開を忌められた文書もある。14回目を迎えた外交文書の公開は、怒濤的な戦後行政の実態をさらけ出し、少なからず課題を残した。

外交文書の公開は「作成後30年を経過した文書」を対象に、1976年から始まった。同省の内規では、国の重大な利益が害される場合の個人の利益(フライバシー)が損なわれる場合は対象から除外する。

「墨塗り」がやたらと目につく文書が公開された。外務省が保存していたB級裁判の資料で、一般公開にあたり「フライバシー」を理由に消した部分だ。3月段階では公開リストに入っていた「昭和条約発効後における本邦人戦犯取扱い関係件(台湾人・韓国人関係(二分冊))」など公開を忌められた文書もある。14回目を迎えた外交文書の公開は、怒濤的な戦後行政の実態をさらけ出し、少なからず課題を残した。

強制送還者に
謝罪と補償金

【ロサンゼルス12日】第
九條「第二次世界大戦
中、「捕虜交換要員」とし
てベルギー・中南米から米
国に強制送還された日系人
が、米政府に謝罪と補償金
を求めていた集団訴訟で、

在住のカルメン・望月さん
（公認関係者によると、米
政府の謝罪は、補償金の支
払いと同時に手紙の形で渡
される。だが補償金は一人
五千で、当時米市民権な
どを持っていた日系人より
少ない。しかも基金不足
で、補償金が対象者全員に
渡るかどうか分からないと
いう。

「ようやく戦争終わった」

中南米からの
日系人連行 和解に感慨深げ

第二次大戦中、捕虜交換
の目的でベルギー・中南米
十三か国から米国に強制送
還された日系人に対し、米
政府は十一日、被擄者全員
に謝罪と一人当たり五千が
の補償金を支払うことを決
めた。日本国内の関係者
も「私たちにとっての太平
洋戦争がようやく終わった
思いを述べた。

米政府に謝罪と補償を求
め裁判を起こした原告の一
人、杉本政治さん（81）（東
京都江戸川区）は戦前、ペ
ルーの首都リマで兄弟で牛
乳店を経営していた。日米
開戦後の一九四二年六月
十四日早朝、突然スパイ容
疑で捕虜に連行され、テキ
サス州・ケネディ牧場所に
送られた。連戦免許証や外
国人登録証は没収され、着
の身はのまま。一年三か月
の収容所生活を送った後、
四三年九月、ニューヨ
ークから捕虜交換船に乗せ
られ、インド・ゴアで日本
船に引き渡された。帰国し
てからは、戦後の兵隊とし
て満州（現中国東北）で
戦った。

「人権と民主主義の国ア
メリカらしく責任を明らかに
するべきだ」と思い、原告
に名前を連ねた。国の政治
に人生を振り回される人間
は私たちの世にたくさんあ
ってほしい」としみじみ話
していた。

関係者によくと、中南米
十三か国から米本土に強制
連行された日系人一千二百
六十四人のうち、戦時中、
捕虜交換船で八百六十五
人、さらに約九百人が戦後
までもなく日本に戻ったとい
う。

98.6.14. 毎日

連合国軍総司令部（GHQ）の
占領下で「戦犯は犯罪人」との認
識を示していた日本政府が、主権
を回復するサンフランシスコ平和
条約調印（一九五一年九月八日）
後、一転して「戦犯は国内法上の
犯罪者ではない」とし、「便法的
取り扱い」（海外連絡会議）で公職
追放解除、選挙権の回復、恩給の支
給など戦犯の復権を推し進めた経
緯が公開文書で明らか
になった。

平和条約調印で

同条約第11条で連
合国は、日本に対し
軍事裁判の受納と刑
の執行を求めたが、
条約の最終草案が示
された五一年七月以
降、「一、条約をA.C.C.
E.P.T.（受け入れる）
した場合、戦犯者は
国内法上も犯罪人と
認めなければならない
のか」（五一年七月
16日、復旧局）とい
う問題に突き当たっ
た。

戦犯復権に「便法的」措置

「国内法上も犯罪」政府見解「一変」

それ以前は、GHQ
に呼び出された連
合国軍憲兵が「仰
せのことで戦犯者は
犯罪人（五一年九月）
と説明したり、戦犯
を「強盗」（同）に
引きつけていた。
しかし、最終草案
の提示後、政府は戦
犯の国内法上の扱い
について「軍法に起
業してはいない事項を、当方の解釈
を元として相手国に提示すること
は著る不利」（五一年七月27日、同
議）との判断に傾く。

その結果、条約調印後は「外国
の裁判を講和発効後、そのまま認
めるわけにはいかなければ、何ら
かの便法的取り扱いを決めておく
必要」（同年九月28日、第25回
外務省連絡会議）が出てきたわけだ。
「戦犯は国内法上の犯罪者では
ない」との解釈を確立した日本は、
さらに条約第11条に基づき制定し
た「刑の執行及び赦免等に関する
法律」（条約発効と同
時に施行）の改正に乗り
出した。戦犯の一時
出所の条件緩和などを
狙ったもので、提案理
由では「勝者の敗者に
対して行われた裁判で
あり、公正に行われた
とは考えられない」「手
続きにおいて十分な弁
護の余地が行われな
かった」など戦争裁判の
非の部分を強調し
た。

提案理由の草案とあ
られる文中には「大東
亜戦争の責任ありとす
れば現在憲法に抵触す
る八百の戦犯が刑罰の
みに限すべきでな
く、日本人全体の責任
でもあると考えられ
る」との表現もある。
議案は五二年九月に成立
したが、米軍から「条
約違反」との指摘を受
け、運用面では従来
通りとするで批判
をかわした。

ドイツとの違いが分る

福田久・神戸大教授（国際法）
の「条約の解釈をあいまいに
し、国内法で救える部分は救いた
い」という意図が読み取れる。戦犯
の家族からの突き上げや国内世論
を背景に、日本の利益を代弁してい
る。「戦時中に強制でやられた」
という感情がみえ、国内法上の犯
罪とどうして自国で戦犯を処罰し
てきたドイツとの違いが分る。

男女共同参画社会基本法

是正勧告へ「オンスブスパーソン」提言

首相の諮問機関「男女共同参画審議会」(会長・岩男輝子、学心大教授)は十六日、来年度の通商開会に提出する予定の「男女共同参画社会基本法」(仮称)の論点整理(中間報告)を発送した。雇用など不利益な立場に置かれていた女性に特別な機会を提供する積極的参画促進措置(ポジティブアクション)や中立的な立場からは

審議会が論点公表

正勧告を行うオンスブスパーソン制度の創設などを盛り込むべきだと提示している。審議会は今後、市民の意見も踏まえて、法案化の詰めを行う予定だ。

女性採用促す優遇措置設定も

基本法は、男女が対等な立場で、社会のあらゆる分野の活動に積極的に参加する「男女共同参画社会」に

別な優遇措置を設けることで、実質的に機会均等を図る考え。外国でも法制化するケースが増えている。

オンスブスパーソン制度は、基本法が示す理念に反するものなケースについて、国民からの苦情を受け付け、原因究明と是正勧告を行うもの。国に制度の充足を義務づける。このほか、基本法に盛り込むべき内容として、①政府による基本計画の策定と国会への年次報告の国際機関や地方公共団体、民間団体との連携——などをあげている。

同審議会は今月末から、東京、青森、北九州、福井、名古屋の五カ所で市民との意見交換会を開くほか、七月三十一日まで郵便やFAXで意見を受け付ける。問い合わせ先は総理府男女共同参画室(〇三—三五八一—一八一二)。

男女共同参画社会 国連が女性の地位向上のために定めた1975年の「国際婦人年」に端を発する。日本政府は村山内閣の94年7月、男女共同参画推進本部(本部長・首相)を設置し、男女共同参画審議会に具体策を諮問。94年7月に、同審議会は橋本龍太郎首相に「男女共同参画ビジョン」を答申し、「共同参画型社会実現を促進するための基本法的な法律について速やかに検討を進めるべきだ」とした。

カナダは人の道を説く

【ローマ16日】村上伸二

世界中的非人道的な犯罪を数多く国際刑事裁判所(ICC)を設立するためローマで始まった外交会議で、昨年の対人地雷全面禁止条約を主導したカナダが再び活発な動きを見せ始めている。

カナダは犯罪の国際法の利害に左右されない独立性のある裁判所を求めて、最も明確な主張を展開することにも、アフリカなど最貧国の政府代表や人権問題に取り組む非政府組織(NGO)も会議に参加できるように、旅費や滞在費を資金援助した。政治的影響を排除した国際刑事裁判所の設立には米仏両国が消極的だが、アックスワージー・カナダ外相は「原則を譲り返して表明して国際法を強めていく」と意気込みを語っている。

国際刑事裁判所の独立性訴え

外交会議初日の十五日に演説したアックスワージー外相は、最大の対立点になっている裁判所の管轄と国家主権、国際安全保障理事会との関係について、①関係国の同意の有無にかかわらず「集団殺害(ジェノサイド)罪」と「人道に対する罪」「戦争犯罪」に管轄を持つ②安保理は懸念事項の調査を始めようとする指示を受けるが、逆に安保理が裁判所の捜査、訴追手続を止めようとするべきではない——と最大限の独立性を裁判所に与えるよう訴えた。

また、裁判所の捜査官にNGOなどからの情報に基づいても独自に捜査を開始できる権限を認めるよう主張した。この点について米仏は日本は、国際刑事裁判所設立条約の国際法では国家間の紛争で起る犯罪に限り、対人地雷禁止条約の管轄範囲に限定する。また、米仏などに対しては「人道に反する根本的な問題の責任から免れることはできない。国際刑事裁判所は将来の犯罪の抑止力にもなり、設立は(国際の平和と安全に責任を持つ)大国の政治的義務でもある」と訴えた。

ローマの「地雷」に続く積極外交